

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	研究科の設置							
フリガナ設置者	コウリツダガクホウジン ワカヤマケンリツイカダガク 公立大学法人 和歌山県立医科大学							
フリガナ大学の名称	ワカヤマケンリツイカダガク 和歌山県立医科大学大学院							
大学本部の位置	和歌山県和歌山市紀三井寺811番地1							
大学の目的	和歌山県立医科大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)にのっとり、学校教育法(昭和22年法律第26号)に定める大学として、医学、保健看護学及び薬学に関する学術知識を教授、研究し、もって文化の発展と社会の福祉に寄与することを目的としている。							
新設学部等の目的	和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	医学薬学総合研究科	年	人	年次人	人		年月 第 年次	
	生命医療学専攻博士課程	4	35	—	140	博士(医学) 博士(薬学)	令和6年4月 第1年次	和歌山県和歌山市紀三井寺811番地1
	生命医療科学専攻博士前期課程	2	14	—	28	修士(医科学) 修士(薬科学)	令和6年4月 第1年次	和歌山県和歌山市七番丁25番1 和歌山県和歌山市三葛580番地
	生命医療科学専攻博士後期課程	3	7	—	21	博士(医科学) 博士(薬科学)	令和6年4月 第1年次	
	計		56		189			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	医学研究科(廃止) 医科学専攻 (△14) 地域医療総合医学専攻 (△14) 構造機能医学専攻 (△10) 器官病態医学専攻 (△18) ※令和6年4月学生募集停止							
	【基礎となる学部】 ・医学部医学科 ・薬学部薬学科 14条特例の実施							

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
教育課程	医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 博士課程	19科目	30科目	0科目	49科目	35単位		
	医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 博士前期課程	22科目	20科目	0科目	42科目	31単位		
	医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 博士後期課程	16科目	20科目	0科目	36科目	23単位		
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等
	新設	医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 博士課程	教授	准教授	講師	助教	計	助手
			人	人	人	人	人	人
	既設	保健看護学研究科 保健看護学専攻 博士前期課程	13	7	0	0	20	0
			(13)	(7)	(0)	(0)	(20)	(0)
			13	4	0	0	17	0
	分	保健看護学研究科 保健看護学専攻 博士後期課程	(13)	(4)	(0)	(0)	(17)	(0)
			9	28	25	5	67	0
			(9)	(29)	(25)	(5)	(68)	(0)
	計		54	51	73	22	200	0
		(63)	(55)	(73)	(22)	(213)	(0)	
合計		67	58	73	22	220	0	
		(76)	(62)	(73)	(22)	(233)	(0)	
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任		計		
	事務職員		178人	321人		499人		
			(178)	(321)		(499)		
	技術職員		1,225人	144人		1,369人		
			(1,225)	(144)		(1,369)		
	図書館専門職員		3人	6人		9人		
		(3)	(6)		(9)			
その他の職員		0人	3人		3人			
		(0)	(3)		(3)			
計		1,406人	474人		1,880人			
		(1,406)	(474)		(1,880)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	15,998.11㎡	0㎡	0㎡	15,998.11㎡			
	運動場用地	24,026.00㎡	0㎡	0㎡	24,026.00㎡			
	小計	40,024.11㎡	0㎡	0㎡	40,024.11㎡			
	その他	81,422.08㎡	0㎡	0㎡	81,422.08㎡			
	合計	121,446.19㎡	0㎡	0㎡	121,446.19㎡			
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	71,799.22㎡ (71,799.22㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	71,799.22㎡ (71,799.22㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	18室	14室	44室	4室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数				
	医学薬学総合研究科			64室				

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	医学薬学総合研究科	183,709 [73,371] (182,178 [73,237])	15,391 [9,500] (15,391 [9,500])	8,078 [6,567] (8,078 [6,567])	2,811 (2,793)	0 (0)	0 (0)			
	計	183,709 [73,371] (182,178 [73,237])	15,391 [9,500] (15,391 [9,500])	8,078 [6,567] (8,078 [6,567])	2,811 (2,793)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積 3,831m ²		閲覧座席数 272		収納可能冊数 318,278		大学全体		
体育館		面積 3,051.42 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート3面		-				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・研究科単位での算出が不能なため学部との合計 ・図書購入費は電子ジャーナル及びデータベース整備費を含む。
		教員1人当たり研究費等		760千円	760千円	760千円	760千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		51,681千円	51,681千円	51,681千円	51,681千円	-千円	-千円	
		図書購入費	215,250千円	232,673千円	251,837千円	272,918千円	296,108千円	-千円	-千円	
	設備購入費	182,081千円	80,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	-千円	-千円		
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		生命医療学専攻博士課程：修業年限4年 生命医療科学専攻博士前期課程：修業年限2年 生命医療科学専攻博士後期課程：修業年限3年	
学生納付金以外の維持方法の概要			和歌山県からの運営交付金を充当							
既設大学等の状況	大学の名称		和歌山県立医科大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	医学部医学科	6年	100人	-	600人	学士(医学)	1.04倍	昭和27年度	和歌山市紀三井寺811-1	
	保健看護学部保健看護学科	4年	80人	-	320人	学士(保健看護学)	1.00倍	平成16年度	和歌山市三葛580	
	薬学部薬学科	6年	100人	-	200人	学士(薬学)	0.99倍	令和3年度	和歌山市七番丁25-1	
	医学研究科医科学専攻修士課程	2年	14人	-	28人	修士(医科学)	0.42倍	平成17年度	和歌山市紀三井寺811-1	
	医学研究科地域医療総合医学専攻博士課程	4年	14人	-	56人	博士(医学)	0.87倍	平成17年度	和歌山市紀三井寺811-1	
	医学研究科構造機能医学専攻博士課程	4年	10人	-	40人	博士(医学)	0.12倍	平成17年度	和歌山市紀三井寺811-1	
	医学研究科器官病態医学専攻博士課程	4年	18人	-	72人	博士(医学)	1.31倍	平成17年度	和歌山市紀三井寺811-1	
	保健看護学研究科保健看護学専攻博士前期課程	2年	12人	-	24人	修士(保健看護学)	0.41倍	平成20年度	和歌山市三葛580	
保健看護学研究科保健看護学専攻博士後期課程	3年	3人	-	9人	博士(保健看護学)	2.66倍	平成25年度	和歌山市三葛580		
附属施設の概要	名称：次世代医療研究センター 所在地：和歌山市紀三井寺811-1 設置年月：令和3年4月									
	名称：和歌山県立医科大学附属病院 所在地：和歌山市紀三井寺811-1 設置年月：昭和20年4月									
	区分		構造		建築面積(m ²)	延床面積(m ²)				
	附属病院(中央棟)		S造 地下1階 一部S R造 地上14階 塔屋2階		10,922.82	84,530.76				
附属病院(東棟)		R C造 地上5階		1,276.51	5,298.89					
合計面積				12,269.33	89,829.65					
名称：和歌山県立医科大学薬学部附属薬用植物園 規模：659m ² 所在地：和歌山県岩出市東坂本672 和歌山県植物公園緑花センター 設置年月：令和3年4月										

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	研究倫理・医療倫理学B	1前	1			○			5	1	1			兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	多職種連携B	1前	1			○			2	2	1				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	医療情報リテラシーB	1前	1			○			2		1				オムニバス・メディア	
	小計（3科目）	—	3	0	0	—	—	—	9	3	3	0	0	兼5	—	
ベーシック科目	発展的研究方法論	1前	1			○			2	1	1			兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	疫学方法特論	1前	1			○			2					兼2	オムニバス・メディア	
	Advanced Academic English	1後	1			○								兼3	オムニバス・メディア	
	基礎医学・薬学特論Ⅰ	1前		1		○			3	1	3			兼1	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	基礎医学・薬学特論Ⅱ	1後		1		○			3	2				兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	地域医療課題特論Ⅰ	1前		1		○			5	1	1				オムニバス・メディア	
	地域医療課題特論Ⅱ	1後		1		○			5					兼2	オムニバス・メディア	
	小計（7科目）	—	3	4	0	—	—	—	19	4	4	0	0	兼14	—	
専門科目	医系型	分子生命科学特論	1前		1		○			2						オムニバス・メディア
		感染症学特論	1前		1		○			4	1	1			兼1	オムニバス・メディア
		病理病態学特論B	1前		1		○				1				兼2	オムニバス・メディア
		腫瘍学特論	1後		1		○				4	4				オムニバス・メディア
	薬系型	最新臨床薬理学特論	1前		1		○			3					兼1	オムニバス・共同（一部）・メディア
		免疫・発がん特論	1前		1		○			2					兼1	オムニバス・メディア
		神経再生・発生・疾患学特論	1後		1		○			2	1	1				オムニバス・メディア
	統合型	死因究明学特論	1後		1		○			2	1	2			兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア
		医療データサイエンス学特論B	1前		1		○			1					兼3	オムニバス・メディア
	小計（9科目）	—	0	9	0	—	—	—	16	7	8	0	0	兼11	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
特別 科目	A区分	社会医学特別演習Ⅰ		2			○		3	1	1	1		兼3	
		形態機能医学特別演習Ⅰ		2			○		4	2	2	5		兼5	
		細胞分子機能医学特別演習Ⅰ		2			○		4	2	3	1		兼2	
	B区分	総合医療医学特別演習Ⅰ		2			○		3	4	4			兼4	
		器官病態内科学特別演習Ⅰ		2			○		8	7	16	3		兼11	
		器官病態外科学特別演習Ⅰ		2			○		9	7	15	2		兼10	
	C区分	物理・化学薬学特別演習Ⅰ		2			○		3					兼3	
		生命薬学特別演習Ⅰ		2			○		2	2	2			兼2	
	D区分	医療薬学特別演習Ⅰ		2			○		3		1			兼2	
		臨床・社会薬学特別演習Ⅰ		2			○		6		1			兼3	
	A区分	社会医学特別演習Ⅱ		2			○		3	1	1	1		兼3	
		形態機能医学特別演習Ⅱ		2			○		4	2	2	5		兼5	
		細胞分子機能医学特別演習Ⅱ		2			○		4	2	3	1		兼2	
	B区分	総合医療医学特別演習Ⅱ		2			○		3	4	4			兼4	
		器官病態内科学特別演習Ⅱ		2			○		8	7	16	3		兼11	
		器官病態外科学特別演習Ⅱ		2			○		9	7	15	2		兼10	
	C区分	物理・化学薬学特別演習Ⅱ		2			○		3					兼3	
		生命薬学特別演習Ⅱ		2			○		2	2	2			兼2	
	D区分	医療薬学特別演習Ⅱ		2			○		3		1			兼2	
		臨床・社会薬学特別演習Ⅱ		2			○		6		1			兼3	
	A区分	社会医学特別研究	1～4通		14			○		3	1	1	1		兼3
		形態機能医学特別研究	1～4通		14			○		4	2	2	5		兼5
		細胞分子機能医学特別研究	1～4通		14			○		4	2	3			兼2
	B区分	総合医療医学特別研究	1～4通		14			○		3	4	3			兼4
		器官病態内科学特別研究	1～4通		14			○		8	7	16	2		兼11
		器官病態外科学特別研究	1～4通		14			○		9	7	15	2		兼10
	C区分	物理・化学薬学特別研究	1～4通		14			○		3					兼3
		生命薬学特別研究	1～4通		14			○		2	2	2			兼2
	D区分	医療薬学特別研究	1～4通		14			○		3		1			兼2
		臨床・社会薬学特別研究	1～4通		14			○		6		1			兼3
	小計(30科目)	—	0	180	0		—		45	23	45	12	0	兼45	—
合計(49科目)		—	6	193	0		—		45	23	45	12	0	兼57	—
学位又は称号		博士(医学)、博士(薬学)		学位又は学科の分野				医学関係、薬学関係							

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
本課程に4年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目5単位以上、専門科目5単位以上、特別科目のうち特別演習Ⅰを6単位(主科目:2単位、副科目1:2単位、副科目2:2単位)、特別演習Ⅱを2単位(主科目)、特別研究を14単位(主科目)、合計35単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。 ○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。 ○専門科目 先進医学プログラム選択生:医系型科目から3単位以上、薬系型科目から1単位以上、統合型科目から1単位以上を履修すること。 先進薬学プログラム選択生:医系型科目から1単位以上、薬系型科目必修3単位、統合型科目から1単位以上を履修すること。						1学年の学期区分					2期			
						1学期の授業期間					15週			
						1時限の授業時間					90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															紀三井寺キャンパス	
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	研究倫理・医療倫理学B	1前	1			○			5	1	1				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	多職種連携B	1前	1			○			2	2	1				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	医療情報リテラシーB	1前	1			○			2		1				オムニバス・メディア	
	小計（3科目）	—	3	0	0	—			9	3	3	0	0	兼5	—	
ベーシック科目	発展的研究方法論	1前	1			○			2	1	1				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	疫学方法特論	1前	1			○			2						オムニバス・メディア	
	Advanced Academic English	1後	1			○									オムニバス・メディア	
	基礎医学・薬学特論Ⅰ	1前		1		○			3	1	3				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	基礎医学・薬学特論Ⅱ	1後		1		○			3	2					オムニバス・共同（一部）・メディア	
	地域医療課題特論Ⅰ	1前		1		○			5	1	1				オムニバス・メディア	
	地域医療課題特論Ⅱ	1後		1		○			5						オムニバス・メディア	
小計（7科目）	—	3	4	0	—			19	4	4	0	0	兼14	—		
専門科目	医系型	分子生命科学特論	1前		1		○		2						オムニバス・メディア	
	感染症学特論	1前		1		○		4	1	1					オムニバス・メディア	
	病理病態学特論B	1前		1		○				1					オムニバス・メディア	
	腫瘍学特論	1後		1		○				4	4				オムニバス・メディア	
	統合型	死因究明学特論	1後		1		○		2	1	2				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	医療データサイエンス学特論B	1前		1		○			1						オムニバス・メディア	
小計（6科目）	—	0	6	0	—			9	6	7	0	0	兼9	—		
特別科目	A区分	社会医学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	3	1	1	1			兼3	
	形態機能医学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	4	2	2	5				兼5	
	細胞分子機能医学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	3	1	3	1				兼2	
	B区分	総合医療医学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	3	4	4					兼4
	器官病態内科学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	8	7	16	3				兼11	
	器官病態外科学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	9	7	15	2				兼10	
	A区分	社会医学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	3	1	1	1				兼3
形態機能医学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	4	2	2	5				兼5		
細胞分子機能医学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	3	1	3	1				兼2		

教 育 課 程 等 の 概 要

紀三井寺キャンパス

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
B区分	総合医療医学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○		3	4	4			兼4	
	器官病態内科学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○		8	7	16	3		兼11	
	器官病態外科学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○		9	7	15	2		兼10	
A区分	社会医学特別研究	1～4通		14			○		3	1	1	1		兼3	
	形態機能医学特別研究	1～4通		14			○		4	2	2	5		兼5	
	細胞分子機能医学特別研究	1～4通		14			○		3	1	3			兼2	
B区分	総合医療医学特別研究	1～4通		14			○		3	4	3			兼4	
	器官病態内科学特別研究	1～4通		14			○		8	7	16	2		兼11	
	器官病態外科学特別研究	1～4通		14			○		9	7	15	2		兼10	
小計 (18科目)		—	0	108	0		—		30	20	41	12	0	兼35	—
合計 (34科目)		—	6	118	0		—		39	22	44	12	0	兼53	—
学位又は称号		博士(医学)、博士(薬学)		学位又は学科の分野			医学関係、薬学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>本課程に4年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目5単位以上、専門科目5単位以上、特別科目のうち特別演習Ⅰを6単位(主科目:2単位、副科目1:2単位、副科目2:2単位)、特別演習Ⅱを2単位(主科目)、特別研究を14単位(主科目)、合計35単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。</p> <p>○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。</p> <p>○専門科目 先進医学プログラム選択生:医系型科目から3単位以上、薬系型科目から1単位以上、統合型科目から1単位以上を履修すること。 先進薬学プログラム選択生:医系型科目から1単位以上、薬系型科目必修3単位、統合型科目から1単位以上を履修すること。</p>							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														伏虎キャンパス			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	研究倫理・医療倫理学B	1前	1			○			5	1	1				兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	多職種連携B	1前	1			○			2	2	1					兼2	オムニバス・共同（一部）・メディア
	医療情報リテラシーB	1前	1			○			2		1					兼2	オムニバス・メディア
	小計（3科目）	—	3	0	0	—	—	—	9	3	3	0	0	兼5	—		
ベーシック科目	発展的研究方法論	1前	1			○			2	1	1				兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	疫学方法特論	1前	1			○			2						兼2	オムニバス・メディア	
	Advanced Academic English	1後	1			○									兼3	オムニバス・メディア	
	基礎医学・薬学特論Ⅰ	1前		1		○			3	1	3				兼1	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	基礎医学・薬学特論Ⅱ	1後		1		○			3	2					兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	地域医療課題特論Ⅰ	1前		1		○			5	1	1					兼2	オムニバス・メディア
	地域医療課題特論Ⅱ	1後		1		○			5						兼2	オムニバス・メディア	
小計（7科目）	—	3	4	0	—	—	—	19	4	4	0	0	兼14	—			
専門科目	薬系型																
	最新臨床薬理学特論	1前		1		○			3						兼1	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	免疫・発がん特論	1前		1		○			2						兼1	オムニバス・メディア	
	神経再生・発生・疾患学特論	1後		1		○			2	1	1					兼2	オムニバス・メディア
	統合型																
死因究明学特論	1後		1		○			2	1	2				兼3	オムニバス・共同（一部）・メディア		
医療データサイエンス学特論B	1前		1		○			1						兼3	オムニバス・メディア		
小計（5科目）	—	0	5	0	—	—	—	10	2	3	0	0	兼8	—			
特別科目	C区分	物理・化学薬学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	3						兼3		
		生命薬学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	2	2	2				兼2		
	D区分	医療薬学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	3		1				兼2		
		臨床・社会薬学特別演習Ⅰ	1～2通		2			○	6		1				兼3		
	C区分	物理・化学薬学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	3						兼3		
		生命薬学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	2	2	2				兼2		
	D区分	医療薬学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	3		1				兼2		
		臨床・社会薬学特別演習Ⅱ	1～2通		2			○	6		1				兼3		

教 育 課 程 等 の 概 要

伏虎キャンパス

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
C区分	物理・化学薬学特別研究	1～4通		14			○		3						兼3
	生命薬学特別研究	1～4通		14			○		2	2	2				兼2
D区分	医療薬学特別研究	1～4通		14			○		3		1				兼2
	臨床・社会薬学特別研究	1～4通		14			○		6		1				兼3
	小計 (12科目)	—	0	72	0		—		14	2	4	0	0		兼10
合計 (27科目)		—	6	81	0		—		35	8	9	0	0		兼26
学位又は称号	博士(医学)、博士(薬学)		学位又は学科の分野			医学関係、薬学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>本課程に4年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目5単位以上、専門科目5単位以上、特別科目のうち特別演習Ⅰを6単位(主科目:2単位、副科目1:2単位、副科目2:2単位)、特別演習Ⅱを2単位(主科目)、特別研究を14単位(主科目)、合計35単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。</p> <p>○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。</p> <p>○専門科目 先進医学プログラム選択生:医系型科目から3単位以上、薬系型科目から1単位以上、統合型科目から1単位以上を履修すること。 先進薬学プログラム選択生:医系型科目から1単位以上、薬系型科目必修3単位、統合型科目から1単位以上を履修すること。</p>							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															三葛キャンパス
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別科目	A区分	細胞分子機能医学特別演習Ⅰ		2			○		1	1					
		細胞分子機能医学特別演習Ⅱ	1～2通	2			○		1	1					
		細胞分子機能医学特別研究	1～4通	14			○		1	1					
		小計（3科目）	—	0	18	0	—		1	1	0	0	0		—
合計（3科目）		—	0	18	0	—		1	1	0	0	0		—	
学位又は称号		博士(医学)、博士(薬学)		学位又は学科の分野			医学関係、薬学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本課程に4年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目5単位以上、専門科目5単位以上、特別科目のうち特別演習Ⅰを6単位（主科目：2単位、副科目1：2単位、副科目2：2単位）、特別演習Ⅱを2単位（主科目）、特別研究を14単位（主科目）、合計35単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。 ○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。 ○専門科目 先進医学プログラム選択生：医系型科目から3単位以上、薬系型科目から1単位以上、統合型科目から1単位以上を履修すること。 先進薬学プログラム選択生：医系型科目から1単位以上、薬系型科目必修3単位、統合型科目から1単位以上を履修すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
（医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1前	1			○			1					兼6	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	多職種連携A	1前	1			○			1	1				兼7	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	医療情報リテラシーA	1前	1			○			1	1				兼3	オムニバス・メディア	
	小計（3科目）	—	3	0	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼16	—	
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1前	1			○				1				兼7	オムニバス・共同（一部）・メディア	
	社会・予防医学概論	1前	1			○				2	1			兼2	オムニバス・メディア	
	Academic English	1後	1			○				2				兼1	オムニバス・メディア	
	地域医療課題概論	1後	1			○				1				兼7	オムニバス・メディア	
	基礎生体科学特論	1前		1		○								兼2	オムニバス・メディア	
	生体分子解析学特論	1前		1		○								兼2	オムニバス・メディア	
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1前		1		○				1				兼6	オムニバス・メディア	
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1後		1		○				1	1			兼6	オムニバス・メディア	
小計（8科目）	—	4	4	0	—	—	—	0	8	2	0	0	兼31	—		
専門科目	医系型	人体構造機能科学特論	1後		1		○				1				兼7	オムニバス・メディア
		機能調節薬理学特論	1前		1		○					2			兼1	オムニバス・メディア
		微生物・ウイルス・免疫学特論	1前		1		○								兼3	オムニバス・メディア
		病理病態学特論A	1後		1		○					2	4			オムニバス・メディア
		臨床医学特論	1前		1		○					1			兼7	オムニバス・メディア
		健康科学特論	1前		1		○				2	1			兼5	オムニバス・メディア
		医療データサイエンス学特論A	1後		2		○			1						メディア
	薬系型	安全科学特論	1後		1		○			2	1				兼4	オムニバス・共同（一部）・メディア
		医薬品開発特論	1前		1		○			2	1	1			兼4	オムニバス・共同（一部）・メディア
		最先端創薬科学特論	1後		1		○			2	2				兼4	オムニバス・共同（一部）・メディア
		健康機能調節学特論	1前		1		○			3					兼4	オムニバス・共同（一部）・メディア
小計（11科目）	—	0	12	0	—	—	—	5	6	7	4	0	兼32	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別科目	A区分	社会医学特別演習		2				○		1	3	1	2		兼4
		形態機能医学特別演習		2				○			1	4			兼4
		細胞分子機能医学特別演習		2				○			2		1		兼4
	B区分	総合医療医学特別演習		2				○			1	5			兼4
		器官病態内科学特別演習		2				○			3	4			兼10
		器官病態外科学特別演習		2				○		1	9	6			兼7
	C区分	物理・化学薬学特別演習		2				○		1	2	1			兼3
		生命薬学特別演習		2				○		3	1				兼5
	D区分	医療薬学特別演習		2				○		2		1			兼2
		臨床・社会薬学特別演習		2				○		1	3				兼3
	A区分	社会医学特別研究		12				○		1	3	1			兼4
		形態機能医学特別研究		12				○			1	4			兼4
		細胞分子機能医学特別研究		12				○			2		1		兼4
	B区分	総合医療医学特別研究		12				○			1	5			兼4
		器官病態内科学特別研究		12				○			3	4			兼9
		器官病態外科学特別研究		12				○		1	9	6			兼7
	C区分	物理・化学薬学特別研究		12				○		1	2	1			兼3
		生命薬学特別研究		12				○		3	1				兼5
D区分	医療薬学特別研究		12				○		2		1			兼2	
	臨床・社会薬学特別研究		12				○		1	3				兼3	
	小計(20科目)		0	140	0			—	9	25	22	3	0	兼46	—
合計(42科目)				7	156	0		—	9	27	23	7	0	兼88	—
学位又は称号		修士(医学)、修士(薬学)		学位又は学科の分野				医学関係、薬学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>本課程に2年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目6単位以上、専門科目6単位以上、特別科目のうち特別演習を4単位(主科目:2単位、副科目:2単位)、特別研究を12単位(主科目)、合計31単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。</p> <p>○専門科目 生命医学プログラム選択生:医系型科目から4単位以上、薬系型科目から2単位以上を履修すること。 ※医療データサイエンスコースの学生は「医療データサイエンス学特論A」を必ず履修すること。 生命薬学プログラム選択生:医系型科目から2単位以上、薬系型科目必修4単位を履修すること。</p>								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															紀三井寺キャンパス	
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1前	1			○			1						兼6	オムニバス・共同(一部)・メディア
	多職種連携A	1前	1			○			1	1					兼7	オムニバス・共同(一部)・メディア
	医療情報リテラシーA	1前	1			○			1	1					兼3	オムニバス・メディア
	小計(3科目)	—	3	0	0			—	3	2	0	0	0		兼16	—
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1前	1			○				1					兼7	オムニバス・共同(一部)・メディア
	社会・予防医学概論	1前	1			○				2	1				兼2	オムニバス・メディア
	Academic English	1後	1			○				2					兼1	オムニバス・メディア
	地域医療課題概論	1後	1			○				1					兼7	オムニバス・メディア
	基礎生体科学特論	1前		1		○									兼2	オムニバス・メディア
	生体分子解析学特論	1前		1		○									兼2	オムニバス・メディア
	基礎医科学・薬科学特論 I	1前		1		○				1					兼6	オムニバス・メディア
	基礎医科学・薬科学特論 II	1後		1		○				1	1				兼6	オムニバス・メディア
小計(8科目)	—	4	4	0			—	0	8	2	0	0		兼31	—	
専門科目	医系型	人体構造機能科学特論	1後		1		○			1					兼7	オムニバス・メディア
	機能調節薬理学特論	1前		1		○					2				兼1	オムニバス・メディア
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1前		1		○									兼3	オムニバス・メディア
	病理病態学特論A	1後		1		○					2	4			兼7	オムニバス・メディア
	臨床医学特論	1前		1		○					1				兼7	オムニバス・メディア
	健康科学特論	1前		1		○				2	1				兼5	オムニバス・メディア
	医療データサイエンス学特論A	1後		2		○			1							メディア
小計(7科目)	—	0	8	0			—	1	3	6	4	0		兼23	—	
特別科目	A区分	社会医学特別演習	1~2通		2			○		1	3	1	2		兼4	
	形態機能医学特別演習	1~2通		2				○			1	4			兼4	
	細胞分子機能医学特別演習	1~2通		2				○			2		1		兼4	
	B区分	総合医療医学特別演習	1~2通		2			○			1	5			兼4	
	器官病態内科学特別演習	1~2通		2				○			3	4			兼10	
器官病態外科学特別演習	1~2通		2				○		1	9	6			兼7		

教 育 課 程 等 の 概 要

紀三井寺キャンパス

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
A区分	社会医学特別研究	1～2通		12				○		1	3	1			兼4
	形態機能医学特別研究	1～2通		12				○			1	4			兼4
	細胞分子機能医学特別研究	1～2通		12				○			2		1		兼4
B区分	総合医療医学特別研究	1～2通		12				○			1	5			兼4
	器官病態内科学特別研究	1～2通		12				○			3	4			兼9
	器官病態外科学特別研究	1～2通		12				○	1	9	6				兼7
	小計 (12科目)	—	0	84	0			—	2	19	20	3	0	兼33	—
合計 (30科目)		—	7	96	0			—	4	24	22	7	0	兼81	—
学位又は称号		修士(医科学)、修士(薬科学)		学位又は学科の分野			医学関係、薬学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>本課程に2年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目6単位以上、専門科目6単位以上、特別科目のうち特別演習を4単位(主科目:2単位、副科目:2単位)、特別研究を12単位(主科目)、合計31単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。</p> <p>○専門科目 生命医科学プログラム選択生: 医系型科目から4単位以上、薬系型科目から2単位以上を履修すること。 ※医療データサイエンスコースの学生は「医療データサイエンス学特論A」を必ず履修すること。 生命薬科学プログラム選択生: 医系型科目から2単位以上、薬系型科目必修4単位を履修すること。</p>						1 学年の学期区分			2 期						
						1 学期の授業期間			15 週						
						1 時限の授業時間			90 分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														伏虎キャンパス		
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1前	1			○			1						兼6	オムニバス・共同(一部)・メディア
	多職種連携A	1前	1			○			1	1					兼7	オムニバス・共同(一部)・メディア
	医療情報リテラシーA	1前	1			○			1	1					兼3	オムニバス・メディア
	小計(3科目)	—	3	0	0			—	3	2	0	0	0		兼16	—
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1前	1			○				1					兼7	オムニバス・共同(一部)・メディア
	社会・予防医学概論	1前	1			○				2	1				兼2	オムニバス・メディア
	Academic English	1後	1			○				2					兼1	オムニバス・メディア
	地域医療課題概論	1後	1			○				1					兼7	オムニバス・メディア
	基礎医学・薬科学特論 I	1前		1		○				1					兼6	オムニバス・メディア
	基礎医学・薬科学特論 II	1後		1		○				1	1				兼6	オムニバス・メディア
小計(6科目)	—	4	2	0			—	0	8	2	0	0		兼27	—	
専門科目	薬系型	安全科学特論	1後		1		○			2	1				兼4	オムニバス・共同(一部)・メディア
	医薬品開発特論	1前		1		○			2	1	1			兼4	オムニバス・共同(一部)・メディア	
	最先端創薬科学特論	1後		1		○			2	2				兼4	オムニバス・共同(一部)・メディア	
	健康機能調節学特論	1前		1		○			3					兼4	オムニバス・共同(一部)・メディア	
小計(4科目)	—	0	4	0			—	4	3	1	0	0		兼9	—	
特別科目	C区分	物理・化学薬学特別演習	1~2通		2			○		1	2	1			兼3	
		生命薬学特別演習	1~2通		2			○		3	1				兼5	
	D区分	医療薬学特別演習	1~2通		2			○		2		1			兼2	
		臨床・社会薬学特別演習	1~2通		2			○		1	3				兼3	
	C区分	物理・化学薬学特別研究	1~2通		12			○		1	2	1			兼3	
		生命薬学特別研究	1~2通		12			○		3	1				兼5	
	D区分	医療薬学特別研究	1~2通		12			○		2		1			兼2	
		臨床・社会薬学特別研究	1~2通		12			○		1	3				兼3	
小計(8科目)	—	0	56	0			—	7	6	2	0	0		兼13	—	
合計(21科目)		—	7	62	0			—	8	12	3	0	0		兼49	—
学位又は称号		修士(医科学)、修士(薬科学)			学位又は学科の分野			医学関係、薬学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要

伏虎キャンパス

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
本課程に2年以上在学し、共通科目3単位、ベーシック科目6単位以上、専門科目6単位以上、特別科目のうち特別演習を4単位(主科目:2単位、副科目:2単位)、特別研究を1.2単位(主科目)、合計3.1単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。 ○専門科目 生命医学プログラム選択生: 医系型科目から4単位以上、薬系型科目から2単位以上を履修すること。 ※医療データサイエンスコースの学生は「医療データサイエンス学特論A」を必ず履修すること。 生命薬学プログラム選択生: 医系型科目から2単位以上、薬系型科目必修4単位を履修すること。						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究倫理・医療倫理学B	1前		1		○			1					兼6	オムニバス・共同(一部)・メディア
	多職種連携B	1前		1		○			1	1				兼7	オムニバス・共同(一部)・メディア
	医療情報リテラシーB	1前		1		○			1	1				兼3	オムニバス・メディア
	小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼16	—
ベーシック科目	発展的研究方法論	1前	1			○				2				兼5	オムニバス・共同(一部)・メディア
	疫学方法特論	1前	1			○				2				兼2	オムニバス・メディア
	Advanced Academic English	1後	1			○				2				兼1	オムニバス・メディア
	基礎医学・薬学特論Ⅰ	1前		1		○			1					兼8	オムニバス・共同(一部)・メディア
	基礎医学・薬学特論Ⅱ	1後		1		○				1	1			兼6	オムニバス・共同(一部)・メディア
	地域医療課題特論Ⅰ	1前		1		○								兼7	オムニバス・メディア
	地域医療課題特論Ⅱ	1後		1		○				1	1			兼5	オムニバス・メディア
小計(7科目)	—	3	4	0	—	—	—	1	8	2	0	0	兼31	—	
専門科目	医系型	臨床医学特講	1後		1		○			2	2			兼4	オムニバス・メディア
		健康科学特講	1前		1		○		1	3				兼4	オムニバス・メディア
	薬系型	創薬標の評価学特講	1前		1		○			1	1			兼3	オムニバス・共同(一部)・メディア
		神経薬理学特講	1前		1		○			1	2	1		兼5	オムニバス・共同(一部)・メディア
		基礎薬科学特講	1前		1		○			1	1			兼4	オムニバス・共同(一部)・メディア
	統合型	がんに対する医学・薬学アプローチ	1後	1			○			2				兼5	オムニバス・メディア
小計(6科目)	—	1	5	0	—	—	—	3	10	4	0	0	兼21	—	
特別科目	A区分	社会医学特別演習	1~2通		2			○		1	3	1	1		兼4
		形態機能医学特別演習	1~2通		2			○			1	4			兼3
		細胞分子機能医学特別演習	1~2通		2			○			2		1		兼4
	B区分	総合医療医学特別演習	1~2通		2			○			1	3			兼4
		器官病態内科学特別演習	1~2通		2			○			4	4	3		兼6
		器官病態外科学特別演習	1~2通		2			○		1	9	11			兼3
	C区分	物理・化学薬学特別演習	1~2通		2			○		1	3	1			兼3
		生命薬学特別演習	1~2通		2			○		3	1				兼5
	D区分	医療薬学特別演習	1~2通		2			○		2		1			兼2
		臨床・社会薬学特別演習	1~2通		2			○		1	3				兼3

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
A区分	社会医学特別研究	1～3通		10			○		1	3	1			兼4
	形態機能医学特別研究	1～3通		10			○			1	4			兼3
	細胞分子機能医学特別研究	1～3通		10			○			2		1		兼4
B区分	総合医療医学特別研究	1～3通		10			○			1	3			兼4
	器官病態内科学特別研究	1～3通		10			○			4	4	3		兼6
	器官病態外科学特別研究	1～3通		10			○		1	9	11			兼3
C区分	物理・化学薬学特別研究	1～3通		10			○		1	3	1			兼3
	生命薬学特別研究	1～3通		10			○		3	1				兼5
D区分	医療薬学特別研究	1～3通		10			○		2		1			兼2
	臨床・社会薬学特別研究	1～3通		10			○		1	3				兼3
小計(20科目)		—	0	120	0		—		9	27	25	5	0	兼37
合計(36科目)		—	4	132	0		—		9	28	25	5	0	兼70
学位又は称号	博士(医科学)、博士(薬科学)		学位又は学科の分野			医学関係、薬学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>本課程に3年以上在学し、ベーシック科目5単位以上、専門科目4単位以上、特別科目のうち特別演習を4単位(主科目:2単位、副科目:2単位)、特別研究を10単位(主科目)、合計23単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。</p> <p>○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。</p> <p>○専門科目 生命医科学プログラム選択生:医系型科目必修2単位、薬系型科目から1単位以上、統合型科目必修1単位を履修すること。 生命薬科学プログラム選択生:医系型科目から1単位以上、薬系型科目から2単位以上、統合型科目必修1単位を履修すること。</p>							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														紀三井寺キャンパス		
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通 科目	研究倫理・医療倫理学B	1前		1		○			1						兼6	オムニバス・メ ディア
	多職種連携B	1前		1		○			1	1					兼7	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	医療情報リテラシーB	1前		1		○			1	1					兼3	オムニバス・メ ディア
	小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	—	3	2	0	0	0	0	兼16	—
ベー シッ ク 科 目	発展的研究方法論	1前	1			○				2					兼5	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	疫学方法特論	1前	1			○				2					兼2	オムニバス・メ ディア
	Advanced Academic English	1後	1			○				2					兼1	オムニバス・メ ディア
	基礎医学・薬学特論Ⅰ	1前		1		○			1						兼8	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	基礎医学・薬学特論Ⅱ	1後		1		○				1	1				兼6	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	地域医療課題特論Ⅰ	1前		1		○									兼7	オムニバス・メ ディア
	地域医療課題特論Ⅱ	1後		1		○				1	1				兼5	オムニバス・メ ディア
小計(7科目)	—	3	4	0	—	—	—	1	8	2	0	0	0	兼31	—	
専 門 科 目	医系型	臨床医学特講	1後		1		○			2	2				兼4	オムニバス・メ ディア
		健康科学特講	1前		1		○		1	3					兼4	オムニバス・メ ディア
	統合型	がんに対する医学・薬学アプローチ	1後	1			○			2					兼5	オムニバス・メ ディア
	小計(3科目)	—	1	2	0	—	—	—	1	7	2	0	0	0	兼13	—
特 別 科 目	A区分	社会医学特別演習	1~2通		2		○		1	3	1	1			兼4	
		形態機能医学特別演習	1~2通		2		○			1	4				兼3	
		細胞分子機能医学特別演習	1~2通		2		○			2		1			兼4	
	B区分	総合医療医学特別演習	1~2通		2		○			1	3				兼4	
		器官病態内科学特別演習	1~2通		2		○			4	4	3			兼6	
		器官病態外科学特別演習	1~2通		2		○		1	9	11				兼3	
	A区分	社会医学特別研究	1~3通		10		○		1	3	1				兼4	
		形態機能医学特別研究	1~3通		10		○			1	4				兼3	
		細胞分子機能医学特別研究	1~3通		10		○			2		1			兼4	
	B区分	総合医療医学特別研究	1~3通		10		○			1	3				兼4	
	器官病態内科学特別研究	1~3通		10		○			4	4	3			兼6		
	器官病態外科学特別研究	1~3通		10		○		1	9	11				兼3		
小計(12科目)	—	0	72	0	—	—	—	2	20	23	5	0	0	兼24	—	
合計(25科目)			—	4	81	0	—	—	5	25	24	5	0	0	兼62	—
学位又は称号		博士(医科学)、博士(薬科学)		学位又は学科の分野				医学関係、薬学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要

紀三井寺キャンパス

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
本課程に3年以上在学し、ベーシック科目5単位以上、専門科目4単位以上、特別科目のうち特別演習を4単位(主科目:2単位、副科目:2単位)、特別研究を10単位(主科目)、合計23単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。 ○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。 ○専門科目 生命医科学プログラム選択生:医系型科目必修2単位、薬系型科目から1単位以上、統合型科目必修1単位を履修すること。 生命薬科学プログラム選択生:医系型科目から1単位以上、薬系型科目から2単位以上、統合型科目必修1単位を履修すること。						1 学年の学期区分			2 期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要													伏虎キャンパス			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通 科目	研究倫理・医療倫理学B	1前		1		○			1						兼6	オムニバス・メ ディア
	多職種連携B	1前		1		○			1	1					兼7	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	医療情報リテラシーB	1前		1		○			1	1					兼3	オムニバス・メ ディア
	小計(3科目)	—	0	3	0	—			3	2	0	0	0	0	兼16	—
ベー シッ ク 科 目	発展的研究方法論	1前	1			○				2					兼5	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	疫学方法特論	1前	1			○				2					兼2	オムニバス・メ ディア
	Advanced Academic English	1後	1			○				2					兼1	オムニバス・メ ディア
	基礎医学・薬学特論Ⅰ	1前		1		○			1						兼8	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	基礎医学・薬学特論Ⅱ	1後		1		○				1	1				兼6	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	地域医療課題特論Ⅰ	1前		1		○									兼7	オムニバス・メ ディア
	地域医療課題特論Ⅱ	1後		1		○				1	1				兼5	オムニバス・メ ディア
小計(7科目)	—	3	4	0	—			1	8	2	0	0	0	兼31	—	
専 門 科 目	薬系型															
	創薬標的評価学特講	1前		1		○				1	1				兼3	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	神経薬理学特講	1前		1		○			1	2	1				兼5	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
	基礎薬科学特講	1前		1		○			1	1					兼4	オムニバス・共 同(一部)・メ ディア
統合型																
がんに対する医学・薬学アプローチ	1後	1			○				2					兼5	オムニバス・メ ディア	
小計(4科目)	—	1	3	0	—			2	5	2	0	0	0	兼12	—	
特 別 科 目	C区分															
	物理・化学薬学特別演習	1~2通		2			○		1	3	1				兼3	
	生命薬学特別演習	1~2通		2			○		3	1					兼5	
	D区分															
	医療薬学特別演習	1~2通		2			○		2		1				兼2	
	臨床・社会薬学特別演習	1~2通		2			○		1	3					兼3	
	C区分															
	物理・化学薬学特別研究	1~3通		10			○		1	3	1				兼3	
生命薬学特別研究	1~3通		10			○		3	1					兼5		
D区分																
医療薬学特別研究	1~3通		10			○		2		1				兼2		
臨床・社会薬学特別研究	1~3通		10			○		1	3					兼3		
小計(8科目)	—	0	48	0	—			7	7	2	0	0	0	兼13	—	
合計(22科目)		—	4	58	0	—			8	12	3	0	0	0	兼52	—
学位又は称号	博士(医科学)、博士(薬科学)		学位又は学科の分野				医学関係、薬学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

伏虎キャンパス

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
本課程に3年以上在学し、ベーシック科目5単位以上、専門科目4単位以上、特別科目のうち特別演習を4単位(主科目:2単位、副科目:2単位)、特別研究を10単位(主科目)、合計23単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、上記に加え、以下の要件を満たすこととする。 ○ベーシック科目 「基礎医学・薬学特論Ⅰ」「基礎医学・薬学特論Ⅱ」のうちから1単位、「地域医療課題特論Ⅰ」「地域医療課題特論Ⅱ」のうちから1単位を履修すること。 ○専門科目 生命医科学プログラム選択生:医系型科目必修2単位、薬系型科目から1単位以上、統合型科目必修1単位を履修すること。 生命薬科学プログラム選択生:医系型科目から1単位以上、薬系型科目から2単位以上、統合型科目必修1単位を履修すること。						1 学年の学期区分			2 期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
（医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究倫理・医療倫理学B	<p>（概要）医学・薬学における教育、研究及び臨床は、生命に対する尊厳や倫理観をもって行われなければならない。本講義では、動物実験や遺伝子組み換え実験などにおける研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、先端的医学・薬学研究者、高度医療人として求められる高い倫理観を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（19 藤井 隆夫／1回） 基礎研究に関連する倫理及び人を対象とする医学系研究に関する倫理（ヘルシンキ宣言、COI、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、臨床研究法など）について概説する。</p> <p>（11 改正 恒康、86 佐々木 泉／2回） ゲノム編集の基礎及び応用について理解する。また、遺伝子組み換え実験の基礎及び安全管理について理解する。</p> <p>（71 磯野 協一、47 新谷 紀人／1回） 適正な動物実験を実施するために動物実験の意義、動物と動物実験に求められる倫理的配慮及び法規制の現状について概説する。また動物の飼養と取扱いについて解説する。</p> <p>（18 園木 孝志／1回） 最近、疾患にみられるゲノム情報を用いた診断や治療方針決定が実際の臨床に応用されている。ゲノム情報を応用した診療の実際を講義し、臨床現場に潜在する倫理的問題を具体的な事例を加えて討論する。</p> <p>（34 川股 知之／1回） 医療法施行規則に定める高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等の臨床導入に関する法律と実際を理解する。</p> <p>（148 赤池 昭紀、① 中川 貴之／2回） 新医薬品の開発、審査、承認の具体例について概説するとともに、薬学、医薬品健康被害の具体例及びその救済制度を紹介する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	多職種連携B	<p>（概要）地域の保健医療課題の解決においては、各分野を専門とする医療従事者の連携が重要である。本講義では、医学、薬学、保健看護学の観点から多職種連携の実践に係る手法・知識を修得することを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（37 村田 顕也、69 谷本 貴志／1回） 脳卒中・心不全患者を対象として医師、看護師、保健師、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士などの多職種が連携して急性期病院から慢性・療養期治療までのシームレスな診療体制を構築する方法を学ぶ。</p> <p>（76 幸田 剣／1回） リハビリテーション診療において重要な多職種連携を実践するための急性期リハビリテーションのシステム構築について解説する。</p> <p>（165 水本 一弘、121 田村 彰／1回） 多職種連携に必須であるノンテクニカルスキルの基礎を理解し、実践のための手法を修得する。</p> <p>（32 松村 達志／1回） 周術期を中心に、その他想定される臨床現場での医科歯科連携について講義する。</p> <p>（50 江頭 伸昭、173 山田 孝明／1回） 高度化する薬物療法及び複雑化する副作用のマネジメントに対する薬剤師の関わり、並びに多職種連携における薬学的研究について解説する。</p> <p>（150 松原 和夫、50 江頭 伸昭／1回） チーム医療を実現させるための薬学的介入と情報共有のあり方について概説する。</p> <p>（142 水田真由美／1回） チーム医療における看護職の役割について講義し、チーム医療における医療従事者の連携について理解を深める。</p> <p>（143 辻 あさみ／1回） 病をもつ人の就労関連ニーズや課題について考察し、働く意欲をもった人が働き続けるために必要な支援や体制、多職種連携のあり方について検討する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療情報リテラシーB	<p>(概要) 医療ビッグデータやゲノム情報などの医療情報を取り扱う研究分野の重要性が増していることから、医療情報の処理や活用の方法を倫理的な観点も含めて修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(139 下川 敏雄/2回) 医療におけるデータマネジメントの方法について解説する。また、医療ビッグデータ(リアルワールド・データ)の国内外の現状について解説する。</p> <p>(156 牟禮 佳苗/1回) 出生コホート、地域住民コホート、疾患コホート、ゲノムコホートなどで取り扱う医療情報の種類と、取り扱いの留意点を修得する。</p> <p>(12 橋本 真一/1回) ゲノム、オミックス情報などの医療情報の処理や活用の方法を倫理的な観点も含めて修得する。</p> <p>(125 阿部 寛康/2回) 薬学研究で活用される医療情報には様々な形式のデータが存在するが、その多くは個体×変量という表形式でまとめられる。そのような表形式データから、多くの変量間の関係をみるための多変量解析と呼ばれる統計解析手法の使用方法を解説する。</p> <p>(52 伊藤 達也/2回) 臨床研究・治験では、得られたデータの信頼性保証がなければ、論文や承認申請に用いることはできない。そのため信頼性のあるデータを適切に構築・評価できる能力を修得する。副作用防止や相互作用回避など適正な医薬品使用を推進するため、電子カルテ上の医薬品情報を適切に評価・活用できる能力を修得する。</p>	オムニバス方式
ベーシック科目	発展的研究方法論	<p>(概要) 電気生理学の実験方法や社会調査法、トランスレーショナルリサーチなどの発展的研究方法や研究の進め方などについて学び、研究を遂行する上で必要となる専門的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 金井 克光/1回) 「『研究をする』ということ ～ タウから見た神経細胞」をテーマに講義を行う。</p> <p>(56 木村 晃久、82 井邊 弘樹/1回) 視床と大脳皮質の機能連関に基づく感覚機能と制御及び中枢神経における疼痛制御とストレスの神経機構に関する実験の方法を説明する。</p> <p>(151 廣野 守俊/1回) 光遺伝学や化学遺伝学を組み合わせた電気生理学的手法やイメージング法によって、近年解明された脳活動の基盤研究について講義する。</p> <p>(72 北野 尚美/1回) 量的および質的な調査法について概説する。自記式質問紙法による調査の基本と調査票の設計方法について解説する。</p> <p>(164 井原 勇人/2回) 生命科学実験への応用例や核医学、放射線治療法への利用例などについて理解を深めるとともに、自身の研究に応用できることを目指す。また、トランスレーショナルリサーチの概論についての知識を修得するとともに、自身の研究成果を知財化し臨床応用につなげるためには、どうすれば良いのかを事例を通じて学習する。</p> <p>(169 入江 克雅/1回) 構造生物学に関する最先端の研究手法について概説する。</p> <p>(42 相馬 洋平/1回) 有機化学を基盤とした先端的な創薬化学について概説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	疫学方法特論	<p>(概要) 本講義では、ヒト集団を対象とした広義の疫学研究（いわゆる臨床研究も含む）の立案や、関連論文の批判的吟味に必要とされる疫学の重要概念や研究手法を系統的に理解・修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(156 牟禮 佳苗／2回) ヒトを対象とした研究で理解が必須である研究デザインについて講義する。また、偶然誤差・系統誤差（バイアス）の概念、妥当性・再現性、交絡に関し講義する。</p> <p>(155 東山 綾／2回) 有病率、累積罹患率、罹患率、相対危険度（オッズ比を含む）などを講義する。また、生物学的交互作用、統計的交互作用について講義する。</p> <p>(10 藤吉 朗／2回) 疫学の歴史、疫学研究の定義、医学研究における位置づけなどを論ずる。また、Hillの基準、“因果のバイモデル”を示し十分原因(sufficient cause)などについて講義する。</p> <p>(49 岡田 浩／2回) 診断関連の指標（感度、特異度、ROCなど）について講義する。また、EBMの成り立ち・考え方、臨床応用について講義する。</p>	オムニバス方式
	Advanced Academic English	<p>(概要) 医療系の英語論文の読み方や発展的な文法知識、英語論文を執筆する際のルール、学会等でのプレゼン方法などについて学び、国際的活躍の基盤となる英語論文による発信方法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(141 廣田 麻子／4回) 医療系論文の読み方を教授する。また、論文執筆者が犯しやすいスペル・文法・語法の誤りを解説する。医療系論文執筆の基礎と医療系雑誌の「決まりごと」に沿った英語について解説する。</p> <p>(175 辻 早代加／2回) 英語論文における発展的な文法知識を修得する。</p> <p>(176 朱 姝／2回) 英語論文の書き方について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	基礎医学・薬学特論 I	<p>(概要) 実験動物モデルの作成手法や先端的医学薬学研究推進の基盤となる生理学、分子病態解析学、生体機能解析学などの医学、薬学両分野における知識を身につける。専門分野以外の知識・見識も修得することにより、医学薬学横断的な観点から考察する能力を修得するための基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(29 雑賀司珠也／1回) 疾患モデル動物を作出する際の注意点、遺伝子改変マウスの使用上の法令・規則、作成方法に関する発展的知識、場合によっては自身で作成するために必要な知識を身につける。</p> <p>(140 牧野 誠司／1回) 放射線源・放射線発生装置や放射線検出器の原理と、放射線によって引き起こされる現象について学ぶ。</p> <p>(8 西尾真智子、84 太田 圭介／1回) 感染症の原因となる微生物についての基礎的知識を解説し、様々な感染症について理解を深める。</p> <p>(12 橋本 真一／1回) 分子病態解析学の知識・実験技術等について、ゲノム医学を中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。</p> <p>(9 近藤 稔和／1回) 組織修復・線維化のマウスモデルの作成法を概説し、組織修復・線維化の分子メカニズムについて解説する。</p> <p>(56 木村 晃久、82 井邊 弘樹／1回) 電気生理学的、免疫分子生物学的方法で解る神経システムの構造と機能を説明する。</p> <p>(147 那波 宏之、② 木口 倫一、④ 難波 寿明／2回) 脳疾患の各種動物モデルを紹介した上で、それらモデルの病態解析法や創薬利用についての現状を理解する。神経化学研究における基礎的知識を説明するとともに、それらを応用した最新の研究手法を紹介する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	基礎医学・薬学特論Ⅱ	<p>(概要) 先端的医学薬学研究推進の基盤となる薬理学、分子機能形態学、薬品作用学などの知識を身につける。医学、薬学の両分野から専門分野以外の知識・見識も修得することにより、医学薬学横断的な観点から考察する能力を修得するための基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 西谷 友重/1回) 様々な薬の種類について概説し、特に注意が必要な薬物に関し、取り扱い方法などを解説する。</p> <p>(2 森川 吉博、55 小森 忠祐/1回) 生体の恒常性を維持するために細胞間でのシグナル伝達を担う生理活性物質であるサイトカインの造血・免疫系、神経系、代謝系、筋骨格系などにおける機能とその異常による病理・病態について概説し、最新の知見を紹介する。</p> <p>(138 齋藤伸一郎/2回) 受容体、そして細胞内シグナル伝達の様々な機構について講義する。</p> <p>(47 新谷 紀人、196 岩田 圭子/1回) 種々の生命現象や機能形態の制御におけるミトコンドリアの重要性と、その創薬上の意義に関する最新知見を紹介する。</p> <p>(53 今井 哲司/1回) オピオイド鎮痛薬の薬物依存や耐性形成に関わる神経薬理学的メカニズムについて解説するとともに、臨床における現状や課題について紹介する。</p> <p>(172 松本みさき/1回) 活性酸素種 (ROS) 及びレドックスシグナルの病態生理学的な役割について概説し、創薬の可能性及び最新の知見を紹介する。</p> <p>(2) 木口 倫一/1回) 末梢神経及び中枢神経系における神経-免疫連関を軸とした感覚障害の病態分子基盤について最新の知見を紹介する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	地域医療課題特論Ⅰ	<p>(概要) 本県におけるがんや脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの状況について学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(15 山本 信之/1回) 我が国及び本県におけるがんの疫学、治療方法の最新の動向について解説する。</p> <p>(24 中尾 直之、61 深井 順也/1回) 本県における脳血管障害の状況について学び、脳卒中の予防に向けた地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力を培う。</p> <p>(16 田中 篤/1回) 循環器疾患の診断に関する基礎知識及び最新の研究成果を概説し、地域の保健医療における循環器疾患課題への理解を深める。</p> <p>(13 松岡 孝昭/1回) 糖代謝について概説し、糖尿病の発症と治療に関するメカニズムについて解説する。</p> <p>(21 紀本 創兵/1回) 精神疾患の成因を理解し、疾患に対する治療・介入の方法について高い知識レベルで修得する。</p> <p>(97 高 真守/1回) 難治性神経疾患における最新の診断・治療法について講義する。</p> <p>(54 須野 学/2回) 殺細胞性抗がん薬を用いた治療とその効果と副作用マネジメントに必要な知識を修得する。分子標的治療薬 (低分子医薬品、抗体医薬品) を用いた治療とその効果と副作用マネジメントに必要な知識を修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベー シッ ク 科 目	地域医療課題特論Ⅱ	<p>(概要) 本県における地域医療の現状や救急医療、周産期医療などについて学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(184 山野 貴司/1回) 日本や和歌山県で医療格差を改善するために過去に実行された施策を学び、現在必要とされている社会基盤の変化との解離を理解する。日本や海外でのICTの利活用の事例を学び、今後社会サービスの一元化にむけて、そのサービスのひとつである地域医療がどのように携わるべきかを検証する。</p> <p>(163 上田健太郎/1回) 近い将来やってくる「南海トラフ地震」に備えた和歌山県の取組を中心に、災害医療についての理解を深めながらその対策を議論していく。</p> <p>(38 廣西 昌也/1回) 全国有数の高齢化県である和歌山県の地域医療課題を抽出し、今後の課題について学ぶ。</p> <p>(28 井篁 一彦/1回) 本県における周産期医療の状況と課題及び出生前診断について解説し、地域医療に果たす産科医の役割の重要性や課題について理解し考察する。</p> <p>(32 松村 達志/1回) 歯科口腔外科とアンチエイジングについて講義する。</p> <p>(20 徳原 大介/1回) 和歌山県内の小児地域医療・救急医療の現状(疾病の有病率の年次推移、急病診療所受診割合、小児科医数など)や小児に関する社会的問題点(虐待、不登校、肥満など)について統計学的データをもとに学び、本学附属病院小児科並びに各地域の総合病院やクリニックの小児科医との連携体制について理解し、現在の県内小児医療の問題点・課題に対する今後の取組について考察する。</p> <p>(49 岡田 浩/2回) 地域薬局におけるファーマシューティカルケアの拡大について解説する。地域薬局におけるヘルスプロモーションについて解説する。</p>	オムニバス方式
専 門 科 目	医 系 型	分子生命科学特論	オムニバス方式
		<p>(概要) 本講義では、高度な基礎研究の推進に必要な生化学及び分子遺伝学の専門的知識を修得する。代謝や遺伝、免疫といった生体の様々な現象を担う生体分子の構造や機能、動態を分子レベルで理解することにより、人の健康や病気の仕組みを様々な手法を用いて解明し、病気の診断や治療の開発につなげるための高度な研究能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 井原 義人/4回) 「代謝の全体像」及び「代謝異常と疾患」について講義する。</p> <p>(5 井上 徳光/4回) 遺伝子や遺伝学の基礎的な知識を理解し、疾患の分子遺伝学的なメカニズムや診断について理解を深める。また、10種類のがんの特徴を理解し、がんがどのように遺伝学的に診断され、治療が行われているか理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医 系 型	感染症学特論	オムニバス方式
		<p>(概要) 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大など、昨今新たな感染症への対策の重要性がますます増している。本講義では、新型コロナウイルス感染症を含めた様々な感染症について理解を深め、新たな感染症の予防や治療に関する高度な研究能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(36 小泉 祐介/2回) ①臨床的に重要な感染症の病態、合併症、診断、治療などに関する基本知識(臨床感染症学)、②院内感染や感染制御の基本(感染制御学)について学ぶ。</p> <p>(30 保富 宗城/1回) 病原微生物の保菌・感染・伝播について、ウイルスと細菌の相互作用、宿主と病原微生物の相互作用を解説し、感染免疫に関する理解を深める。</p> <p>(28 井篁 一彦/1回) ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染による子宮頸がんの発生機序について解説し、HPVワクチンによる子宮頸がん予防の重要性について考察する。</p> <p>(98 島 友子/1回) 免疫機能が未成熟な小児は感染症に罹患しやすく、重症化もあるため、ワクチンで予防できる疾患 (VPD)を中心に理解を深める。</p> <p>(18 園木 孝志/1回) 代表的なレトロウイルス感染症である成人T細胞白血病と後天性免疫不全症について、原因ウイルスの特長・感染経路・予防・治療を講義する。</p> <p>(183 早田 敦志/1回) かぜ症候群、インフルエンザ、肺炎、肺膿瘍、また注意が必要な肺結核について解説する。</p> <p>(63 柑本 康夫/1回) 尿路性器感染症の病因、診断、治療について解説する。</p>	
		病理病態学特論B	オムニバス方式
		<p>(概要) 様々な疾患について病理学に関する高度な知識を修得するとともに、基礎病理学的研究及び診断病理学的研究の手法を身につけ、疾患の診断や治療に応用できる高度な研究能力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(179 中西 雅子/2回) 病理学的な観点から腫瘍学の総論を概説する。また、臓器特異的な転移として骨転移に着目し、基礎研究及び臨床的な側面について解説する。</p> <p>(180 及川 恒輔/2回) 様々なタイプのがん遺伝子について概説し、がん遺伝子やその下流分子を標的とした分子標的治療開発の実際について考察する。</p> <p>(35 村田 晋一、68 小島 史好/2回) 様々な疾患における細胞・組織の変化や異常について、その特徴や形成機序及び病理発生や臨床的關係の観点から病理総論的な講義を行う。病理総論を概説した上で、病理学的研究に用いられる手法のうち、細胞や組織内で分子を視覚化する手法や蛍光特性を用いた手法を解説する。</p> <p>(68 小島 史好/2回) HE標本による一般的な疾患の病理診断や特殊染色と免疫染色の適切な選択、分子病理学的解析手法の診断への応用など、病理診断の実際の進め方について解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	腫瘍学特論	<p>(概要) 内視鏡診断や放射線治療・ゲノム医療・手術などの治療、緩和ケアなど様々な観点からがんに関する最新の知見を学ぶ。また、各臓器別のがんの知識を修得し、地域の保健医療課題の一つであるがん医療について深く考察する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(67 月山 淑、120 栗山 俊之/1回) がん医療における診断時からの緩和医療が患者・家族におよぼす影響を理解し、実践できるように知識を修得する。</p> <p>(33 園村 哲郎、65 南口 博紀/1回) 放射線の物理学的・生物学的な特性について概説し、放射線治療の適応について解説する。</p> <p>(74 清水 俊雄/1回) 分子標的治療について標的分子や薬剤作用機序 (MOA) を含め最新の個別化治療や精密医療 (Precision Medicine) について解説する。</p> <p>(70 洪 泰浩/1回) がん医療における分子生物学的診断の重要性を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(90 山下 泰伸/1回) 膵・胆道癌の内視鏡診断・治療について概説し、その鑑別診断、治療法について説明する。</p> <p>(27 原 勲、63 柑本 康夫/1回) 泌尿器科領域において開腹手術から腹腔鏡手術そしてロボット支援手術へと変容してきた経緯につき概説する。</p> <p>(103 平井 慶充/1回) 呼吸器外科手術の現状について解説し、低侵襲手術やロボット手術といった最新の話題について解説する。</p> <p>(106 速水 晋也/1回) 消化器がんに対する遺伝子レベルでの診断・治療の実際を理解する。</p>	オムニバス方式
薬 系 型	最新臨床薬理学特論	<p>(概要) 最新の薬物治療、薬物療法や医療安全における臨床薬理学の役割や臨床応用等について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(48 岩倉 浩/4回) 代謝・内分泌、生活習慣病領域を中心に最新の薬物治療に関するトピックスについて講義を行う。</p> <p>(50 江頭 伸昭、173 山田 孝明/2回) 本講義では、薬物療法における臨床薬理学の重要性や、薬物動態モデルに基づく個別化投与量設計などの臨床応用について、最新の研究内容を含めて有効性及び安全性の観点から解説する。</p> <p>(54 須野 学/2回) 臨床薬理と薬物代謝関連酵素について概説する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	免疫・発がん特論	<p>(概要) 免疫系の破綻や感染症はがんの発症と密接に関わっている。免疫システムの構築、発がんのメカニズムについて概説し、両者の攻防について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(46 佐藤慎太郎/4回) ウイルス感染症免疫学、粘膜免疫学の理解を目的とし、研究内容を交えながら最新の知見について講義する。</p> <p>(44 長田 茂宏/2回) 遺伝子発現制御の基本を説明した後に、発がん (がん化) に関わる転写調節因子、エピジェネティクス制御因子について概説する。</p> <p>(171 菱田 友昭/2回) がん細胞における「幹細胞性」の役割とその「幹細胞性」を支える分子基盤について概説する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	薬系型	<p>神経再生・発生・疾患学特論</p> <p>(概要) 中枢神経系や末梢神経系を構成する神経細胞やグリア細胞の発生、発達や役割について紹介する。また、神経変性疾患、発達障害や末梢神経障害の病態や発症機序について概説する。さらに、当該疾患に対する主要な治療薬の作用機序、副作用について説明するとともに、再生医療の可能性と課題について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(45 三宅 歩/4回) 脳の発生と分泌タンパク質に関する研究について紹介する。心の脳・神経科学的基盤について講義を行う。</p> <p>(147 那波 宏之、② 木口 倫一、④ 難波 寿明/2回) 人の生後脳発達過程を理解し、関連する脳疾患とその病態を紹介する。</p> <p>(53 今井 哲司/2回) 末梢神経を構成する神経繊維、髄鞘細胞、化学受容器の発生や役割について紹介する。末梢神経障害の病態や研究の最前線、治療法の現状を紹介し、アンメットメディカルニーズについて説明する。神経再生による治療戦略とその課題について説明する。</p>	オムニバス方式
	統合型	<p>死因究明学特論</p> <p>(概要) 死因論、死後画像診断、児童虐待、毒と解毒など医学・薬学両分野から損傷の成傷機転や死因究明に係る知識・考察法などを学び、法医学を中心とした最新の知見を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 近藤 稔和/2回) 様々な損傷の成傷機転や損傷と死因との関係、死因に寄与する外因と内因について講義する。</p> <p>(156 牟禮 佳苗/1回) 死因別死亡率の年次推移と最近の動向について講義する。</p> <p>(121 田村 彰/1回) 近年、児童虐待が増加する社会背景を理解し、実例から発見方法、対処方法、防止対策についての検証を行う。</p> <p>(145 太田 茂、③ 佐能 正剛/1回) 医薬品、麻薬、覚せい剤などを摂取した際の代謝(解毒機構)について講義する。</p> <p>(146 長野 一也、122 山下 琢矢/1回) 薬学の視点から、毒性学・安全科学の考え方を概説の上、中毒や解毒について理解を深める。</p> <p>(43 田村 理、170 田中 千晶/1回) 天然有機化合物に起因する死亡について、原因となる化合物の構造や死へと繋がるメカニズムについて修得する。</p> <p>(150 松原 和夫、146 長野 一也/1回) 化学物質と生体との関わりを学ぶことによって、「薬」となる一方で「毒」となることを概説する。併せて、それらの一般的な分析方法を講義する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		<p>医療データサイエンス学特論B</p> <p>(概要) 近年、医療ビッグデータやゲノム情報など医療関連分野のデータ活用が重要視されている。本講義では、統計学をツールとして利用し医学・疫学データに適用することにより、病態の原因解明や診断のための基礎研究、個別化医療・予防医療に関する研究等に応用する能力を養い、データサイエンスに強い人材を育成することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(139 下川 敏雄/4回) 統計的因果推論の考え方を理解するとともに、関連する統計手法について学習する。</p> <p>(144 宮井 信行/1回) 地域疫学研究とエビデンス創出の実際について理解を深める。</p> <p>(194 田中 晴喜/1回) ベイズの定理とその応用を解説する。また、ベイズ統計と検定の違いについても考察する。</p> <p>(52 伊藤 達也/2回) 臨床研究・治験におけるデータの品質担保のための手法や考え方を学び、医学・疫学研究の基礎となるデザイン設計や解析評価などの能力を修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	A区分 社会医学特別演習 I	<p>(概要) 法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また、分析疫学的手法などの社会医学における研究手法を理解し、研究技能の向上を目指す。</p> <p>(9 近藤 稔和、154 石田 裕子、181 野坂みずほ、85 石上安希子) 法医学の損傷に関する最新の文献を読み発表し、教員と議論することで、損傷の解釈の仕方について理解を深める。</p> <p>(10 藤吉 朗、155 東山 綾、132 竹村 重輝) ①生活習慣病の予防に関するトピックについて討議する。②統計ソフトの基本操作演習を行う。③「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を紹介する。適時e-learningを活用する。</p> <p>(36 小泉 祐介) 臨床感染症学(感染症の病態・疫学・診断・治療)に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、臨床感染症学に関する理解を深める。</p> <p>(72 北野 尚美) 系統的文献検索について概説し、先行研究調査に必要な知識を修得する。ライフコース疫学研究及び公衆衛生学的研究手法について解説するとともに、演習を行うことで技術の修得を目指す。</p>	
	形態機能医学特別演習 I	<p>(概要) 細胞生物学、分子機能形態学、システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学、人体病理学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、人体の機能や構造などに係る形態機能医学の各分野に係る文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基本的な研究手法や実験手技を修得し、研究技能の向上を目指す。</p> <p>(1 金井 克光、81 山本 悠太、126 伊藤 隆雄、127 山岸直子) 消化管、内分泌及びエネルギー代謝に関する概説的な講義を行う。また、最新の知見の論文を読み、教員と議論を行うことで科学的な思考を修得する。血中脂肪調節研究に必要な研究手法を修得する。</p> <p>(2 森川 吉博、55 小森 忠祐、128 久岡 朋子) 摂食調節、代謝調節、神経精神発達、免疫応答などの生体調節機構について、細胞培養、ウェスタンブロット・サザンブロット・リアルタイムPCR、遺伝子クローニングなど、分子細胞生物学的実験技術について講義し、実技指導を行う。</p> <p>(56 木村 晃久、82 井邊 弘樹、129 堂西 倫弘) 神経システムの構造と機能を、電気生理学的、免疫分子生物学的手法、動物行動実験及び脳機能イメージングで解明する研究方法の基本を説明する。</p> <p>(3 中田 正範、151 廣野 守俊) 生理学的研究手法に関して文献を用いて解説し、その有用性と応用性を学び、手技の修得を指導する。</p> <p>(6 西谷 友重、177 納富 拓也、178 陳 以珊、130 安田純平) 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構とその解析に必要な生理学的、分子生物学的、生化学的な解析方法について解説する。</p> <p>(7 江幡 正悟、180 及川 恒輔、179 中西 雅子) がんの悪性化や転移に関する論文を読み、最新の研究動向を理解する。また、がん研究における生化学的・分子生物学的解析手法の修得を目指す。</p> <p>(35 村田 晋一、68 小島 史好) 病理学の研究手法の中でも、細胞内や組織内で起こる分子の変化や動きを視覚化する研究方法を解説する。特に蛍光を用いた手法について、原理や応用を含めて具体的に指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	A 区分	<p>細胞分子機能医学特別演習 I</p> <p>(概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、病原微生物学、分子免疫学、分子病態解析学、分子細胞制御学、生体分子機能解析学、ゲノム機能制御学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、疾患を細胞、分子及び遺伝子レベルで理解することを目標とし、関連文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基本的な解析手法などを修得し、研究技能の向上を目指す。</p> <p>(4 井原 義人、152 西辻 和親) 文献抄読会、リサーチセミナーでの発表・討論を通じて、糖質・脂質の代謝と細胞機能について理解、考察する。</p> <p>(5 井上 徳光、153 片山 圭一、83 馬場 崇) 様々な遺伝子疾患を例にとりながら、遺伝子疾患の分子メカニズム・診断技術を学び、遺伝子疾患を遺伝子や分子から理解するのに必要な知識や方法を身につけるとともに、実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。</p> <p>(8 西尾真智子、84 太田 圭介、131 坂 直樹) 研究に必要な無菌操作について解説するとともに、実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。</p> <p>(11 改正 恒康、86 佐々木 泉) 自然免疫と獲得免疫が連関して、生体防御がどのように達成されるのか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかを、遺伝子、分子、細胞、個体レベルで理解することを目指す。教員と共に、関連文献を読み、議論することにより、免疫のしくみ、解析手法の基本について理解することを目指す。</p> <p>(12 橋本 真一) 分子病態解析学において講義及び演習を行う。疾患を細胞、分子及び遺伝子レベルで理解することを目標とし、関連文献を読み議論することにより知識を深める。またゲノム医科学分野における基本的な解析手法などを修得し、研究技能の向上を目指す。</p> <p>(78 森田 強) 免疫細胞や線維芽細胞など間質細胞の機能や役割に関する概説的な講義を行う。また、最新の文献を読み、発表・議論を行う機会を設けることにより、生体内における間質細胞の役割を深く理解する。</p> <p>(40 茂里 康) 質量分析法・分光分析法・生体分子の各種構造決定法等の分析・解析原理に関する概説的な講義を行う。また実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。</p> <p>(71 磯野 協一) ゲノム制御に関連する教科書を参考に遺伝子発現制御の基礎を理解し、その解析のための方法論と原理を学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
特別 科目	B 区分	総合医療医学特別演習 I	<p>(概要) 精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科・外科にとられない総合医療医学の各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。</p> <p>(21 紀本 創兵、100 山田 信一) 主要な精神疾患の最新の臨床・基礎研究の論文について、各大学院生に批判的評価を課すとともに、教官の指導の下に相互で討議を行う。</p> <p>(33 園村 哲郎、65 南口 博紀、190 生駒 顕) 画像下治療(IVR)についての論文を読み、討議する。</p> <p>(76 幸田 剣) リハビリテーション医学に係る概説的な講義を行う。</p> <p>(163 上田健太郎、66 田村 志宣、191 米満 尚史、116 宮本 恭兵) 心肺蘇生法の理論と実際およびその普及システムについて理解し考察を深める。また、ショックを含む重症病態についての理解と考察を深める。さらに、重症外傷傷病者・患者に対する診療ガイドラインを理解する。</p> <p>(34 川股 知之、192 時永 泰行) 周術期医療に関し概説する。さらに、文献を読み理解を深めるとともに、議論する。</p> <p>(38 廣西 昌也) 在宅医療など地域医療現場における問題抽出と研究法について学ぶ。</p> <p>(37 村田 顕也、69 谷本 貴志、117 佐々木洋子) 神経系・循環器系疾患を有する患者、ADHDなどの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な知識や技能に関する講義を行う。</p> <p>(村田顕也) 神経系疾患に関する内容について講義する。</p> <p>(谷本貴志) 循環器系疾患に関する内容について講義する。</p> <p>(佐々木洋子) 医療社会学に関する内容について講義する。</p> <p>(34 川股 知之、67 月山 淑、120 栗山 俊之) 緩和医療に関し概説する。さらに、文献を読み理解を深めるとともに、議論する。</p>	
	器官病態内科学特別演習 I	<p>(概要) 糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。</p> <p>(13 松岡 孝昭、182 森田 修平) 糖尿病に関する概説的な講義を行う。また糖尿病発症メカニズムに関する最新の文献を読み、教員と議論を行うことにより、糖尿病に関する理解を深める。</p> <p>(14 北野 雅之、57 井口 幹崇、75 前北 隆雄、87 蘆田 玲子、88 井田 良幸、90 山下 泰伸、89 糸永 昌弘、91 田村 崇) 消化器疾患診療に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、消化器病学に関する理解を深める。超音波・消化器内視鏡を用いた最先端の診断・治療について学び、その理解を深める。</p> <p>(15 山本 信之、157 中西 正典、70 洪 泰浩、183 早田 敦志、92 藤本 大智) 呼吸器疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、呼吸器疾患に関する理解を深める。</p>		

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分	<p>(16 田中 篤、69 谷本 貴志、158 北端 宏規、193 黒井章央、93 塩野 泰紹、184 山野 貴司、94 柏木 学、197 太田 慎吾、198 尾崎 雄一、199 樽谷 玲) 循環器疾患に関する、生体内イメージングを用いた形態学的診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法、CT/MRIを用いた非侵襲的画像診断法の基礎知識を概説し、それらの理解を深める。</p> <p>(17 荒木 信一、159 大矢 昌樹、133 中島 悠里) 腎臓による体内環境調整機構とその理論的背景の基礎となる文献を抄読し議論を行うことで、慢性腎不全・透析医療における基本的な基礎・臨床研究の手法を修得する。</p> <p>(18 園木 孝志、66 田村 志宣、95 村田 祥吾、118 蒸野寿紀、96 細井 裕樹、134 山下 友佑) 造血器疾患のゲノム異常と免疫病態を研究する基本的な解析法を取得し臨床データを扱う統計手法を学ぶ。研究テーマに即した文献を抄読会で発表し、論文を多角的な視点で吟味することを学ぶ。研究成果を論理的に構築し発表することを学ぶ。</p> <p>(58 宮本 勝一、97 高 真守、135 中山 宜昭) アルツハイマー病・パーキンソン病・ALSなど難治性神経変性疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、神経変性疾患の病態に関する理解を深める。</p> <p>(19 藤井 隆夫、160 岩田 慈) 関節リウマチ（主として藤井が担当）や全身性エリテマトーデス（主として岩田が担当）については、その治療の進歩が発症機序の解明にも役立っている。これらの治療が開発された経緯と、臨床研究法について論文をもとにディスカッションし、結果について考察を加えていく。</p> <p>(20 徳原 大介、98 島 友子、121 田村 彰、99 末永智浩、119 熊谷 健) 発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の疾患（特に、肝臓・消化管、腎臓、神経・こころ、循環器、感染症・免疫、呼吸器、代謝、血液に関する）について、その発生の原因、成立機序について概説的な講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより各疾患の理解を深めるとともに解決・解明すべき課題を認識し、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な臨床・基礎研究の計画・立案を行う。</p> <p>(15 山本 信之、74 清水 俊雄、70 洪 泰浩) 腫瘍内科に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、がん薬物療法に関する理解を深める。</p>	
	器官病態外科学特別演習 I	<p>(概要) 胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科学、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、外科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。</p> <p>(22 西村 好晴、101 上松 耕太、102 本田 賢太郎、103 平井 慶充、136 宮坂 美和子) 虚血性心疾患、胸部大動脈瘤における病態、手術術式、周術期合併症に関する講義を行い、文献的考察を通して、臨床研究に関する議論を行う。近年進歩が著しい呼吸器外科の低侵襲アプローチについての講義を行い、文献的考察を通して、臨床研究に関する議論を行う。乳癌診療における臨床上的の問題点を通じて、臨床研究に関する議論を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分	<p>(23 川井 学、59 松田 健司、60 上野 昌樹、104 尾島敏康、105 岡田 健一、106 速水 晋也、107 早田 啓治、109 岩本 博光、110 三谷 泰之、108 北畑 裕司) 消化器外科に関する専門的知識を身につけ、より高度な外科腫瘍学に対する理解力を演習により発展させることを目標とする。 (川井 学、松田 健司、上野 昌樹) 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、研究手法などの演習を行う。 (岩本 博光、三谷 泰之、北畑 裕司) リキッドバイオプシーを用いたバイオマーカーの開発に関する研究について、研究手法などの演習を行う。 (尾島 敏康、岡田 健一、速水 晋也、早田 啓治) 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、研究手法などの演習を行う。</p> <p>(24 中尾 直之、61 深井 順也、185 中井 康雄、111 佐々木貴浩) 脳神経外科における主要テーマである脳卒中や脳腫瘍の病態、予防、治療について講義を行う。また、脳卒中や脳腫瘍について文献を読み、教員と議論することによりこれらの病態を理解する。</p> <p>(25 山田 宏、188 長田 圭司、112 石元 優々、187 西山大介、186 福井 大輔、113 下江 隆司) 運動器の構造と機能に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、運動器に関する理解を深める。</p> <p>(26 朝村 真一、62 和田 仁孝) 創傷治癒のメカニズムの理解は、基礎研究において重要である。外科学の基本である創傷治癒のメカニズム及び創傷の管理について演習を行う。</p> <p>(27 原 勲、63 柑本 康夫) 泌尿器科悪性腫瘍や尿路結石に関する論文を課題として与え、内容に関して発表及び討論を行う。</p> <p>(28 井篁 一彦、73 南 佐和子、77 八木 重孝、114 馬淵泰士) 生殖病態医学に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、生殖病態医学に関する理解を深める。</p> <p>(29 雑賀司珠也、39 岡田 由香、161 住岡 孝吉、166 小門正英、167 田中 才一、168 白井 久美) 視覚病態眼科学での演習では、眼組織創傷治癒と生体反応に関する文献を抄読し、教員と議論を行う。また眼の生体反応に関するマウスを用いた基礎研究の手法や臨床病態を科学的に解析するための臨床研究立案などのノウハウを指導する。</p> <p>(30 保富 宗城、162 玉川 俊次、189 河野 正充) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の疾患の病態を理解し、聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部癌・甲状腺癌、感染症に関する基礎・臨床研究に必要な知識と手技を修得する。実際に実験を行うことで研究手法の修得を目指すとともに、最新の文献に基づき教員と議論を行うことにより高い知識レベルで理解する。</p> <p>(31 神人 正寿、64 山本 有紀) 皮膚疾患の病態、診断、治療についての最新の知見について考察し、理解を深める。</p> <p>(32 松村 達志、115 鈴木 滋、137 田坂 ゆかり) 口腔解剖など基礎的な内容を踏まえて代表的な歯科口腔外科疾患に関して解説する。臨床的あるいは基礎的文献を抄読、議論する機会を通じて、歯科口腔外科疾患に関する理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	C 区分 物理・化学薬学特別演習 I	<p>(概要) 天然に存在するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物が有する機能を理解するために、最新の研究を踏まえた討論を教員と共に行うことにより、問題解決能力を高める。</p> <p>(41 中津 亨、169 入江 克雅) 構造生物学研究に関連する論文を読み、専門的な知識、研究手法を理解し、それに基づいた討論を行う。</p> <p>(42 相馬 洋平、195 佐々木大輔) 有機化学を利用した生体分子 (主にペプチド・タンパク質) の変換手法の創出に関して議論を行う。</p> <p>(43 田村 理、170 田中 千晶) 研究テーマに関する著書や論文を読み、専門的知識及び研究手法を理解し、天然有機化合物を扱うための技術を学ぶ。</p>	
	生命薬学特別演習 I	<p>(概要) 「未病の段階からの病態解析」、「遺伝情報発現」、「形態形成」、「中枢神経系疾患」、「代謝酵素」を中心とした生命現象と薬学の関係について、最新の文献情報などから当該分野を理解し、教員と議論することで問題発見、解決能力を高める。</p> <p>(146 長野 一也、122 山下 琢矢) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に「理解」するための講義を双方向で行う。その上で、最新の文献を理解し、教員と議論することで、問題解決能力を高める。</p> <p>(44 長田 茂宏、171 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解を深める。</p> <p>(45 三宅 歩) 形態形成の分子機構とその制御に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p> <p>(147 那波 宏之、② 木口 倫一、④ 難波 寿明) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の原因機序と病態生理に関する講義を行う。また最新の文献から得られる情報をもとに教員との議論を行い、当該分野における研究の動向や課題について理解する能力を養う。</p> <p>(③ 佐能 正剛) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能に関する新しい知見を学び、疾患や副作用との関連性を議論する。</p>	
D 区分	医療薬学特別演習 I	<p>(概要) 病態生理学、薬品作用学、薬物治療学、薬剤学の各分野において講義及び演習を行う。最新の論文を詳読し研究動向を学び、研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察する能力を養い、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(46 佐藤慎太郎) 免疫学に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p> <p>(47 新谷 紀人、196 岩田 圭子) 薬理学に関する最新の文献詳読、研究データの発表を行う方法を学ぶ。</p> <p>(48 岩倉 浩) 薬物治療学分野に関する最新文献、資料を収集、詳読、発表、議論することで研究の実行に必要な知識を修得する。</p> <p>(149 岩尾 康範、124 福田 達也) 薬剤学分野に関する最新の文献の詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	D区分 臨床・社会薬学特別演習Ⅰ	<p>(概要) 医療薬学、臨床薬理学、地域薬局、慢性疼痛、がん化学療法、医薬品情報・レギュラトリーサイエンスなど、臨床・社会薬学分野の専門分野について調査し、概要を学ぶ。また、最新の研究成果や医薬品の審査プロセスなど、自らの研究課題について発表・議論することで理解を深める。</p> <p>(① 中川 貴之、172 松本みさき) 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学に関する概説的な講義を行う。またこれらに関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、病院薬学に関する理解を深める。</p> <p>(49 岡田 浩) 地域薬局が果たす役割が拡大しており、薬局でヘルスプロモーションなどの新たな薬剤師業務を実施する上での基礎的な知識とスキルについて、自ら調べる体験を通じて学ぶ。</p> <p>(50 江頭 伸昭、173 山田 孝明) 学生の研究テーマの発表を中心に報告会形式で行い、自身の研究内容の深い理解とともに理論立てて議論できる能力を修得する。また、研究テーマを含めた議論の中で、医療薬学や臨床薬理学等に関する理解を深める。</p> <p>(52 伊藤 達也、125 阿部 寛康) 医薬品や再生医療等製品の開発に必要なレギュレーションや規制当局の審査プロセスを学び、薬剤師としての医薬品情報処理能力の深化やレギュラトリーサイエンスの能力を修得する</p> <p>(53 今井 哲司、174 山下 哲) 慢性疼痛や睡眠障害の神経科学的な発症機序について講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより最新知見に関する理解を深める。</p> <p>(54 須野 学) がん化学療法の個別化について、薬物動態的理解を深める。</p>	
	A区分 社会医学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力及び課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(9 近藤 稔和、154 石田 裕子、181 野坂みずほ、85 石上安希子) 損傷死、中毒死、突然死のモデルを樹立してその分子メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(10 藤吉 朗、155 東山 綾、132 竹村 重輝) ①生活習慣病の予防に関する論文を精読し、内容の説明及び建設的批判的吟味を加えて発表・討議する。②学会発表に準じた形式でのプレゼンテーションや学術論文に準じた形式での報告書作成を行う。適時e-learningを活用する。</p> <p>(36 小泉 祐介) 感染制御学(薬剤耐性菌感染症やウイルス性疾患による院内感染の発生メカニズム・伝播リスク・アウトブレイク時の対応)に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、感染制御学に関する理解を深める。</p> <p>(72 北野 尚美) 系統的な文献検索と研究仮説の導出について、演習を行うことで技術の修得を目指す。ライフコース疫学研究及び公衆衛生学的研究手法について演習を行うことで技術の定着を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	A区分 形態機能医学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 細胞生物学、分子機能形態学、システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学、人体病理学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(1 金井 克光、81 山本 悠太、126 伊藤 隆雄、127 山岸直子) 最新の血中脂肪調節に関連する論文を読み、最新の研究動向について理解するとともに、教員と議論を行うことで科学的な思考を修得する。また、血中脂肪調節研究で得られた結果からどのような結論が導き出されるかを考えたり、研究結果の発表方法について修得する。</p> <p>(2 森川 吉博、55 小森 忠祐、128 久岡 朋子) 摂食調節、代謝調節、神経精神発達、免疫応答などの生体調節機構について、免疫組織化学、in situ hybridization法などの組織学的実験技術及び行動生理学的実験技術について講義し、実技指導を行う。</p> <p>(56 木村 晃久、82 井邊 弘樹、129 堂西 倫弘) 神経電気生理学的、あるいは神経解剖学的実験及び動物の行動解析、ヒトの脳機能イメージングによる実験のデータのまとめ方を指導する。</p> <p>(3 中田 正範、151 廣野 守俊) 生理学的研究手法の原理を理解させ、生活習慣病の病態モデル動物等を用いて実験を指導する。</p> <p>(6 西谷 友重、177 納富 拓也、178 陳 以珊、130 安田純平) 興奮性細胞のイオンシグナル制御機構とその破綻による疾患に関し解説する。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、当該分野の理解を深める。</p> <p>(7 江幡 正悟、180 及川 恒輔、179 中西 雅子) がんの悪性化や転移に関する論文を読み、最新の研究動向を理解する。また、がん細胞の悪性形質の解析手法の修得を目指す。</p> <p>(35 村田 晋一、68 小島 史好) 病理学的研究を行うにあたって、研究の仮説や目的の立て方、研究材料の採取法や手法の選択法、結果の解釈の仕方、文献的なデータも加えた考察の過程などを含めて具体的に指導を行う。</p>	
	細胞分子機能医学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、病原微生物学、分子免疫学、分子病態解析学、分子細胞制御学、生体分子機能解析学、ゲノム機能制御学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(4 井原 義人、152 西辻 和親) 文献抄読会、リサーチセミナーでの発表・討論を通じて、タンパク質・生理活性分子の代謝と細胞機能について理解、考察する。</p> <p>(5 井上 徳光、153 片山 圭一、83 馬場 崇) 補体関連疾患やがんの微小環境形成に関わる分子メカニズムを理解し、分子メカニズムの解明、診断方法の開発、治療戦略の開発をするために必要な知識や方法について考察し、理解を深める。</p> <p>(8 西尾真智子、84 太田 圭介、131 坂 直樹) 感染症の原因となる病原体に関する最新の文献を抄読し、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、理解を深める。</p> <p>(11 改正 恒康、86 佐々木 泉) 自然免疫と獲得免疫が連関して、生体防御がどのように達成されるのか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかについて、専門的な知見、解析方法を理解、修得することを目指す。最近の論文を抄読し、研究動向を理解し、さらに、実験結果の解釈方法、発表法について理解、修得することを目指す。</p> <p>(12 橋本 真一) 分子病態解析学において講義及び演習を行う。ゲノム解析等専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(78 森田 強) がん微小環境や線維化組織に関する専門的な講義を行う。また、最新の文献を読み、発表・議論を行う機会を設けることにより、間質細胞の活性化が引き起こす様々な疾患に関する最新の知識を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	A区分	<p>(40 茂里 康) 質量分析法・分光分析法・生体分子の各種構造決定法等を用いて、生体関連分子の構造・反応性・分子内相互作用・分子間相互作用がどのように明らかにされるか、実際の分析例を通して演習する。</p> <p>(71 磯野 協一) ゲノム制御に関連する教科書や学術論文を精読する。論文に記載された研究の背景と問題提起、その問題を克服するための方法、そして結果と考察を論理的に発表説明することで研究の進め方を学ぶ。</p>	
	B区分	<p>総合医療医学特別演習 II</p> <p>(概要) 精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(21 紀本 創兵、100 山田 信一) 精神医学で行なわれている細胞生物学的な実験および、脳神経画像の解析法の原理・評価方法について学び、最新の研究動向の理解を促す。</p> <p>(33 園村 哲郎、65 南口 博紀、190 生駒 顕) スライドを用いて画像下治療 (IVR) についての講義を行う。</p> <p>(76 幸田 剣) リハビリテーション医学に係る文献を読み、ディスカッションを行うなど、演習を実施する。</p> <p>(163 上田健太郎、66 田村 志宣、191 米満 尚史、116 宮本 恭兵) 疾病・疾患の周囲の状況を救急の視点でみることができるよう教育を行い、基礎研究や疫学研究の成果から導かれている標準化された医療の成り立ちを学ぶ。</p> <p>(34 川股 知之、192 時永 泰行) 周術期医療に関する研究手法を理解する。</p> <p>(38 廣西 昌也) 地域医療現場において抽出された課題について、インテグラル理論やBPSモデルに基づいた分析・議論を行う。</p> <p>(37 村田 顕也、69 谷本 貴志、117 佐々木洋子) 神経筋疾患・循環器系疾患を有する患者、ADHDなどの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な側面についてディスカッションし、研究方法を学ぶ。 (村田顕也) 神経系疾患に関する演習を担当する。 (谷本貴志) 循環器系疾患に関する演習を担当する。 (佐々木洋子) 医療社会学に関する演習を担当する。</p> <p>(34 川股 知之、67 月山 淑、120 栗山 俊之) 緩和医療に関する研究手法を学ぶ。</p>	
		<p>器官病態内科学特別演習 II</p> <p>(概要) 糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(13 松岡 孝昭、182 森田 修平) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムを理解するためのin vivo/in vitro研究手法の修得及び新知見の探求を行い、新規治療法の開発を目指す。</p> <p>(14 北野 雅之、57 井口 幹崇、75 前北 隆雄、87 蘆田 玲子、88 井田 良幸、90 山下 泰伸、89 糸永 昌弘、91 田村 崇) 消化器癌の発癌機構に関する概説的な講義を行い、基本的な実験手法の指導を行う。消化器癌のゲノム医療について学び、その理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分	<p>(15 山本 信之、157 中西 正典、70 洪 泰浩、183 早田 敦志、92 藤本 大智) 呼吸器疾患に関する最新のデータを理解し解決すべき課題を発見する。臨床研究・基礎研究の手法について学ぶ。</p> <p>(16 田中 篤、69 谷本 貴志、158 北端 宏規、193 黒井 章央、93 塩野 泰紹、184 山野 貴司、94 柏木 学、197 太田 慎吾、198 尾崎 雄一、199 樽谷 玲) 循環器疾患に関する生体内イメージングを用い形態学的診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法、CT/MRIを用いた非侵襲的画像診断法の最新の研究手法及び成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。</p> <p>(17 荒木 信一、159 大矢 昌樹、133 中島 悠里) 慢性腎臓病・透析医療における最新の論文を抄読・議論すること で、最近の研究動向及び新たな研究手法を学ぶとともに、結果の解釈法・発表方法について修得する。</p> <p>(18 園木 孝志、66 田村 志宣、95 村田 祥吾、118 蒸野 寿紀、96 細井 裕樹、134 山下 友佑) 同種造血幹細胞移植における免疫病態を解析する手法とその解釈法 を取得する。同種造血幹細胞移植成績を向上させるための課題を抽出し、その解決法を考察する。</p> <p>(58 宮本 勝一、97 高 真守、135 中山 宜昭) 多発性硬化症・ギランバレー症候群・重症筋無力症など難治性神経免疫疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、神経免疫疾患の病態に関する理解を深める。</p> <p>(19 藤井 隆夫、160 岩田 慈) リウマチ・膠原病疾患の治療ターゲットがどのような機序で病態の形成につながっているのかを、論文をもとに議論する。特にわれわれの研究室では自己抗体の研究を中心に行っており、臨床の現場に還元しうる自己抗体(主として藤井が担当)やB細胞の異常(主として岩田が担当)の臨床的意義を探求する。</p> <p>(20 徳原 大介、98 島 友子、121 田村 彰、99 末永 智浩、119 熊谷 健) 発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の病的状態に関して、形態学的、機能的な観点から講義を行うとともに、生化学的、生理学的、組織学的な手法を用いて解説する。また、発達・成熟の過程で生じる特有の病的状態に関して最新の文献の抄読と討論を行い、疾患の原因、成立機序について理解を深める。さらに、解決・解明すべき課題を認識し、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な臨床・基礎研究の計画・立案を行い、研究に必要な生化学的、生理学的、組織学的実験技術を修得する。</p> <p>(15 山本 信之、74 清水 俊雄、70 洪 泰浩) がんに関する最新のデータを理解し解決すべき課題を発見する。臨床研究・基礎研究の手法について学ぶ。</p>	
	器官病態外科学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科学、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(22 西村 好晴、101 上松 耕太、102 本田 賢太郎、103 平井 慶充、136 宮坂 美和子) 虚血性心疾患、大動脈瘤における臨床研究のデータ解析法を学び、文献的考察を加えて研究結果をまとめる方法を修得する。呼吸器外科低侵襲アプローチにおける臨床上の問題点について、文献的考察を通して、研究結果をまとめる方法を修得する。乳癌診療における臨床上の問題点を通じて、臨床研究結果をまとめる方法を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分	<p>(23 川井 学、59 松田 健司、60 上野 昌樹、104 尾島 敏康、105 岡田 健一、106 速水 晋也、107 早田 啓治、109 岩本 博光、110 三谷 泰之、108 北畑 裕司) 消化器外科に関する専門的知識を身につけ、より高度な外科腫瘍学に対する理解力を演習により発展させることを目標とする。 (川井 学、松田 健司、上野 昌樹) 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。 (岩本 博光、三谷 泰之、北畑 裕司) リキッドバイオプシーを用いたバイオマーカーの開発に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。 (尾島 敏康、岡田 健一、速水 晋也、早田 啓治) 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、最近の研究動向や研究結果の解釈法などの演習を行う。</p> <p>(24 中尾 直之、61 深井 順也、185 中井 康雄、111 佐々木 貴浩) 脳腫瘍及び脳卒中における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(25 山田 宏、188 長田 圭司、112 石元 優々、187 西山 大介、186 福井 大輔、113 下江 隆司) 運動器疾患に関する評価、分析を行う。また、臨床研究における倫理的な配慮について指導する。</p> <p>(26 朝村 真一、62 和田 仁孝) 創傷治癒のメカニズムの理解は、基礎研究において重要である。外科学の基本である創傷治癒のメカニズム及び創傷の管理について理解させ、それが手術手技の向上につながることを教育する。</p> <p>(27 原 勲、63 柑本 康夫) 泌尿器科悪性腫瘍や尿路結石に関する論文を課題として与え、内容に関して発表及び討論を行う。研究テーマに沿った研究を行い、結果につき議論を行う。論文作成のために必要なことに関しステップ毎にディスカッションを行う。</p> <p>(28 井篁 一彦、73 南 佐和子、77 八木 重孝、114 馬淵 泰士) 生殖病態医学に関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、生殖病態医学に関する研究課題を見つけ研究方法について学ぶ。</p> <p>(29 雑賀司珠也、39 岡田 由香、161 住岡 孝吉、166 小門 正英、167 田中 才一、168 白井 久美) 視覚病態眼科学での演習では、眼科学分野における専門的な知見を学ぶとともに、眼組織に限らず創傷治癒と生体反応に関する最新の論文を抄読する。また教員との議論の中で幅広い視点から自ら考察する能力を養い、基礎研究、臨床研究の結果解析から次なる課題に発展させる能力を修得する。</p> <p>(30 保富 宗城、162 玉川 俊次、189 河野 正充) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の感覚・機能・頭頸部腫瘍に関する最新の研究動向を理解し、研究仮説を立て説明する方法を学ぶ。専門的知見と最新の研究動向を学ぶとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(31 神人 正寿、64 山本 有紀) 皮膚疾患の病態、診断、治療についての最新の知見について考察し、理解を深める。</p> <p>(32 松村 達志、115 鈴木 滋、137 田坂 ゆかり) 歯科口腔外科疾患の臨床的な問題点の抽出及び研究デザインについて解説する。歯科口腔外科疾患の基礎的あるいは臨床的文献の抄読、議論を通じて、実臨床における問題点の抽出法及び研究デザインを理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	C 区分 物理・化学薬学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 天然に存在するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物の機能開発研究に必要な高度かつ創造的な専門知識と、これらを駆使した問題解決能力及び研究能力を養成する。</p> <p>(41 中津 亨、169 入江 克雅) 生体高分子の構造生物学的研究に関する知識や研究手法を理解、議論し、問題解決能力を高める。</p> <p>(42 相馬 洋平、195 佐々木大輔) 生体分子(主にペプチド・タンパク質)の化学変換を基盤とした革新的な医薬分子や創薬手法の創出に関して議論を行う。</p> <p>(43 田村 理、170 田中 千晶) 研究テーマに関する文献を読み、天然有機化合物に関する専門的知識や研究手法を理解すると共に、プレゼンテーションスキルを修得する。</p>	
	生命薬学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 「未病の段階からの介入・制御」、「遺伝情報発現」、「摂食行動」、「中枢神経系疾患」、「代謝酵素」を中心とした生命現象と薬学の関係について、最新の文献情報などから当該分野を理解し、教員と議論することで問題発見、解決能力を高める。</p> <p>(146 長野 一也、122 山下 琢矢) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に「介入・制御」するための講義を双方向で行う。その上で、最新の文献を理解し、教員と議論することで、問題解決能力を高める。</p> <p>(44 長田 茂宏、171 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する各論及び関連内容の講義を行う。また最新の文献を読み、関連の講演会・学会に参加し、先端研究に触れるとともに発表を行うことにより、遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解を深める。</p> <p>(45 三宅 歩) 摂食行動、病態代謝の分子機構とその制御に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p> <p>(147 那波 宏之、② 木口 倫一、④ 難波 寿明) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患に対する神経薬理学及びその治療戦略に関する講義を行う。また最新の文献から得られる情報をもとに教員との議論を行い、当該分野における研究の動向や課題について理解する能力を養う。</p> <p>(③ 佐能 正剛) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能に関する新しい知見を学び、臨床における疾患との関連性を教員と議論することで、問題解決能力を高める。</p>	
D 区分	医療薬学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 病態生理学、薬品作用学、薬物治療学、薬剤学の各分野において講義、演習を行う。最新の研究動向把握のための文献詳読や研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察を加える能力を養い、研究成果を発表する方法について学ぶ。</p> <p>(46 佐藤慎太郎) 免疫学(特に粘膜免疫学、感染症免疫学)に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p> <p>(47 新谷 紀人、196 岩田 圭子) 薬理学・生命科学に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p> <p>(48 岩倉 浩) 薬物治療学分野で自らの行った実験データをまとめ、文献的考察、発表資料の作成、プレゼンテーション、議論を行う方法について学ぶ。</p> <p>(149 岩尾 康範、124 福田 達也) 薬剤学分野(特に製剤設計やDDS)に関する研究データの取得・議論から、最終的には原著論文として纏める方法を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	D 区分 臨床・社会薬学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 医療薬学、臨床薬理学、地域薬局、慢性疼痛、がん化学療法、医薬品情報・レギュラトリーサイエンスなど、臨床・社会薬学の専門分野について最新の研究や医薬品の審査プロセスなどについて調査し、発表・議論する過程を通じて、専門分野の調査手法と研究発表・論文作成の方法について学ぶ。</p> <p>(① 中川 貴之、172 松本みさき) 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学に関する概説的な講義を行う。またこれらに関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、病院薬学に関する理解を深める。</p> <p>(49 岡田 浩) 地域薬局が果たす役割が拡大しており、薬局でのヘルスプロモーションなど、新たな薬剤師業務が地域へ与える影響について自ら調べる体験を通じて、調査研究の手法を修得する。</p> <p>(50 江頭 伸昭、173 山田 孝明) 学生の研究テーマの発表を中心とする討論形式で行い、自身の研究内容及びその周辺領域の深い理解とともに論理的に説明、討論できる能力を修得する。また、研究テーマ及び周辺領域に関する議論の中で、医療薬学や臨床薬理学等に関する理解を深める。特に特別演習Ⅱでは、研究発表だけではなく、博士論文や原著論文の作成方法を学ぶ。原著論文の作成では学生が主体となって原稿の執筆から雑誌の投稿まで積極的に関与することによって論文投稿のノウハウを学ぶ。</p> <p>(52 伊藤 達也、125 阿部 寛康) 医療機関や薬局における医薬品を含む医療情報を学び、薬剤師として医薬品の適正使用に関する医薬品情報処理能力を修得する。</p> <p>(53 今井 哲司、174 山下 哲) 慢性疼痛や睡眠障害を中心とする神経疾患の現状やアンメットメディカルニーズについて講義を行う。また、そうした臨床課題やクリニカルクエッションを抽出し、リサーチクエッションに変換して研究を推進するための視点や手法について、セミナーや学会参加、教員との議論を通して修得する。</p> <p>(54 須野 学) がん化学療法における効果、特に副作用のマネジメントについて理解を深める。</p>	
A 区分	社会医学特別研究	<p>(概要) 法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p> <p>(9 近藤 稔和、154 石田 裕子、181 野坂みずほ、85 石上安希子) 損傷死、中毒死、突然死のモデルを樹立してその分子メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(10 藤吉 朗、155 東山 綾、132 竹村 重輝) ①論文作成に必要な背景知識(統計、倫理を含む)を理解し、指導のもと可能な限り関連した実務も行う。②研究テーマにつき学会発表を目指し、博士論文を執筆する。適時e-learningを活用する。</p> <p>(36 小泉 祐介) 臨床感染症学、感染制御学に関する研究計画の立案、研究的手法(疫学調査・分子生物学的解析・微生物検査など)の実践、データ解析方法について修得し、学術論文として成果を公表する。</p> <p>(72 北野 尚美) 研究計画の立案方法を修得し、調査によってデータを収集し、得られたデータベースを用いて研究を行う。地域や学校など実社会で介入可能な健康関連要因を探究し、その社会実装のための科学研究を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
特別 科目	A 区分	形態機能医学特別研究	<p>(概要) 細胞生物学、分子機能形態学、システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学、人体病理学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p> <p>(1 金井 克光、81 山本 悠太、126 伊藤 隆雄、127 山岸直子) 血中脂肪調節に関連する研究テーマに対する実験計画の立案・実施と得られた結果の解析方法の指導を行う。研究結果の学会発表や論文作成の指導を行う。</p> <p>(2 森川 吉博、55 小森 忠祐、128 久岡 朋子) 組織学的手法のみならず、分子生物学的手法や行動生理学的手法を用い、サイトカインによる生体機能の調節とその異常による病理・病態の解明及びそのメカニズムに基づいた治療法の開発に関連した研究指導を行う。</p> <p>(56 木村 晃久、82 井邊 弘樹、129 堂西 倫弘) 知覚と注意の神経機構、痛みとストレスの神経機構、ヒトの脳機能に関する論文の作成を目指し研究指導を行う。</p> <p>(3 中田 正範、151 廣野 守俊) 生理学的研究手法を用いて実験を行い、データを集積する。文献の収集と議論を行い、データの解析・考察を進めて論文作成を指導する。</p> <p>(6 西谷 友重、177 納富 拓也、178 陳 以珊、130 安田純平) イオンシグナル制御異常による疾患の発症機構の解明、疾患モデルの構築、さらに治療薬の探索を行うための研究指導を行う。またデータの収集・解析、論文執筆など論文作成のための指導を行う。</p> <p>(7 江幡 正悟、180 及川 恒輔、179 中西 雅子) 形態学的情報・遺伝子発現に基づくがん細胞の形質の解析などを通じた治療標的の同定に係る研究指導を行う。</p> <p>(35 村田 晋一、68 小島 史好) 基礎的研究と人体病理学的研究を結合する。すなわち、培養細胞や実験動物を使い、細胞生物学的現象の解析を行い、研究の基礎的側面を確立した後、人体検体へ応用し、臨床病理学的解析を行うという研究の進め方を指導する。</p>	
	細胞分子機能医学特別研究	<p>(概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、病原微生物学、分子免疫学、分子病態解析学、分子細胞制御学、生体分子機能解析学、ゲノム機能制御学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p> <p>(4 井原 義人、152 西辻 和親) タンパク質の“糖鎖/糖付加修飾”に焦点を絞り、糖質科学の観点から細胞機能を評価するため、生化学的な分離・精製、解析、分析について研究指導を行い、研究成果をもとに論文作成の指導を行う。</p> <p>(5 井上 徳光、153 片山 圭一、83 馬場 崇) 補体関連疾患やがんの微小環境形成に関わる分子メカニズムを理解し、新規分子メカニズムの解明、新規診断方法の開発、新規治療戦略の開発について研究指導を行う。</p> <p>(8 西尾真智子、84 太田 圭介) ウイルス増殖過程を講述し、様々なウイルス増殖の測定法について指導を行い、ウイルス増殖の研究について指導する。</p> <p>(11 改正 恒康、86 佐々木 泉) 自然免疫と獲得免疫が連関して、生体防御がどのように達成されるのか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかについて、統合的に理解し、その成果を発表する。得られた研究成果について、学会発表、論文発表を行えるように指導する。研究計画の立案作成、データの収集、解析、結果を受けてのさらなる実験計画の構成を行えることを目指す。また、成果について、地域、世界にいかに関与するかを効果的に表現、発信する能力を修得することを目指す。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	A区分	<p>(12 橋本 真一) 分子病態解析学において博士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などに関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p> <p>(78 森田 強) 組織線維化や、がん微小環境における間質反応など、間質細胞の活性化に関わる研究指導を行う。特に、間質細胞の活性化に関わる転写因子やシグナル伝達機構を中心に研究を行う。</p> <p>(40 茂里 康) ソフトイオン化質量分析法を用いたプロテオーム解析と次世代シーケンサー等を用いた遺伝子解析データをマッチングさせ、新規タンパク質・ペプチドの機能解明を目指す研究を指導する。</p> <p>(71 磯野 協一) 新規に作製した、あるいは作製するゲノム編集マウス及びその由来初代細胞や幹細胞を用いた細胞イメージングやゲノムワイド解析手法などを指導し、細胞の分化、増殖や老化を遺伝子及び分子レベルで解釈できるように指導する。また個体レベルでは器官形成やがん発症との関連性を調査する。細胞運命を制御する新しい分子メカニズムについての論文作成の指導を行う。</p>	
	B区分	<p>(概要) 精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(21 紀本 創兵、100 山田 信一) 予防精神医学の概念を念頭に研究を立案し、必要な実験や解析について研究指導を行う。得られた結果に基づき、論文作成の指導を行う。</p> <p>(33 園村 哲郎、65 南口 博紀、190 生駒 顕) 新しい塞栓物質についての基礎的実験の方法を教授し、学会発表や論文作成の指導を行う。</p> <p>(76 幸田 剣) リハビリテーション医学研究に関する指導を行う。</p> <p>(163 上田健太郎、66 田村 志宣、191 米満 尚史、116 宮本 恭兵) 疾病・疾患の周囲の状況を救急の視点で把握し、既存の基礎研究や疫学研究との関わりについて現状の課題を抽出し、課題解決に向けた研究指導を行う。</p> <p>(34 川股 知之、192 時永 泰行) 周術期医療に関する研究を立案し、実行する。データ解析し、発表する。</p> <p>(38 廣西 昌也) 生理学的なストレス解析を通じて、高齢者、認知症者、介護者のwell-beingに関する研究を行う。</p> <p>(37 村田 顕也、69 谷本 貴志) 神経難病・循環器系疾患を有する患者、ADHDなどの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な課題について研究指導を行う。</p> <p>(34 川股 知之、67 月山 淑、120 栗山 俊之) 緩和医療に関する研究を立案し、実行する。データ解析し、発表する。</p>	総合医療医学特別研究

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分 器官病態内科学特別研究	<p>(概要) 糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(13 松岡 孝昭、182 森田 修平) 膵β細胞の再生を目指したin vivo研究を実施し、臨床応用の可能性を探る。</p> <p>(14 北野 雅之、57 井口 幹崇、75 前北 隆雄、87 蘆田 玲子、88 井田 良幸、90 山下 泰伸、89 糸永 昌弘、91 田村 崇) 基礎的研究・臨床研究による消化器疾患の病態解明について指導を行う。消化器疾患に対する診断・治療法の開発に係る研究指導を行う。</p> <p>(15 山本 信之、157 中西 正典、70 洪 泰浩、183 早田 敦志、92 藤本 大智) 呼吸器疾患に関連した課題の研究指導、論文作成の指導を行う。</p> <p>(16 田中 篤、69 谷本 貴志、158 北端 宏規、193 黒井 章央、93 塩野 泰紹、184 山野 貴司、94 柏木 学、197 太田 慎吾、198 尾崎 雄一、199 樽谷 玲) 冠動脈疾患に関する光学技術を用いた新しい診断機器の開発、それらを用いた基礎・臨床研究の指導及び論文作成を指導する。</p> <p>(17 荒木 信一、159 大矢 昌樹) 慢性腎臓病・透析医療分野における未解決な臨床課題を自ら見出し、課題解決のために必要な研究を立案し、データ収集、解析、結果解釈、成果発信までを実践できるよう指導する。</p> <p>(18 園木 孝志、66 田村 志宣、95 村田 祥吾、118 蒸野 寿紀、96 細井 裕樹、134 山下 友佑) 造血器疾患におけるゲノム異常解析・免疫病態解析の臨床応用について指導する。</p> <p>(58 宮本 勝一、97 高 真守、135 中山 宜昭) 神経病理学・分子生物学・神経化学等における最新の研究手法を用い、難治性神経疾患の病態解明とバイオマーカーの開発、さらに革新的治療法の確立に係る研究指導を行う。</p> <p>(19 藤井 隆夫、160 岩田 慈) 当科で作成したコホートあるいは新規の研究コホートを用いて、国際学会にも発表しうる研究を行い、学会発表や論文作成を行う。免疫学にも関わる研究になるため、論文作成については基礎免疫研究室や薬学部とのディスカッションも組み入れる。</p> <p>(20 徳原 大介、98 島 友子、121 田村 彰、99 末永 智浩、119 熊谷 健) 発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の疾患・病的状態（特に、肝臓・消化管、腎臓、神経・こころ、循環器、感染症・免疫、呼吸器、代謝、血液に関する）に関して、解決・解明すべき課題を取り上げ、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な研究手法を修得する。また臨床・基礎研究の計画・立案を行い、研究指導者の指導のもと研究を遂行し、得られたデータの適切な解析・解釈並びに考察を行い、論文化する。</p> <p>(15 山本 信之、74 清水 俊雄、70 洪 泰浩) 腫瘍内科に関連した課題の研究指導、論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分 器官病態外科学特別研究	<p>(概要) 胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(22 西村 好晴、101 上松 耕太、102 本田 賢太郎、103 平井 慶充、136 宮坂美和子) 虚血性心疾患、胸部大動脈瘤における低侵襲治療を含めた高度な手術手技を学びつつ、手術成績と問題点を解析することにより論文を作成する。肺癌を中心とした呼吸器外科の低侵襲アプローチの臨床上の課題を明らかにし、課題解決にむけた研究を実践する。乳癌診療における臨床上の課題を明らかにし、課題解決にむけた研究を実践する。</p> <p>(23 川井 学、59 松田 健司、60 上野 昌樹、104 尾島 敏康、105 岡田 健一、106 速水 晋也、107 早田 啓治、109 岩本 博光、110 三谷 泰之、108 北畑 裕司) 消化器外科に関する専門的知識を身につけ、より高度な外科腫瘍学に対する理解力を演習により発展させることを目標とする。 (川井 学、松田 健司、上野 昌樹) 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。 (岩本 博光、三谷 泰之、北畑 裕司) リキッドバイオプシーを用いたバイオマーカーの開発に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。 (尾島 敏康、岡田 健一、速水 晋也、早田 啓治) 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(24 中尾 直之、61 深井 順也、185 中井 康雄、111 佐々木貴浩) 脳腫瘍または脳血管障害の病態解明や治療法に関する研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験が遂行できるように研究指導を行う。また、研究成果を発信するために論文作成指導を行う。</p> <p>(25 山田 宏、188 長田 圭司、112 石元 優々、187 西山 大介、186 福井 大輔、113 下江 隆司) 運動器疾患の病態解明と診断・治療法の開発に係る研究の手法について解説し、実際に研究を行うことで技術を修得させるとともに、博士論文作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(26 朝村 真一、62 和田 仁孝) 形成外科領域において、不治の病とされるリンパ浮腫の予防と治療は重要事項である。動物モデルを用いて、リンパ浮腫の発症機序の解明及び創薬の開発を目指した研究指導を行う。</p> <p>(27 原 勲、63 柑本 康夫) 泌尿器科悪性腫瘍領域や尿路結石に関する実験を行い、データの収集・解析を行う。</p> <p>(28 井筒 一彦、73 南 佐和子、77 八木 重孝、114 馬淵 泰士) 婦人科腫瘍及び妊娠高血圧症候群の病態解明と新たな診断・治療法の開発に係る研究指導及び論文作成の指導を行う。</p> <p>(29 雑賀司珠也、39 岡田 由香、161 住岡 孝吉、166 小門 正英、167 田中 才一、168 白井 久美) 視覚病態眼科学の分野において博士論文作成の指導を行う。眼組織の創傷治癒に関する基礎研究または臨床研究計画の立案を行い、計画に沿って研究及びデータの解析を遂行する。日々の臨床活動での課題解決に向け、自身の研究成果を発信して社会貢献する重要性を説く。高度な研究能力を身につけると同時に、眼組織創傷治癒に関する臨床技能の向上を図る。</p> <p>(30 保富 宗城、162 玉川 俊次、189 河野 正充) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の感覚・機能・頭頸部腫瘍について、専門的知見と最新の研究動向を学ぶとともに、免疫学的研究、細菌叢解析、単一細胞解析の手法を修得し、疾患の原因解明や治療開発を目指した研究指導を行う。</p> <p>(31 神人 正寿、64 山本 有紀) 膠原病・自己炎症・アレルギー疾患、皮膚腫瘍、美容皮膚科に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 松村 達志、115 鈴木 滋、137 田坂 ゆかり) 歯科口腔外科疾患に関する基礎的研究及び新規治療法の開発、応用につながる研究について指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	C 区分 物理・化学薬学特別研究	<p>(概要) 天然に存在する新規の生理機能を有するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物の探索と、これらの物質の機能解析、構造生物学的解析や有機化学的変化による機能強化、疾病の予防・治療への応用に向けた基礎及び応用研究を行う。</p> <p>(41 中津 亨、169 入江 克雅) 生体高分子メカニズムの構造基盤解明及び構造生物学的解析法の高度化に関する研究を行う。</p> <p>(42 相馬 洋平、195 佐々木大輔) 生体分子(主にペプチド・タンパク質)の化学変換を基盤とした革新的な医薬分子や創薬手法の創出に関する研究を行う。</p> <p>(43 田村 理、170 田中 千晶) 医薬品として用いられる天然有機化合物の基原、構造及び構造解析、作用などに関する研究を行う。</p>	
	生命薬学特別研究	<p>(概要) 「未病の段階からの病態解析」、「遺伝情報発現」、「摂食・代謝」、「中枢神経系疾患」、「代謝酵素」を中心とした生命現象に関わる薬学研究領域において、課題を設定し、専門的知識・技術を活用しながら研究活動を行う。</p> <p>(146 長野 一也、122 山下 琢矢) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入する研究課題を設定し、問題解決を図る研究を行う。</p> <p>(44 長田 茂宏、171 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する課題を設定し、専門的知識・技術を活用しながら研究活動を行う。</p> <p>(45 三宅 歩) 形態形成、摂食行動、病態代謝の分子機構とその制御に関する研究課題を立案し、研究を行う。</p> <p>(147 那波 宏之、② 木口 倫一、④ 難波 寿明) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の分子基盤解明に繋がる課題を設定し、神経生理学、神経薬理学、分子神経科学的な手法を用いて研究を行う。</p> <p>(③ 佐能 正剛) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性を見極めるための研究を行う。</p>	
	D 区分 医療薬学特別研究	<p>(概要) 病態生理学、薬品作用学、薬物治療学、薬剤学の各分野において博士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p> <p>(46 佐藤慎太郎) 粘膜免疫、感染症免疫に関係する研究を行う。</p> <p>(47 新谷 紀人、196 岩田 圭子) 薬理学・生命科学領域の科学技術の発展に資する新しい研究課題を立案・設定し、多様な実験アプローチによる究明を図るとともに、論文の執筆等を通じて成果公表につなげる。</p> <p>(48 岩倉 浩) 細胞実験、動物実験、分子生物学的実験等の実験手法やデータ解析について学び、薬物治療学分野の研究を行う。</p> <p>(149 岩尾 康範、124 福田 達也) アンメット・メディカル・ニーズに貢献できる新規製剤設計・DDS設計とそのin vitro物性評価、in vivo評価など多様な実験アプローチを行うとともに、論文執筆等を通じて成果を社会に還元する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	D 区分 臨床・社会薬学特別研究	<p>(概要) 医療薬学、臨床薬理学、地域薬局、慢性疼痛、がん化学療法、医薬品情報・レギュラトリーサイエンスなど、臨床・社会薬学の専門分野について最新の研究や医薬品の審査プロセスなどについて発表・議論する。それらのテーマによる特別研究を行うことで、学んだ高度な知識と技術を活用できる研究能力を養う。</p> <p>(① 中川 貴之、172 松本みさき) 病院診療記録や医療ビッグデータ等から得られた様々な臨床課題をもとに実験モデル構築、治療標的の探索、予防/治療薬開発等の基礎研究を行い、その成果を臨床に還元するリバース・トランスレーショナルリサーチを行う。</p> <p>(49 岡田 浩) 薬局での多様な臨床業務について、公衆衛生、医療安全、患者アウトカム、教育プログラム開発といった分野の研究を行うことにより、臨床現場で研究を計画し遂行できる能力を養う。</p> <p>(50 江頭 伸昭、173 山田 孝明) 医療薬学、臨床薬理学等に関する設定された研究テーマのもとで特別研究を行うことにより、高度な技術・知識を修得する。</p> <p>(52 伊藤 達也、125 阿部 寛康) 医薬品や再生医療等製品の開発に必要なレギュレーションや規制当局の審査プロセスを学び、薬剤師としての医薬品情報処理能力の深化やレギュラトリーサイエンスの能力を修得し、研究を行う。</p> <p>(53 今井 哲司、174 山下 哲) 末梢神経障害や睡眠障害を中心とした神経疾患の発症機序解明を目的とした研究指導を行う。また、リバーストランスレーショナルリサーチの実践を通して、科学的根拠に基づき臨床的課題の解決策を提言できる高度医療人材の養成を目指した指導を行う。</p> <p>(54 須野 学) 薬物動体に影響を及ぼす因子として、薬物代謝関連酵素遺伝子及び病態について研究を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	<p>（概要）医学・薬学における教育、研究及び臨床は、生命に対する尊厳や倫理観をもって行われなければならない。本講義では、動物実験や遺伝子組み換え実験などにおける研究倫理及び臨床現場での医療倫理について基礎的な知識を修得し、生命医療科学研究者、専門職医療人として求められる倫理観を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（86 藤井 隆夫／1回） 基礎研究に関連する倫理及び人を対象とする医学系研究に関する倫理（ヘルシンキ宣言、COI、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、臨床研究法など）について概説する。研究を始める際に倫理委員会への申請が必要になることも多いが、その際の注意点についても講義する。</p> <p>（78 改正 恒康、137 佐々木 泉／2回） ゲノム編集の基本原則について理解し、どのような状況、どのような目的で使用されるのかなどについて理解する。また、遺伝子組み換え実験の基本原則について理解し、どのような状況、どのような目的で使用されるのか、なぜ管理されなければならないのかなどについて理解する。</p> <p>（124 磯野 協一、109 新谷 紀人／1回） 適正な動物実験を実施するために動物実験の意義、動物と動物実験に求められる倫理的配慮及び法規制の現状について基本的事項を概説する。また動物の飼養と取扱いについて解説する。</p> <p>（85 園木 孝志／1回） 遺伝子情報は重要な個人情報であり、取り扱いには特段の注意が必要である。遺伝子情報を取り扱う際の基本的な倫理的問題と注意点を講義する。</p> <p>（95 川股 知之／1回） 医療法施行規則に定める高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等の臨床導入に関する法律を理解する。</p> <p>（7 赤池 昭紀／2回） 新医薬品の開発の審査、承認に関わる制度について講義を行う。医薬品開発、薬物治療における生命倫理、医療倫理の重要性について解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	多職種連携A	<p>（概要）地域の保健医療課題の解決においては、各分野を専門とする医療従事者の連携が重要である。本講義では、医学、薬学、保健看護学の観点から多職種連携の実践に係る基本的な知識を修得することを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（96 村田 顕也／1回） 脳卒中・心不全患者を対象として、かかりつけ医を中心とした多職種連携により在宅医療を実践するために必要な知識と技能を学ぶ。</p> <p>（128 幸田 剣／1回） リハビリテーション診療における多職種連携の重要性を理解するために、急性期リハビリテーションの理論について解説する。</p> <p>（24 水本 一弘、145 田村 彰／1回） 医療安全から見た多職種連携の在り方に関する最近の動向を考察し、理解を深める。</p> <p>（93 松村 達志／1回） 臨床現場における周術期の医科歯科連携について講義する。</p> <p>（⑥ 江頭 伸昭、34 山田 孝明／1回） チーム医療における薬剤師の関わりについて概説し、薬物療法の適正化及び副作用マネジメントに対する多職種連携の実践について解説する。</p> <p>（9 松原 和夫／1回） チーム医療を実現させるための薬剤師の関わりと情報共有のあり方について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目		(101 水田真由美／1回) チーム医療における看護職の役割について講義する。 (102 辻 あさみ／1回) 病をもつ人の就労における問題を知り、働く意欲をもった人が働き続けるために必要な支援や体制、多職種連携のあり方について検討する。	
	医療情報リテラシーA	(概要) 医療ビッグデータやゲノム情報などの医療情報を取り扱う研究分野の重要性が増していることから、医療情報の処理や活用の基本的手法を倫理的な観点も含めて修得する。 (オムニバス方式／全8回) (1 下川 敏雄／2回) 医療データを扱う上で必要なリテラシー及び人を対象とする医学および薬学研究を実施する上で必要な研究のデザインについて解説する。 (15 牟禮 佳苗／1回) 出生コホート、地域住民コホート、疾患コホート、ゲノムコホート等各コホートで取り扱う医療情報の種類と取り扱い方法の留意点について講義する。 (80 橋本 真一／1回) ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などについて、最新のゲノム関連論文、解析法を紹介しながら概説する。 (149 阿部 寛康／2回) 薬学研究で活用される医療情報には様々な形式のデータが存在するが、その多くは個体×変量という表形式でまとめられる。そのような表形式データから、多くの変量間の関係をみるための多変量解析と呼ばれる統計解析手法について、基本的事項を解説する。 (113 伊藤 達也／2回) 臨床研究・治験では、得られたデータの信頼性保証がなければ、論文や承認申請に用いることはできない。そのため信頼性のあるデータとするための手順やプロセスを理解する。副作用防止や相互作用回避など適正な医薬品使用を推進するため、電子カルテ上の医薬品情報の基本操作や解析技術を修得する。	オムニバス方式
ベーシック科目	基礎的研究方法論	(概要) 電気生理学的実験方法や社会調査法などの基礎的研究方法や実験動物モデルの基本的な取扱い等について学び、研究を遂行する上で必要となる基礎的知識を修得する。 (オムニバス方式／全8回) (68 金井 克光／1回) 「分子細胞生物学的研究法序論」としてさまざまな研究手法とその応用について解説する。 (117 木村 晃久、133 井邊 弘樹／1回) 動物実験による神経活動の電気生理学的記録法、神経細胞と組織の解剖学的解析法、動物の行動実験の基本を説明する。 (10 廣野 守俊／1回) チャンネル研究に不可欠であるパッチクランプ法の実験手技や適用例、その応用について解説する。 (126 北野 尚美／1回) 社会調査に関する基本的事項について概説する。自記式質問紙法による調査の基本について解説する。 (90 雑賀司珠也／1回) 疾患モデル動物を作出する際の注意点、遺伝子改変マウスの使用に際した規則・法令、遺伝子改変マウス作成方法、場合によっては自身で作成するための基礎的知識を講義する。 (125 井原 勇人／1回) 実際の研究利用に関してのラジオアイソトープの安全な取り扱いについて講義する。また法律・法令についても知識を深める。 (108 佐藤慎太郎／2回) 免疫学研究のみならず、生物学一般の研究で幅広く用いられる免疫学的手法について、実際の研究と実験結果を解説する。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	社会・予防医学概論	<p>(概要) 本講義では生活習慣病に係る危険因子と予防や地域医療の実情について疫学的観点から学ぶとともに、いわゆる臨床研究を含む広義の疫学分野における基礎的知識・研究手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(77 藤吉 朗／1回) 疫学研究の定義および、研究デザインについてなどを論ずる。</p> <p>(14 東山 綾／2回) 有病率、累積罹患率、罹患率、相対危険度(オッズ比を含む)などを講義する。また、循環器疾患予防に関する基礎知識・予防の実態を論ずる。</p> <p>(15 牟禮 佳苗／2回) 偶然誤差・系統誤差(バイアス)の概念、妥当性・再現性、交絡に関し講義する。また、がん予防に関する基礎知識・予防の実態を論ずる。</p> <p>(45 山野 貴司／1回) 国内外での予防医学の実例から地域医療が果たした役割を学び、今後の地域医療のあるべき姿を検証する。</p> <p>(5 岡田 浩／2回) 薬剤師・薬局の視点からの健康増進・疾病予防に関する取組を紹介する。また、EBMの成り立ち・考え方、臨床応用について講義する。</p>	オムニバス方式
	Academic English	<p>(概要) 本講義では課題考察の基盤となる英語力(英語論文の読み方・書き方、学会等でのプレゼン方法など)を養うとともに、英語での研究発表、英語論文による成果の発信等に必要能力を育てる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(99 廣田 麻子／4回) 英語論文の読み方を教授する。また、科学的なスタイルでレポートを計画し、書くことについて解説する。</p> <p>(36 辻 早代加／2回) 英語論文における基礎的な文法知識を修得する。</p> <p>(37 朱 殊／2回) 英語論文の書き方について基礎的なことを学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	地域医療課題概論	<p>(概要) 本県は南北に長い地形で山間部も多く、地域医療体制の確保が重要であるとともに、高齢化に伴う認知症などの疾患が地域の保健医療課題となっている。本講義では、本県の地域医療の実態を学ぶとともに、認知症など高齢者に多い疾患について学修し、地域の保健医療課題への関心・理解を深める。また、在宅緩和ケアや予防医療、医療・介護資源の確保、副作用管理等における地域医療の役割について概説し、地域医療連携の現状と課題への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(⑧ 蒸野 寿紀／1回) 本県の地域医療体制の確保における地域枠制度の役割について概説し、本県の地域医療の実態・医師確保の現状について解説する。</p> <p>(② 西村 好晴／1回) 心臓血管外科領域における地域医療支援体制としてのドクターヘリ、医療関係者間コミュニケーションアプリの有用性と課題について解説する。</p> <p>(③ 廣西 昌也／1回) 高齢化が進む本県における認知症の概況、診療体制及び早期発見・予防などの取組について解説する。</p> <p>(① 田中 オー／1回) 地域における高齢者の視覚障害の実情について知識を得て、眼疾患のマネジメントを通して視覚リハビリなどのロービジョンケアに関して理解を深める。</p> <p>(④ 中川 貴之／1回) 緩和ケアの地域ネットワーク及び在宅緩和ケアにおける現状や問題点について概説し、その関心や理解を深める。</p> <p>(⑤ 岡田 浩／1回) 急速な社会の高齢化が進む先進諸国では、不足する地域の医療・介護資源を連携することで解決しようとしている。国内外の現状と課題について概説し、理解を深める。</p> <p>(⑥ 江頭 伸昭／1回) 地域における予防医療の取組や、がん医療・緩和ケアにおける地域医療の役割について解説する。</p> <p>(⑦ 今井 哲司／1回) 地域医療では、病院と保険薬局が連携し、退院後の患者の副作用や体調変化の兆候について継続的な情報収集を行うことが求められる。本講義では、こうした医薬品適正使用や副作用管理について概説し、地域医療連携の現状と課題について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	基礎生体科学特論	<p>(概要) 生命医療科学研究の最も基本となる生物学及び細胞生物学の知識・実験技術等について、細胞の構造と機能、遺伝学、細胞周期の制御、恒常性の維持、小胞輸送などを中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(129 森田 強／6回) 遺伝学、細胞周期の制御、恒常性の維持に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>(79 齋藤伸一郎／2回) 細胞内で作られた物質や細胞外から取り込んだ物質を輸送する小胞輸送などの細胞内輸送システムについて講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	生体分子解析学特論	<p>(概要) 生命医療科学研究の最も基本となる生体分子解析学及び分子病態解析学の知識・実験技術等について、質量分析法・分光分析法・構造決定法、ゲノム・オミックス解析手法を中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(100 茂里 康/6回) タンパク質等の生体分子の構造・機能に関する解析法の基本的原理及び最近の技術開発動向について考察する。</p> <p>(80 橋本 真一/2回) 分子病態解析学の知識・実験技術等について、ゲノム医科学を中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。</p>	オムニバス方式
	基礎医科学・薬科学特論 I	<p>(概要) 本講義では、生命医療科学研究の推進に必要な専門性探求の基礎となる統合分子生理学、分子機能形態学、分子生物薬学などの知識を基礎から応用まで幅広く身につける。専門分野以外の知識・見識も修得することにより、専門分野にとらわれない課題発見力修得の基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(98 牧野 誠司/1回) 放射線に関連する物理学の各分野を概観し、放射線についての基礎的な事項を修得する。</p> <p>(68 金井 克光/1回) 「胃エストロゲンによる血中脂肪調節メカニズム」をテーマに講義を行う。</p> <p>(70 中田 正範/1回) 生活習慣病に関連する中枢神経系の病態生理の解説を行う。</p> <p>(69 森川 吉博/1回) 人体の正常構造を肉眼的及び組織学的(顕微鏡レベル)に概説し、機能との関連の理解を深める。</p> <p>(107 三宅 歩/2回) 組織形成と分泌因子に関する研究について講義を行う。</p> <p>(147 難波 寿明/1回) シナプスの構造と機能に関しての概要と実験動物を用いた脳機能、関連する脳病態について理解を深める。</p> <p>(31 田中 千晶/1回) 医薬品として用いられる天然有機化合物の基原、構造と作用及び生体内における作用メカニズムに関する知識を修得する。</p>	オムニバス方式
	基礎医科学・薬科学特論 II	<p>(概要) 本講義では、生命医療科学研究の推進に必要な専門性探求の基礎となる代謝生物化学、分子遺伝学、薬品化学などの知識を基礎から応用まで幅広く身につける。専門分野以外の知識・見識も修得することにより、専門分野にとらわれない課題発見力修得の基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(71 井原 義人/1回) 生体分子(核酸、タンパク質、糖質、脂質など)の構造と機能、代謝の統合の基礎についての知識を修得する。</p> <p>(74 江幡 正悟 /1回) がんの進展や転移に関係する分子メカニズムを概説する。</p> <p>(76 近藤 稔和/1回) 死の定義を解説し、脳死についての理解を深めるとともに、様々な死因について概説する。</p> <p>(72 井上 徳光/1回) 遺伝子や遺伝学の基礎的な知識を理解し、そのために必要な知識や方法について考察する。</p> <p>(32 菱田 友昭/1回) 細胞老化・個体老化についての概説的な講義を行う。</p> <p>(148 福田 達也/1回) DDS技術を用いた製剤研究の基礎理論について講義を行う。</p> <p>(59 佐々木大輔/1回) 医薬分子設計における構造生物学の役割について概説する。</p> <p>(130 木口 倫一/1回) 体性感覚の仕組みの概要と実験動物を用いたその研究手法について講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 科目	医 系 型	人体構造機能科学特論	<p>(概要) 医科学研究を進める上で人体の構造や機能についての知識は必須である。本講義では、医科学研究の基盤となる人体の臓器や組織の構造、生体恒常性等についての専門的知識を修得し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(132 山本 悠太/1回) 顕微鏡の種類と原理についての概説と研究に合わせた組織学的染色方法の選択について解説する。</p> <p>(150 伊藤 隆雄/1回) 解剖学とは何か、解剖の歴史を含む概略、解剖学を学ぶ上で必須である解剖学用語について解説する。</p> <p>(116 小森 忠祐/1回) 生体の代謝調節機構に関して概説し、その破綻による代謝性疾患の発症メカニズムについて解説する。</p> <p>(151 久岡 朋子/1回) 神経系の発生・発達とその研究手法について概説し、神経発達障害の病態研究について解説する。</p> <p>(117 木村 晃久/1回) 視床と大脳皮質の機能連関に基づく知覚と注意の神経機構について解説する。</p> <p>(133 井邊 弘樹/1回) 痛みとストレスの受容とその制御の神経機構について解説する。</p> <p>(70 中田 正範/1回) 神経性循環調節機構とその異常による高血圧発症のメカニズムについて解説する。</p> <p>(10 廣野 守俊/1回) 記憶学習に関する行動解析とその基盤となる神経可塑性について解説する。</p>	オムニバス方式
		機能調節薬理学特論	<p>(概要) 医科学研究・薬科学研究の双方において重要な薬理学に関する専門的知識、特に薬理学の概論、薬物の作用点・受容体、薬物の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)、薬物相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(73 西谷 友重/4回) 薬理学の概論、薬物の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)について解説する。</p> <p>(38 納富 拓也/2回) 発症頻度の高い薬物相互作用及び副作用・薬害について説明するとともに、過去の薬害に基づき作用機序を考察して理解を深める。</p> <p>(39 陳 以珊/2回) 薬物の作用点の分類及び標的分子の構造基盤などの知識を修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	医 系 型 微生物・ウイルス・免疫学特 論	<p>(概要) 新たな感染症への対策が地域の保健医療課題として重要となっている昨今の状況を踏まえ、微生物・ウイルス・細菌及び免疫に関する最新の知見を学ぶとともに、研究用微生物の取扱いについて理解を深める。また課題の解決に向けて自ら考えて取り組む力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(75 西尾真智子、135 太田 圭介/2回) 新興感染症や再興感染症を引き起こす微生物についての基礎的知識を解説し、その病原性について理解を深める。</p> <p>(135 太田 圭介/2回) 病原微生物、特にウイルスについての理解を深める。</p> <p>(153 坂 直樹/2回) 病原微生物、特に細菌についての理解を深める。</p> <p>(137 佐々木 泉/2回) 自然免疫と獲得免疫がいかに制御されているか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかを概説する。</p>	オムニバス方式
	病理病態学特論A	<p>(概要) がんを中心とした病理学に関する基礎的知識・研究手法を身につけるとともに、がんの発生・進展、転移の分子メカニズムの解明などの分子病理学的研究、組織・細胞検体を用いた臨床病理学的研究の基礎を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(41 及川 恒輔/2回) がんを中心とした様々な疾患における細胞機能を概説し、そのメカニズムについての理解を深める。</p> <p>(40 中西 雅子/2回) がんに関する形態学的・分子生物学的な概要について解説する。また、がんの転移メカニズムについて基礎的な内容を解説する。</p> <p>(64 松崎 生笛/1回) 病理検体を用いた研究手法についての知識を修得する。</p> <p>(65 岩元 竜太/1回) 病理分野における人工知能の応用について、これまでの歴史や実臨床での活用例、具体的な研究例を解説し、理解を深める。</p> <p>(63 高橋 祐一/1回) 正常組織、過形成、良性腫瘍及び分化型癌において細胞極性が形成される機序、並びに低分化癌や未分化癌において細胞極性の乱れが生じる機序について説明をする。</p> <p>(66 三笠友理奈/1回) 研究手法の一つとして、1細胞解析の方法論とその解析方法について知る。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医 系 型	臨床医学特論	オムニバス方式
		健康科学特論	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医 系 型	医療データサイエンス学特論A (概要) 近年、医療ビッグデータやゲノム情報など医療関連分野のデータ活用が重要視されている。本講義では、R言語の基礎や回帰分析・分散分析、生存時間分析などの理論や応用を学ぶとともに、Rによる基本的なプログラミングや経時データ解析などを修得し、医療情報を活用する様々な方法を身につける。	
	薬 系 型	安全科学特論 (概要) 化学物質の持つ毒性・安全性を理解する。医薬品や環境化学物質の代謝について安全性確保の観点から、医薬品候補化合物や環境化学物質のヒトにおける毒性発現を予測するための評価方法を学修する。ヒトにおける医薬品の代謝と排泄機構を理解する。薬物治療の安全性の観点から、薬物代謝酵素とその遺伝子多型が引き起こす体内薬物濃度変動を理解する。 (オムニバス方式/全8回) (5 長野 一也、146 山下 琢矢/2回) リスクとハザード、安全と安心といった毒性学の基礎から応用までを概説し、安全科学に対する理解を深める。 (4 太田 茂/1回) 医薬品や環境化学物質の代謝について安全性確保の観点から考察する。 (131 佐能 正剛/1回) 医薬品などの化学物質のヒトにおける毒性発現を予測する評価系について講義する。 (6 江頭 伸昭、34 山田 孝明/2回) 医薬品の適正使用のための臨床研究やがん化学療法における副作用研究について解説する。 (115 須野 学/2回) 薬物療法における個別化に関わる因子として病態及び薬物代謝関連酵素の影響について理解を深める。	オムニバス方式・ 共同(一部)
		医薬品開発特論 (概要) 製薬会社において、創薬シーズが新薬として市販化されるまでの過程について、シーズ探索、物性評価や分析技術、安全性、製剤開発や動態予測、品質評価、承認申請など様々な立場から現状を理解し、創薬研究者としての知識・技能醸成に役立てる。 (オムニバス方式/全8回) (104 相馬 洋平、59 佐々木大輔/2回) 有機化学を基盤とした創薬手法について概説する。 (105 田村 理、31 田中 千晶/2回) 天然有機化合物に由来する医薬品開発に必要な分析技術、創薬プロセスや歴史について知見を得る。 (4 太田 茂/1回) 医薬品承認に至るプロセスについて講義する。 (131 佐能 正剛/1回) 創薬段階における医薬品候補化合物の薬物動態評価法について講義する。 (8 岩尾 康範、148 福田 達也/2回) 探索研究により創出された候補化合物を用いた製剤・CMC (Chemistry, Manufacturing and Control) 研究の概要を講義する。	オムニバス方式・ 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	薬 系 型	最先端創薬科学特論 (概要) 医薬品は専ら低分子化合物であったが、2000年前後になって抗体医薬の開発が本格化し、現在では核酸医薬、遺伝子治療などの新しいモダリティが相次いで開発されつつある。本特論では、低分子化合物からの創薬にとどまらず、新たなモダリティ創薬についても学び、それぞれの利点や特色について理解する。また、投与方法について最新の方法論を学び、主剤開発のみならず製剤面からも最先端の創薬について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (④ 中川 貴之/1回) がん疼痛、非がん慢性疼痛の発生と疼痛治療に関する最近の動向及び最新の知見について考察し、理解を深める。 (33 松本みさき/1回) 疾患における酸化ストレスの病態生理学的な役割について理解を深め、創薬の可能性及び最新の知見に関する知識を修得する。 (5 長野 一也、146 山下 琢矢/2回) 抗体医薬とそれを適切に利用するためのコンパニオン診断薬について、基礎から応用までを概説し、先端創薬に対する理解を深める。 (105 田村 理、31 田中 千晶/2回) 生体内のシステムに対して、天然有機化合物がどのように作用するかを化学構造に基づいて理解し、創薬へと繋げる知識を修得する。 (8 岩尾 康範、148 福田 達也/2回) 最先端の経皮及び経口吸収製剤に関する知見について理解する。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	健康機能調節学特論 (概要) 超高齢社会における生活環境において、環境要因によって起こる疾病や、食品の変質や汚染によって起こる健康被害や食中毒を理解することは重要である。医薬品の微粒化など、ヒトの健康に与える影響、毒性の発現メカニズムも多様化している。また、健康志向の高まりから、機能性食品の開発も激化し、その品質担保が必要とされている。本講義では化学物質が健康に与える影響を分子レベルから環境との関わりまで幅広く講義し、関連する規制・制度や関連法規を含めて解説する。 (オムニバス方式/全8回) (106 長田 茂宏/2回) 遺伝情報発現の流れは生命現象の理解に重要であるため、その基礎を説明し、健康科学、疾患との関わりを概説する。 (8 岩尾 康範、148 福田 達也/2回) 超高齢社会の現状と健康長寿について概説し、健康長寿を実現する製剤・DDS技術に関する知識を修得する。 (5 長野 一也、146 山下 琢矢/1回) 機能性食品に求められる要素を医薬品と比較しながら考察し、高品質な機能性食品の開発・利用について理解を深める。 (131 佐能 正剛/1回) 化学物質の環境動態及びヒトにおける健康影響、毒性発現メカニズムについて講義する。 (3 平田 収正/2回) 環境要因によって起こる疾病や食品の変質及び汚染によって起こる健康被害や食中毒について、関連する規制・制度や関連法規の理解のもとに、実効性のある予防・防止策を立案する。	オムニバス方式・ 共同 (一部)	

授 業 科 目 の 概 要				
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
特別 科目	A 区分	社会医学特別演習	<p>(概要) 法医学、環境保健予防医学、公衆衛生学、医療統計学、医療データサイエンス学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における主要テーマについて文献を読み、専門的知識を修得するとともに、分析疫学的手法などの社会医学における研究手法について理解を深める。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(76 近藤 稔和、13 石田 裕子、42 野坂みずほ、136 石上安希子) 突然死や自殺の異状死に関する最新の文献を読み発表の上議論し、突然死や自殺の現状を理解する。</p> <p>(77 藤吉 朗、14 東山 綾、154 竹村 重輝、61 鈴木春満) ①生活習慣病の予防に関する特定のトピックを指導教員のもとで選択し、それに関する知見を発表する。②統計ソフトの基本操作を紹介する。③「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を学ぶ。適時e-learningを活用する。</p> <p>(15 牟禮 佳苗) 予防医学、特に先制医療としての個別化予防医学に重点をおき、実際のデータを用いて統計ソフトを使用して解析する。</p> <p>(1 下川 敏雄、67 万 可) 医療統計学及び統計的機械学習に関する英文書籍を用いて、英文での科学論文を作成するための基礎を学ぶとともに、統計手法の理論的な背景を理解する。</p> <p>(1 下川 敏雄) リアルワールド・データ及び公的マイクロデータの現状並びに利用に関する知識を取得する。また、pythonを用いたデータハンドリングの方法について理解する。</p>	
		形態機能医学特別演習	<p>(概要) 統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、人体の機能や構造などに係る形態機能医学の各分野に係る文献を読み、専門的知識を修得するとともに、基本的な研究手法や実験手技について理解を深める。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(70 中田 正範、10 廣野 守俊) 生理学的研究手法の原理を解説し、実際に細胞実験を指導する。</p> <p>(73 西谷 友重、38 納富 拓也、39 陳 以珊、152 安田純平) 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構について概説する。またこれに必要な解析方法について理解を深め、ディスカッションを行う。</p> <p>(74 江幡 正悟、41 及川 恒輔、40 中西 雅子) がん研究で用いられる基本的な手法について解説するとともに、実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。</p>	
		細胞分子機能医学特別演習	<p>(概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、分子病態解析学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、疾患を細胞、分子及び遺伝子レベルで理解することを目標とし、関連文献を読むことにより専門的知識を修得するとともに、基本的な解析手法などについて理解を深める。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(71 井原 義人、11 西辻 和親) 生体分子の代謝の基礎とその医学生理学的意義について、講述や文献解読などを通じて学ぶ。</p> <p>(72 井上 徳光、12 片山 圭一、134 馬場 崇) 遺伝子や遺伝学の基礎的な知識を理解し、そのために必要な知識や方法について学ぶとともに、実際に実験を行うことで技術の修得を目指す。</p> <p>(80 橋本 真一、62 岩淵 禎弘) 疾患をゲノム、遺伝子レベルで理解することを目標とし、関連文献を読むことにより専門的知識を修得するとともに、基本的な解析手法などについて理解を深める。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
特別 科目	B 区 分	総合医療医学特別演習	<p>(概要)放射線医学、救急・集中治療医学、麻酔科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科・外科にとらわれない総合医療医学の各分野における主要テーマについて文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(94 園村 哲郎、119 南口 博紀、53 生駒 颯)</p> <p>CTやMRIなどを用いた画像診断についての論文を読み、討議する。</p> <p>(23 上田健太郎、120 田村 志宣、54 米満 尚史、144 宮本 恭兵)</p> <p>標準化された救急医療に関する知識を修得し、その教育技法について学ぶ。救急診療におけるデータベース構築のあり方と集積されたデータに基づいた標準化された診療の成り立ちを学ぶ。</p> <p>(95 川股 知之、55 時永 泰行、56 藤井 啓介、57 山崎 亮典)</p> <p>周術期医療に関する文献を読み理解を深めるとともに、議論する。</p>	
		器官病態内科学特別演習	<p>(概要)糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(81 松岡 孝昭、43 森田 修平)</p> <p>糖尿病に関する概説的な講義を行う。また糖尿病発症メカニズムに関する最新の文献を読み、教員と議論を行うことにより、糖尿病に関する理解を深める。</p> <p>(82 山本 信之、16 中西 正典、123 洪 泰浩、44 早田 敦志、139 藤本 大智)</p> <p>呼吸器疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、呼吸器疾患に関する理解を深める。</p> <p>(83 田中 篤、122 谷本 貴志、45 山野 貴司、58 黒井 章央、140 塩野 泰紹)</p> <p>循環器疾患に関するイメージングを用いた診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法の最新の研究手法及び成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。</p> <p>(84 荒木 信一、17 大矢 昌樹、155 中島 悠里)</p> <p>腎疾患の発症機序、治療に関する文献を抄読し議論を行うことで、自らが新たな臨床課題を見出すことができる能力を養う。</p> <p>(86 藤井 隆夫、18 岩田 慈)</p> <p>関節リウマチ(主として藤井が担当)や全身性エリテマトーデス(主として岩田が担当)については、その治療の進歩が発症機序の解明にも役立っている。これらの治療が開発された経緯と、臨床研究法について論文をもとにディスカッションし、結果について考察を加えていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	B区分	<p>器官病態外科学特別演習</p> <p>(概要) 脳神経外科学、整形外科、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、外科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(87 中尾 直之、19 西林 宏起、118 深井 順也、46 北山 真理、47 八子 理恵、48 中井 康雄、143 佐々木貴浩) 脳神経外科学における主要テーマである脳腫瘍や脳卒中について文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(88 山田 宏、20 岩崎 博、26 筒井 俊二、27 高見 正成) 運動器加齢変性疾患の疫学的調査研究に関する概説的な講義を行うとともに、最新の文献を読み、教員と議論することにより、運動器加齢変性疾患に関する理解を深める。</p> <p>(2 中川 幸洋) 脊椎脊髄疾患に対する新たな低侵襲治療についてその臨床的意義の検証のため、画像の経過及び臨床症状の経過並びに評価を行う。</p> <p>(90 雑賀司珠也、97 岡田 由香、21 住岡 孝吉、25 小門 正英、① 田中 才一、29 白井 久美、50 高田 幸尚) 講義及び演習を行う。眼組織創傷治癒に関する文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学び、実践能力を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、創傷治癒の評価等における実験結果の解釈やまとめ方について学ぶ。</p> <p>(91 保富 宗城、22 玉川 俊次、52 河野 正充、51 大谷真喜子) 聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚について、人工内耳の最新情報と聴覚評価法の解説、めまい・平衡覚の機序、嗅覚・味覚の機序と嗅覚障害動物モデルの解説を行う。嚥下機序の解説と評価法、嚥下改善手術の解説を行う。また、頭頸部癌におけるパピローマウイルス・EBウイルスによる発癌機序と癌転移機序の解説を行う。耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症の原因微生物と難治化機序、抗菌薬適正使用の解説を行う。</p>	
	C区分	物理・化学薬学特別演習	<p>(概要) 天然に存在するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物が有する機能を理解するために、最新の研究を踏まえた討論を教員と共に行うことにより、研究結果をより深く解釈し、研究発表能力を高める。</p> <p>(3 平田 収正) 生体の分子レベルでの酸化ストレス防御機構とその破綻によって起こる疾患に関する学術論文を読み、薬学的アプローチによるこういった疾患の予防・治療について議論を行う。</p> <p>(103 中津 亨、30 入江 克雅) 構造生物学研究に関連する論文を読み、専門的な知識、研究手法を理解し、それに基づいた討論を行う。</p> <p>(104 相馬 洋平、59 佐々木大輔) 有機化学を基盤とし、生体分子（主にペプチド・タンパク質）を自在に改変することで新たな生命機能の同定を可能とする研究及びこれを端緒とした医薬分子や創薬手法の創出に関して議論を行う。</p> <p>(105 田村 理、31 田中 千晶) 研究テーマに関する学術論文を読み、専門的知識及び研究の手法を理解し、天然有機化合物を扱うための技術を学ぶ。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	C 区分 生命薬学特別演習	<p>(概要) 遺伝子発現調節、中枢神経系機能異常に基づく慢性疾患の病態生理、体内動態などに関するテーマについて研究手法や実験手技について理解を深める。さらに研究成果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(5 長野 一也、146 山下 琢矢) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入するための講義を双方向で行う。その上で、最新の文献を理解し、教員と議論することで、問題解決能力を高める。</p> <p>(106 長田 茂宏、32 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解を深める。</p> <p>(6 那波 宏之、130 木口 倫一、147 難波 寿明) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の病態生理及び治療戦略に関する講義を行う。また最新の文献から得られる情報をもとに教員との議論を行い、当該分野における研究の動向や課題について理解する能力を養う。</p> <p>(4 太田 茂、131 佐能 正剛) 肝臓、肝外組織における代謝酵素の発現調節機構や生理機能に関する新しい知見を学び、疾患や副作用との関連性を議論しその理解を深める。</p>	
	D 区分 医療薬学特別演習	<p>(概要) 医療薬学、薬品作用学、薬剤学の各分野において講義及び演習を行う。最新の論文を詳読し研究動向を学び、研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察する能力を養い、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(7 赤池 昭紀) 医療薬学分野において講義及び演習を行う。最新の論文を詳読し研究動向を学び、研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察する能力を養い、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(109 新谷 紀人、60 岩田 圭子) 薬理学・生命科学に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p> <p>(8 岩尾 康範、148 福田 達也) 薬剤学に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	D 区分 臨床・社会薬学特別演習	<p>(概要) 薬剤師としての臨床活動における研究テーマについて議論を行うことで、薬剤師の役割の理解を深める。あわせて、臨床研究におけるクリニカルクエストの重要性について学ぶ。</p> <p>(9 松原 和夫) 薬剤師の臨床活動と患者アウトカムの改善に関する文献を検索し、今後の臨床薬剤師の方向性について討論する。</p> <p>(④ 中川 貴之、33 松本みさき) 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学に関する概説的な講義を行う。またこれらに関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、病院薬学研究に資する知識や技術を獲得する。</p> <p>(⑥ 江頭 伸昭、34 山田 孝明) 学生の研究テーマの発表を中心に報告会形式で行い、自身の研究内容の深い理解とともに理論立てて議論できる能力を修得する。また、研究テーマを含めた議論の中で、医療薬学や臨床薬理学等に関する理解を深める。</p> <p>(⑦ 今井 哲司、35 山下 哲) 慢性疼痛や睡眠障害の神経科学的な発症機序について講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより最新知見だけでなく、アンメットメディカルニーズや新規治療戦略に関する理解を深める。</p>	
A 区分	社会医学特別研究	<p>(概要) 法医学、環境保健予防医学、公衆衛生学、医療統計学、医療データサイエンス学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における地域の保健医療課題等に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につける。</p> <p>(76 近藤 稔和、13 石田 裕子、42 野坂みずほ、136 石上安希子) 法医学実務で遭遇する損傷死モデルを作成し、その分子メカニズムの解析に係る研究指導を行う。</p> <p>(77 藤吉 朗、14 東山 綾、154 竹村 重輝) ①論文作成に必要な背景知識(統計、倫理を含む)を理解し、指導のもと可能な限り関連した実務も行う。②研究テーマにつき学会発表を目指し、修士論文を執筆する。適時e-learningを活用する。</p> <p>(15 牟禮 佳苗) 予防医学、特に先制医療としての個別化予防医学に重点をおき、公衆衛生学講座で行っているコホート研究に参加し、検体の分析から統計解析までを行い、また論文作成の指導を行う。</p> <p>(1 下川 敏雄) 統計解析環境R及びpythonを用いた統計手法のプログラミング技法を取得するとともに、研究テーマに関連する統計手法をシミュレーション等を通じて評価するための方法について指導する。</p> <p>(1 下川 敏雄) リサーチクエストを定式化し、研究計画を立案するための方法について指導する。さらに、研究計画を実現するためのデータベースをリアルワールド・データあるいは公的マイクロデータ等を用いて作成するための技術について指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	A 区分 形態機能医学特別研究	<p>(概要) 統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における地域の保健医療課題等に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につける。</p> <p>(70 中田 正範、10 廣野 守俊) 生理学的研究によりデータを集積し、文献の収集と議論を行い、研究結果の解析と考察を進めて論文作成を指導する。</p> <p>(73 西谷 友重、38 納富 拓也、39 陳 以珊、152 安田 純平) 興奮性組織におけるイオンシグナル制御に対し様々な薬剤の効果が評価できるよう研究指導を行う。またデータの収集・解析、論文執筆など論文作成のための指導を行う。</p> <p>(74 江幡 正悟、41 及川 恒輔、40 中西 雅子) 形態学的な情報や遺伝子発現の情報に基づき、がん細胞が獲得している悪性形質を評価する研究手法を指導する。</p>	
	細胞分子機能医学特別研究	<p>(概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、分子病態解析学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における地域の保健医療課題等に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につける。</p> <p>(71 井原 義人、11 西辻 和親) タンパク質の“糖鎖/糖付加修飾”に焦点を絞り、糖質科学の観点から細胞機能を評価するため、生体分子の取り扱い、分離、精製、分析、遺伝子工学などの実験手技について研究指導を行い、研究成果をもとに論文作成の指導を行う。</p> <p>(72 井上 徳光、12 片山 圭一、134 馬場 崇) 疾患に関わる分子メカニズムを理解し、新規分子メカニズムの解明、新規診断方法の開発、新規治療戦略の開発について研究指導を行う。</p> <p>(80 橋本 真一、62 岩淵 禎弘) 本特別研究では、分子病態解析学において研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などに関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p>	
B 区分	総合医療医学特別研究	<p>(概要) 放射線医学、救急・集中治療医学、麻酔科学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える地域の保健医療課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(94 園村 哲郎、119 南口 博紀、53 生駒 頭) CTやMRIなどの診断能を解析し、学会発表や論文作成の指導を行う。</p> <p>(23 上田健太郎、120 田村 志宣、54 米満 尚史、144 宮本 恭兵) 標準化された救急診療内容を教育するための方略について指導し、シュミレーション教育や臨床現場での教育手法に関わる論文作成を指導する。</p> <p>(95 川股 知之、55 時永 泰行、56 藤井 啓介、57 山崎 亮典) 周術期医療に関する研究を立案し、実行する。データ解析し、発表する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区 分	<p>器官病態内科学特別研究</p> <p>(概要) 糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える地域の保健医療課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(81 松岡 孝昭、43 森田 修平) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムを理解するためのin vivo/in vitro研究手法の修得に向け指導し、実際に新知見の探求のための実験を行う。また、得られた結果については発表の機会を設ける。</p> <p>(82 山本 信之、16 中西 正典、123 洪 泰浩、44 早田 敦志、139 藤本 大智) 呼吸器疾患に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(83 田中 篤、122 谷本 貴志、45 山野 貴司、58 黒井 章央、140 塩野 泰紹) 冠動脈疾患に関する新しい診断技術の開発、それらを用いた基礎・臨床研究を指導し、論文作成を行う。</p> <p>(84 荒木 信一、17 大矢 昌樹) 体内環境調節に関する研究課題を設定し、研究計画の立案、実験・解析を遂行していくための技能を修得できるよう指導を行う。</p> <p>(86 藤井 隆夫、18 岩田 慈) 関節リウマチや全身性エリテマトーデスについては、その治療の進歩が発症機序の解明にも役立っている。リウマチ・膠原病学についてはこれらの疾患の治療ターゲットがどのような機序で病態の形成につながっているのかを、論文をもとに議論する。特にわれわれの研究室では自己抗体の研究を中心に行っており、臨床の現場に還元しうる自己抗体の臨床的意義を研究する。</p>	
		<p>器官病態外科学特別研究</p> <p>(概要) 脳神経外科学、整形外科学、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える地域の保健医療課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(87 中尾 直之、19 西林 宏起、118 深井 順也、46 北山 真理、47 八子 理恵、48 中井 康雄、143 佐々木貴浩) 脳神経外科学の主要テーマである脳腫瘍や脳卒中における研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を指導する。また研究結果を発表するための論文作成指導を行う。</p> <p>(88 山田 宏、20 岩崎 博、26 筒井 俊二、27 高見 正成) 運動器加齢変性疾患疫学調査データベースの解析による運動器加齢変性疾患の病態解明に関する研究を行う。</p> <p>(2 中川 幸洋) 骨粗鬆症性椎体骨折の低侵襲治療の新たな手術手技の検証を踏まえ、新たな手術手技開発の計画の立案指導及び論文作成の指導を行う。</p> <p>(90 雑賀司珠也、97 岡田 由香、21 住岡 孝吉、25 小門 正英、① 田中 才一、29 白井 久美、50 高田 幸尚) 修士論文作成の指導を行う。研究課題の設定から研究計画の立案、データの収集・解析や実験を遂行する。眼組織の生体反応に関して、日々の臨床活動や地域の保健医療の課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献することの重要性を説く。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	B区分	(91 保富 宗城、22 玉川 俊次、52 河野 正充、51 大谷真喜子) 人工内耳による聴覚機能の改善、めまい及びスポーツ医学における平衡覚の解析、嗅覚障害の診断法と嗅覚トレーニングに関する研究指導及び論文作成指導を行う。頭頸部癌・甲状腺癌の治療予後についての研究指導及び論文作成指導を行う。また、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症の難治化機序と抗菌薬適正使用についての研究指導及び論文作成指導を行う。	
	C区分	物理・化学薬学特別研究 (概要) 天然に存在する新規の生理機能を有するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物の探索と、これらの物質の機能解析、構造生物学的解析や有機化学的変化による機能強化、疾病の予防・治療への応用に向けた基礎研究を行う。 (3 平田 収正) 生体における分子レベルでの酸化ストレス防御機構とその破綻によって起こる疾患について、薬学的アプローチによるこういった疾患の予防・治療に関する研究を行う。 (103 中津 亨、30 入江 克雅) 生体高分子メカニズムの構造基盤解明及び構造生物学的解析法に関する研究を行う。 (104 相馬 洋平、59 佐々木大輔) 有機化学を基盤とし、生体分子(主にペプチド・タンパク質)を自在に改変することで新たな生命機能の同定を可能とするとともに、これを端緒とした医薬分子や創薬手法の創出について研究を行う。 (105 田村 理、31 田中 千晶) 医薬品として用いられる天然有機化合物の基原、構造及び構造解析、作用などに関する研究を行う。	
	生命薬学特別研究	(概要) 遺伝子発現調節、中枢神経系機能異常に基づく慢性疾患の病態生理、体内動態などに関するテーマについて修士論文作成指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、実験の実施、研究データの収集及び解析を遂行する。 (5 長野 一也、146 山下 琢矢) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入する研究課題を設定し、問題解決を図る研究を行う。 (106 長田 茂宏、32 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する課題を設定し、専門的知識・技術を活用しながら研究活動を行う。 (6 那波 宏之、130 木口 倫一、147 難波 寿明) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の分子基盤解明に繋がる課題を設定し、神経生理学、神経薬理学、分子神経科学的な手法を用いて研究を行う。 (4 太田 茂、131 佐能 正剛) 肝臓、肝外組織における代謝酵素の発現調節機構や生理機能に関する新しい知見を見出し、疾患や副作用との関連性を見極める研究を行う。	
D区分	医療薬学特別研究	(概要) 医療薬学の各分野において修士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法や実験手技を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して医療薬学の進展に貢献できる高度な研究能力を身につける。 (7 赤池 昭紀) 医療薬学領域の各領域に関わる研究を行う。 (109 新谷 紀人、60 岩田 圭子) 薬理学・生命科学領域の科学技術の発展に資する新しい研究課題を立案・設定し、多様な実験アプローチによる究明を図り、成果公表につなげる。 (8 岩尾 康範、148 福田 達也) 薬剤学の発展に資する新しい研究課題を立案し、in vitro 及びin vivoの多様な実験による究明を図り、成果公表につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	D 区分 臨床・社会薬学特別研究	<p>(概要) 臨床研究を行う上で最も重要なクリニカルクエスチョンを設定し、「①どのような患者に、②どのような評価・治療をしたら、③何と比較して、④どのような結果になるか？」という4つの要素に定式化することを学び、薬学領域における臨床研究能力を身につける。</p> <p>(9 松原 和夫) 医薬品適正使用及び新たな薬剤師業務の構築・評価に関する研究を行う。</p> <p>(④ 中川 貴之、33 松本みさき) 病院診療記録や医療ビッグデータ等から得られた様々な臨床課題をもとに、実験モデル構築、治療標的の探索、予防/治療薬開発等の基礎研究、あるいはその臨床課題を解決するための臨床研究を行う。</p> <p>(⑥ 江頭 伸昭、34 山田 孝明) 医療薬学、臨床薬理学等に関する設定された研究テーマのもとで特別研究を行うことにより、高度な技術・知識を修得する。</p> <p>(⑦ 今井 哲司、35 山下 哲) 末梢神経障害や睡眠障害を中心とした神経疾患の発症機序解明を目的とした研究指導を行う。また、新規治療戦略の提言を行うための研究手法修得を目的とした指導を行い、アカデミア創薬を推進する高度医療人材の養成を目指す。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究倫理・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・薬学における教育、研究及び臨床は、生命に対する尊厳や倫理観をもって行われなければならない。本講義では、動物実験や遺伝子組み換え実験などにおける研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、生命医療科学研究者、専門職医療人として求められる高い倫理観を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(87 藤井 隆夫/1回) 基礎研究に関連する倫理及び人を対象とする医学系研究に関する倫理(ヘルシンキ宣言、COI、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、臨床研究法など)について概説する。</p> <p>(79 改正 恒康、132 佐々木 泉/2回) ゲノム編集の基礎及び応用について理解する。また、遺伝子組み換え実験の基礎及び安全管理について理解する。</p> <p>(121 磯野 協一、109 新谷 紀人/1回) 適正な動物実験を実施するために動物実験の意義、動物と動物実験に求められる倫理的配慮及び法規制の現状について概説する。また動物の飼養と取扱いについて解説する。</p> <p>(86 園木 孝志/1回) 最近、疾患にみられるゲノム情報を用いた診断や治療方針決定が実際の臨床に応用されている。ゲノム情報を応用した診療の実際を講義し、臨床現場に潜在する倫理的問題を具体的な事例を加えて討論する。</p> <p>(96 川股 知之/1回) 医療法施行規則に定める高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等の臨床導入の実際を理解する。</p> <p>(7 赤池 昭紀/2回) 新医薬品の開発、審査、承認の具体例について概説するとともに、薬学、医薬品健康被害の具体例及びその救済制度を紹介する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	多職種連携B	<p>(概要) 地域の保健医療課題の解決においては、各分野を専門とする医療従事者の連携が重要である。本講義では、医学、薬学、保健看護学の観点から多職種連携の実践に係る手法・知識を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(98 村田 顕也/1回) 脳卒中・心不全患者を対象として医師、看護師、保健師、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士などの多職種が連携して急性期病院から慢性・療養期治療までのシームレスな診療体制を構築する方法を学ぶ。</p> <p>(125 幸田 剣/1回) リハビリテーション診療において重要な多職種連携を実践するための急性期リハビリテーションのシステム構築について解説する。</p> <p>(25 水本 一弘、137 田村 彰/1回) 多職種連携に必須であるノンテクニカルスキルの基礎を理解し、実践のための手法を修得する。</p> <p>(94 松村 達志/1回) 周術期を中心に、その他想定される臨床現場での医科歯科連携について講義する。</p> <p>(113 江頭 伸昭、36 山田 孝明/1回) 高度化する薬物療法及び複雑化する副作用のマネジメントに対する薬剤師の関わり、並びに多職種連携における薬学的研究について解説する。</p> <p>(9 松原 和夫/1回) チーム医療を実現させるための薬学的介入と情報共有のあり方について概説する。</p> <p>(103 水田真由美/1回) チーム医療における看護職の役割について講義し、チーム医療における医療従事者の連携について理解を深める。</p> <p>(104 辻 あさみ/1回) 病をもつ人の就労関連ニーズや課題について考察し、働く意欲をもった人が働き続けるために必要な支援や体制、多職種連携のあり方について検討する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療情報リテラシーB	<p>(概要) 医療ビッグデータやゲノム情報などの医療情報を取り扱う研究分野の重要性が増していることから、医療情報の処理や活用方法を倫理的な観点も含めて修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 下川 敏雄/2回) 医療におけるデータマネジメントの方法について解説する。また、医療ビッグデータ(リアルワールド・データ)の国内外の現状について解説する。</p> <p>(15 牟禮 佳苗/1回) 出生コホート、地域住民コホート、疾患コホート、ゲノムコホートなどで取り扱う医療情報の種類と、取り扱いの留意点を修得する。</p> <p>(81 橋本 真一/1回) ゲノム、オミックス情報などの医療情報の処理や活用方法を倫理的な観点も含めて修得する。</p> <p>(141 阿部 寛康/2回) 薬学研究で活用される医療情報には様々な形式のデータが存在するが、その多くは個体×変量という表形式でまとめられる。そのような表形式データから、多くの変量間の関係をみるための多変量解析と呼ばれる統計解析手法の使用方法を解説する。</p> <p>(114 伊藤 達也/2回) 臨床研究・治験では、得られたデータの信頼性保証がなければ、論文や承認申請に用いることはできない。そのため信頼性のあるデータを適切に構築・評価できる能力を修得する。副作用防止や相互作用回避など適正な医薬品使用を推進するため、電子カルテ上の医薬品情報を適切に評価・活用できる能力を修得する。</p>	オムニバス方式
ベーシック科目	発展的研究方法論	<p>(概要) 電気生理学的実験方法や社会調査法、トランスレーショナルリサーチなどの発展的研究方法や研究の進め方などについて学び、研究を遂行する上で必要となる専門的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(69 金井 克光/1回) 「『研究をする』ということ ～ タウから見た神経細胞」をテーマに講義を行う。</p> <p>(118 木村 晃久、128 井邊 弘樹/1回) 視床と大脳皮質の機能連関に基づく感覚機能と制御及び中枢神経における疼痛制御とストレスの神経機構に関する実験の方法を説明する。</p> <p>(10 廣野 守俊/1回) 光遺伝学や化学遺伝学を組み合わせた電気生理学的手法やイメージング法によって、近年解明された脳活動の基盤研究について講義する。</p> <p>(123 北野 尚美/1回) 量的および質的な調査法について概説する。自記式質問紙法による調査の基本と調査票の設計方法について解説する。</p> <p>(122 井原 勇人/2回) 生命科学実験への応用例や核医学、放射線治療法への利用例などについて理解を深めるとともに、自身の研究に応用できることを目指す。また、トランスレーショナルリサーチの概論についての知識を修得するとともに、自身の研究成果を知財化し臨床応用につなげるためには、どうすれば良いのかを事例を通じて学習する。</p> <p>(32 入江 克雅/1回) 構造生物学に関する最先端の研究手法について概説する。</p> <p>(106 相馬 洋平/1回) 有機化学を基盤とした先端的な創薬化学について概説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	疫学方法特論	<p>(概要) 本講義では、ヒト集団を対象とした広義の疫学研究 (いわゆる臨床研究も含む) の立案や、関連論文の批判的吟味に必要なとされる疫学の重要概念や研究手法を系統的に理解・修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(15 牟禮 佳苗/2回) ヒトを対象とした研究で理解が必須である研究デザインについて講義する。また、偶然誤差・系統誤差 (バイアス) の概念、妥当性・再現性、交絡に関し講義する。</p> <p>(14 東山 綾/2回) 有病率、累積罹患率、罹患率、相対危険度 (オッズ比を含む) などを講義する。また、生物学的交互作用、統計的交互作用について講義する。</p> <p>(78 藤吉 朗/2回) 疫学の歴史、疫学研究の定義、医学研究における位置づけなどを論ずる。また、Hillの基準、”因果のバイモデル”を示し十分原因 (sufficient cause) などについて講義する。</p> <p>(112 岡田 浩/2回) 診断関連の指標 (感度、特異度、ROCなど) について講義する。また、EBMの成り立ち・考え方、臨床応用について講義する。</p>	オムニバス方式
	Advanced Academic English	<p>(概要) 医療系の英語論文の読み方や発展的な文法知識、英語論文を執筆する際のルール、学会等でのプレゼン方法などについて学び、国際的活躍の基盤となる英語論文による発信方法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(102 廣田 麻子/4回) 医療系論文の読み方を教授する。また、論文執筆者が犯しやすいスペル・文法・語法の誤りを解説する。医療系論文執筆の基礎と医療系雑誌の「決まりごと」に沿った英語について解説する。</p> <p>(38 辻 早代加 /2回) 英語論文における発展的な文法知識を修得する。</p> <p>(31 朱 妹/2回) 英語論文の書き方について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	基礎医学・薬学特論 I	<p>(概要) 実験動物モデルの作成手法や生命医療科学研究推進の基盤となる生理学、分子病態解析学、生体機能解析学などの医学、薬学両分野における知識を身につける。専門分野以外の知識・見識も修得することにより、医科学薬学横断的な観点から考察する能力を修得するための基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(92 雑賀司珠也/1回) 疾患モデル動物を作出する際の注意点、遺伝子改変マウスの使用上の法令・規則、作成方法に関する発展的知識、場合によっては自身で作成するために必要な知識を身につける。</p> <p>(101 牧野 誠司/1回) 放射線源・放射線発生装置や放射線検出器の原理と、放射線によって引き起こされる現象について学ぶ。</p> <p>(76 西尾真智子、130 太田 圭介/1回) 感染症の原因となる微生物についての基礎的知識を解説し、様々な感染症について理解を深める。</p> <p>(81 橋本 真一/1回) 分子病態解析学の知識・実験技術等について、ゲノム医学を中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。</p> <p>(77 近藤 稔和/1回) 組織修復・線維化のマウスモデルの作成法を概説し、組織修復・線維化の分子メカニズムについて解説する。</p> <p>(118 木村 晃久、128 井邊 弘樹/1回) 電気生理学的、免疫分子生物学的方法で解る神経システムの構造と機能を説明する。</p> <p>(6 那波 宏之、126 木口 倫一、139 難波 寿明/2回) 脳疾患の各種動物モデルを紹介した上で、それらモデルの病態解析法や創薬利用についての現状を理解する。神経化学研究における基礎的知識を説明するとともに、それらを応用した最新の研究手法を紹介する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	基礎医学・薬学特論Ⅱ	<p>(概要) 生命医療科学研究推進の基盤となる薬理学、分子機能形態学、薬品作用学などの知識を身につける。専門分野以外の知識・見識も修得することにより、医科学薬学横断的な観点から考察する能力を修得するための基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(74 西谷 友重／1回) 様々な薬の種類について概説し、特に注意が必要な薬物に関し、取り扱い方法などを解説する</p> <p>(70 森川 吉博、117 小森 忠祐／1回) 生体の恒常性を維持するために細胞間でのシグナル伝達を担う生理活性物質であるサイトカインの造血・免疫系、神経系、代謝系、筋骨格系などにおける機能とその異常による病理・病態について概説し、最新の知見を紹介する。</p> <p>(80 齋藤伸一郎／2回) 受容体、そして細胞内シグナル伝達の様々な機構について講義する。</p> <p>(109 新谷 紀人、63 岩田 圭子／1回) 種々の生命現象や機能形態の制御におけるミトコンドリアの重要性と、その創薬上の意義に関する最新知見を紹介する。</p> <p>(115 今井 哲司／1回) オピオイド鎮痛薬の薬物依存や耐性形成に関わる神経薬理学的メカニズムについて解説するとともに、臨床における現状や課題について紹介する。</p> <p>(35 松本みさき／1回) 活性酸素種 (ROS) 及びレドックスシグナルの病態生理学的な役割について概説し、創薬の可能性及び最新の知見を紹介する。</p> <p>(126 木口 倫一／1回) 末梢神経及び中枢神経系における神経-免疫連関を軸とした感覚障害の病態分子基盤について最新の知見を紹介する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	地域医療課題特論Ⅰ	<p>(概要) 本県におけるがんや脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの状況について学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(83 山本 信之／1回) 我が国及び本県におけるがんの疫学、治療方法の最新の動向について解説する。</p> <p>(90 中尾 直之／1回) 本県における脳血管障害の状況について学び、脳卒中の予防に向けた地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力を培う。</p> <p>(84 田中 篤／1回) 循環器疾患の診断に関する基礎知識及び最新の研究成果を概説し、地域の保健医療における循環器疾患課題への理解を深める。</p> <p>(82 松岡 孝昭／1回) 糖代謝について概説し、糖尿病の発症と治療に関するメカニズムについて解説する。</p> <p>(89 紀本 創兵／1回) 精神疾患の成因を理解し、疾患に対する治療・介入の方法について高い知識レベルで習得する。</p> <p>(134 高 真守／1回) 難治性神経疾患における最新の診断・治療法について講義する。</p> <p>(116 須野 学／2回) 殺細胞性抗がん薬を用いた治療とその効果と副作用マネジメントに必要な知識を修得する。分子標的治療薬 (低分子医薬品、抗体医薬品) を用いた治療とその効果と副作用マネジメントに必要な知識を修得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	地域医療課題特論Ⅱ	<p>(概要) 本県における地域医療の現状や救急医療、周産期医療などについて学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(46 山野 貴司/1回) 日本や和歌山県で医療格差を改善するために過去に実行された施策を学び、現在必要とされている社会基盤の変化との解離を理解する。日本や海外でのICTの利活用の事例を学び、今後社会サービスの一元化にむけて、そのサービスのひとつである地域医療がどのように携わるべきかを検証する。</p> <p>(24 上田健太郎/1回) 近い将来やってくる「南海トラフ地震」に備えた和歌山県の取り組みを中心に、災害医療についての理解を深めながらその対策を議論していく。</p> <p>(99 廣西 昌也/1回) 全国有数の高齢化県である和歌山県の地域医療課題を抽出し、今後の課題について学ぶ。</p> <p>(91 井筒 一彦/1回) 本県における周産期医療の状況と課題及び出生前診断について解説し、地域医療に果たす産科医の役割の重要性や課題について理解し考察する。</p> <p>(94 松村 達志/1回) 歯科口腔外科とアンチエイジングについて講義する。</p> <p>(88 徳原 大介/1回) 和歌山県内の小児地域医療・救急医療の現状(疾病の有病率の年次推移、急病診療所受診割合、小児科医数など)や小児に関する社会的問題点(虐待、不登校、肥満など)について統計学的データをもとに学び、本学附属病院小児科並びに各地域の総合病院やクリニックの小児科医との連携体制について理解し、現在の県内小児医療の問題点・課題に対する今後の取組について考察する。</p> <p>(112 岡田 浩/2回) 地域薬局におけるファーマシューティカルケアの拡大について解説する。地域薬局におけるヘルスプロモーションについて解説する。</p>	オムニバス方式
専門科目	医系型 臨床医学特講	<p>(概要) 臨床医学の各分野におけるより高度な知識や最近の話題などについて幅広く学び、各疾患等における最新の知見を修得することにより、生命医療科学研究や高度先進医療・地域保健医療の推進に寄与できる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(143 中山 宜昭/1回) 神経変性疾患の臨床像、病理について解説し、その発症メカニズムについて解説する。</p> <p>(24 上田健太郎/1回) 救急・集中治療医学の総論を解説し、最近の注目すべき動向について考察し、理解を深めていく。</p> <p>(50 福井 大輔/1回) 変形性膝関節症について概説し、発症メカニズムや再生医療を含めた膝関節温存治療や人工関節手術について近年の動向を解説する。</p> <p>(97 小泉 祐介/1回) 新興感染症、院内感染症など臨床的に重要な感染症に関する最新の知見を修得する。</p> <p>(16 中西 正典/1回) 喘息など気道疾患における気道炎症の評価やモニタリングの方法を解説する。</p> <p>(135 北畑 裕司/1回) 膵癌の病態と治療について概説する。また、予後改善のための最新の膵癌治療戦略について解説する。</p> <p>(44 森田 修平/1回) 糖代謝制御機構とその臨床応用につき理解する。</p> <p>(137 田村 彰/1回) 小児心身症を引き起こす生物学的要因、社会環境要因、トラウマ要因を分析し、分析結果に基づいた対処方法についての理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	医 系 型 健康科学特講	<p>(概要) 高齢化社会における疾患や地域における身近な疾患についてより専門的に学ぶことにより、課題の解決に向けて主導的に取り組む能力を養うとともに、高度先進医療・地域保健医療を推進する能力を培う。また、専門職医療人として必要な高度な臨床知識・技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(123 北野 尚美/1回) ライフコースにそった健康課題解決のアプローチとして、健康関連データの利活用における最近の動向について考察する。</p> <p>(2 中川 幸洋/1回) 脊椎脊髄疾患の治療の現状及び低侵襲治療の概説を行い、新しい研究開発に向けた知識の修得を行う。</p> <p>(125 幸田 剣/1回) 障がい者スポーツについて概説し、障害者アスリートにおける医科学的課題やスポーツの有用性について解説する。</p> <p>(19 岩田 慈/1回) 膠原病の病因(遺伝的素因、環境因子)・病態と最新治療(特に生物学的製剤などの分子標的薬)を学習するとともに、今後の課題を理解する。</p> <p>(29 田中 オー/1回) ジェネラリストの医師として全身疾患による眼疾患(内服・点滴などによる眼疾患含む)の知識を修得する。</p> <p>(85 荒木 信一/1回) 我が国及び和歌山県における慢性腎臓病・透析医療の現況を理解し、今後の医療課題解決に向けた取組を考えていくための知識・技能を修得する。</p> <p>(17 北端 宏規/1回) 各心不全ステージ(A, B, C, D)に応じた診断法、適切な治療選択について講義する。</p> <p>(93 保富 宗城/1回) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域における宿主と病原微生物の相互作用による感染免疫・感覚免疫及び頭頸部癌転移における腫瘍免疫に関する理解を深める。</p>	オムニバス方式
	薬 系 型 創薬標的評価学特講	<p>(概要) 創薬に関わるタンパク質、化合物開発、遺伝子改変マウスによる創薬評価手法を学ぶことにより、創薬研究に向けた最新の知識及び技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(105 中津 亨、32 入江 克雅/4回) 創薬ターゲットに関連したタンパク質に関する構造生物学的な最新の研究内容を概説する。</p> <p>(106 相馬 洋平、62 佐々木大輔/2回) タンパク質の立体構造情報に基づいた医薬品開発論について概説する。</p> <p>(109 新谷 紀人/2回) 遺伝子改変動物の作製と活用、各種のスクリーニング系を用いた創薬標的の評価手法を概説する。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 科目	薬 系 型	神経薬理学特講	<p>(概要) 精神疾患、睡眠障害、疼痛などの重要な中枢神経系疾患の感覚変化、病態原理とその研究最前線を紹介し、その現状と課題を紹介する。当該疾患に対する主要な治療薬と創薬の現状を学び、その作用機序、副作用について修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(111 中川 貴之/1回) 触覚、圧覚、温冷覚、痛覚など外界刺激を受容する感覚受容器に関する最新の知見について知識を修得する。</p> <p>(35 松本みさき/1回) 神経疾患における酸化ストレスの病態生理学的な役割について理解を深め、創薬の可能性及び最新の知見に関する知識を修得する。</p> <p>(115 今井 哲司/1回) 末梢感覚神経を構成する神経繊維、髄鞘細胞の役割や痛覚伝導を制御する神経回路網の最新知見について概説する。</p> <p>(37 山下 哲/1回) 睡眠障害や不安障害の脳内メカニズムや自律神経による制御について説明するとともに、慢性疼痛下におけるそれら神経回路網の変化について紹介する。</p> <p>(109 新谷 紀人/1回) アストロサイトが関与する中枢神経疾患の分子病態や病態生理、新薬開発の課題等を紹介する。</p> <p>(63 岩田 圭子/1回) オリゴデンドロサイトが関与する中枢神経疾患の分子病態や病態生理、新薬開発の課題等を紹介する。</p> <p>(126 木口 倫一/1回) 痒みの伝達機構について痛みとの違いを説明し、痒み治療薬の作用機序を紹介する。</p> <p>(6 那波 宏之、139 難波 寿明/1回) 統合失調症と感情障害などの精神疾患の感覚障害と治療薬を概説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		基礎薬科学特講	<p>(概要) 基礎薬科学関連領域における、タンパク質化学構造論、有機薬化学、衛生化学、ケミカルバイオロジー、代謝栄養科学の基礎的事項から最新の知見まで幅広く学び、高度な研究力の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(105 中津 亨/1回) タンパク質で行われる化学反応について、立体構造に基づいて概説する。</p> <p>(106 相馬 洋平/1回) 薬学における有機化学の先端的な役割について概説する。</p> <p>(① 平田 收正/2回) 化学物質による健康被害や環境汚染について、国際的な動向も含めた現状と被害や汚染の発生メカニズムについて概説する。</p> <p>(107 田村 理、33 田中 千晶/2回) 生物活性を有する有用な天然有機化合物を用いて、生体内で作動しているシステムやメカニズムを明らかにする手法について具体例を交えて学び、基礎的知識を修得する。</p> <p>(110 岩倉 浩/2回) 代謝・栄養科学分野の基礎的事項から最新のトピックスについて取りあげ講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合型 がんに対する医学・薬学アプローチ	<p>(概要) 地域の保健医療課題の一つであるがんに対し、医科学・薬科学の両分野からアプローチし、がん医療の向上や治療薬の開発など課題の解決に向けて分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を育てる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(124 清水 俊雄／2回) 進行がんに対する新薬早期開発について最新の知見や動向を含め、前臨床試験からFIH (ファーストインマン) 試験に至るまで解説する。また、がん医療の向上や治療薬の開発における高度な研究を行うための基礎知識を修得する。</p> <p>(73 井上 徳光／1回) 2011年にCell誌に投稿されたHallmarks of Cancerのがんの10種類の特徴を列挙し、それぞれに関わる遺伝子の機能や分子メカニズムを理解する。さらに、その結果どのような薬物が開発されてきたかを学習する。</p> <p>(81 橋本 真一／1回) がんに対し、ゲノム・オミックス分野からアプローチし、がん医療の向上や治療薬の開発など課題の解決に向けて深く考察し高度な研究を行う能力を育てる。</p> <p>(37 山下 哲／1回) 臨床上問題となる疼痛の慢性・難治化に関する研究や薬物療法の最新知見とアンメットメディカルニーズの現状について概説する。</p> <p>(109 新谷 紀人／1回) がんの罹患に伴う精神機能の変化について、その臨床研究や基礎研究の現状を概説する。</p> <p>(111 中川 貴之／1回) がん支持療法・緩和ケアに関連する最近の動向や最新の知見について知識を修得する。</p> <p>(34 菱田 友昭／1回) がん創薬のためのマウスモデル・細胞モデルに関する知見をまとめ、メカニズム解明からの分子標的治療薬創生の現状と展望について概説する。</p>	オムニバス方式
特別科目	A区分 社会医学特別演習	<p>(概要) 法医学、環境保健予防医学、公衆衛生学、医療統計学、医療データサイエンス学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。</p> <p>(77 近藤 稔和、13 石田 裕子、43 野坂みずほ、131 石上安希子) 児童虐待・乳幼児突然死に関する最新の文献を読み発表し議論する。</p> <p>(78 藤吉 朗、14 東山 綾、142 竹村 重輝) ①生活習慣病の予防に関するトピックについて討議する。②統計ソフトの基本操作演習を行う。③「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を紹介する。適時e-learningを活用する。</p> <p>(15 牟禮 佳苗) 予防医学、特に先制医療としての個別化予防医学に重点をおき、実際のデータを用いて統計ソフトを使用して解析する。</p> <p>(1 下川 敏雄、68 万 可) 研究テーマに関連する最新の統計手法に関する論文を抄読し、研究動向を理解する。そのもとで、新たな統計手法を開発する。</p> <p>(1 下川 敏雄) 研究テーマに関連する論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。また、研究を遂行するうえで必要な統計手法の知識および統計解析環境Rでの解析方法について学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	A 区分	形態機能医学特別演習 (概要) 統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、人体の機能や構造などに係る形態機能医学の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。 (71 中田 正範、10 廣野 守俊) 生理学的研究手法を修得させ、実験動物等を用いてデータの収集を指導する。 (74 西谷 友重、39 納富 拓也、40 陳 以珊) 興奮性組織におけるイオンチャネル制御機構とその破綻による疾患に関し概説する。また最新の文献を読み、発表する機会を設ける。 (75 江幡 正悟、42 及川 恒輔、41 中西 雅子) がんの悪性化や転移に関する論文を読み、最新の研究動向を理解する。また、がん細胞の転移能亢進における分子メカニズムを明らかにする技術の修得を目指す。	
		細胞分子機能医学特別演習 (概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、分子病態解析学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。 (72 井原 義人、11 西辻 和親) 生体分子の代謝の統合とその医学生理学的意義について、講述や文献解説などを通じて学ぶ。 (73 井上 徳光、12 片山 圭一、129 馬場 崇) 補体関連疾患やがんの微小環境形成に関わる分子メカニズムを理解し、分子メカニズムの解明、診断方法の開発、治療戦略の開発をするために必要な知識や方法について考察し、理解を深める。 (81 橋本 真一、64 岩淵 禎弘) 分子病態解析学における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。また、臨床医学と連携した研究課題を中心に研究を進め、疾患における分子病態解析法について演習を行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。	
	B 区分	総合医療医学特別演習 (概要) 放射線医学、救急・集中治療医学、麻酔科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科・外科にとらわれない総合医療医学の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。 (95 園村 哲郎、119 南口 博紀、57 生駒 顕) 放射線治療についての論文を読み、討議する。また、スライドを用いて放射線治療についての講義を行う。 (24 上田健太郎、120 田村 志宣、58 米満 尚史、136 宮本 恭兵) 病院内の診療に加え、法的背景を含めて病院前医療の仕組み及びメディカルコントロール体制に関する理解を深め、我が国の救急医療体制の問題点を抽出する。 (96 川股 知之、25 水本 一弘、59 時永 泰行) 周術期医療に関する文献を読み理解を深めるとともに、議論する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分 器官病態内科学特別演習	<p>(概要) 糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科系の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。</p> <p>(82 松岡 孝昭、44 森田 修平) 糖尿病の発症に至る分子メカニズムについて解説し、そこから考えられる最適な治療について討論する。また、新知見の探求のための実験手技獲得に向け指導する。</p> <p>(83 山本 信之、16 中西 正典、45 早田 敦志) 呼吸器疾患のトピックスについての講義を行う。課題を選定し、それに対して発表及び教員と議論を行うことにより、より専門的な知識・技能を修得する。</p> <p>(84 田中 篤、17 北端 宏規、61 黒井 章央、133 塩野 泰紹、46 山野 貴司、65 太田 慎吾、66 尾崎 雄一、67 樽谷 玲) 循環器疾患に関するイメージングを用いた診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法の最新の研究手法及び成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。</p> <p>(85 荒木 信一、18 大矢 昌樹) 慢性腎臓病・透析医療に関する最新の論文を抄読・討議することで、最新の研究動向並びに研究手法を修得するとともに、新たな治療法探索のための課題について学習する。</p> <p>(87 藤井 隆夫、19 岩田 慈) 自己抗体（主として藤井が担当）およびB細胞（主として岩田が担当）の研究を通じて臨床の現場に還元しうる臨床的意義を探究する。他の研究者との交流を行うことで研究の仕方に修正を加えるとともに論文作成の準備を行う。</p>	
	器官病態外科学特別演習	<p>(概要) 脳神経外科学、整形外科、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、外科系の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。</p> <p>(20 西林 宏起、47 北山 真理、48 八子 理恵、49 中井 康雄) 脳卒中予防に関する最近の論文を抄読し、ディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養う。</p> <p>(21 岩崎 博、27 筒井 俊二、28 高見 正成、52 長田 圭司、51 西山 大介、50 福井 大輔) 運動器疾患の神経生理学的・生体力学的調査に関する概説的な講義を行うとともに、最新の文献を読み、教員と議論することにより、運動器疾患に関する理解を深める。</p> <p>(2 中川 幸洋) 脊椎脊髄疾患に関する治療の変遷及び低侵襲治療の開発と評価、現在開発中の低侵襲治療に関する評価と改良について検討を行う。</p> <p>(92 雑賀司珠也、100 岡田 由香、22 住岡 孝吉、26 小門 正英、29 田中 才一、30 白井 久美、53 岩西 宏樹、60 石川 伸之、54 高田 幸尚、55 安田 慎吾) 講義及び演習を行う。眼組織及び他臓器での創傷治癒や生体反応について講義する。並行した演習では、講義に関係する分野の最新論文を抄読することにより、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。また担当教員と議論の中で、眼組織創傷治癒に係る課題発見、研究結果の解析・解釈や発表方法について修得する。</p> <p>(93 保富 宗城、23 玉川 俊次、56 河野 正充) 人工内耳による聴覚、重心動揺計を用いた平衡覚評価、嗅覚障害動物モデルによる嗅覚再生機序研究の最近の動向を解説する。嚥下障害の評価と最近の嚥下改善手術の動向を解説する。また、頭頸部癌におけるパピローマウイルス・EBウイルスによる発癌機序、上皮間葉移行による転移機序、甲状腺癌における遺伝子変異に関する最近の研究動向を解説する。耳鼻咽喉科感染症の難治化と重症化、抗菌薬適正使用について解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	C 区分 物理・化学薬学特別演習	<p>(概要) 天然に存在するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物の機能開発研究に必要な高度かつ創造的な専門知識と、これらを駆使した問題解決能力及び研究能力を養成する。</p> <p>(① 平田 收正、31 朱 姝) 化学物質による健康被害や環境汚染の社会的背景や現状について概説し、その予防・防御方法について考察する。</p> <p>(105 中津 亨、32 入江 克雅) 生体高分子の構造生物学的研究に関する理論や研究手法を理解、議論し、問題解決能力を高める。</p> <p>(106 相馬 洋平、62 佐々木大輔) 有機化学の創造性を駆使し、生体分子（主にペプチド・タンパク質）を自在に改変することで新たな生命機能の同定を可能とするとともに、これを端緒とした革新的な医薬分子や創薬手法の創出に関して議論を行う。</p> <p>(107 田村 理、33 田中 千晶) 天然有機化合物の基原、構造と作用及び生体内における作用メカニズムに関する知識を修得する。</p>	
	生命薬学特別演習	<p>(概要) 遺伝子発現調節、中枢神経系機能異常に基づく慢性疾患の病態生理、体内動態などに関するテーマについて最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより研究結果の解釈や発表方法について深く学ぶ。</p> <p>(5 長野 一也、138 山下 琢矢) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入するための講義を双方向で行う。その上で、最新の文献を理解し、教員と議論することで、問題解決能力を高める。</p> <p>(108 長田 茂宏、34 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解を深める。</p> <p>(6 那波 宏之、126 木口 倫一、139 難波 寿明) 最新事例を踏まえて動物実験データの取り扱い、動物の手術技法、動物行動装置などの理解を深める。</p> <p>(4 太田 茂、127 佐能 正剛) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能に関する新しい知見を学び、疾患や副作用との関連性を議論する。</p>	
D 区分	医療薬学特別演習	<p>(概要) 医療薬学、薬品作用学、薬剤学の各分野において講義及び演習を行う。最新の論文を詳読し研究動向を学び、研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察し意見を述べる能力を養い、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(7 赤池 昭紀) 医療薬学分野において講義及び演習を行う。最新の論文を詳読し研究動向を学び、研究データの発表、議論を行うことで、幅広い視点から考察する能力を養い、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。</p> <p>(109 新谷 紀人、63 岩田 圭子) 薬理学・生命科学に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p> <p>(8 岩尾 康範、140 福田 達也) 薬剤学に関する最新の文献詳読、研究データの発表、議論を行う方法を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	D区分	臨床・社会薬学特別演習 (概要) 薬剤師としての臨床活動における研究テーマの設定・クリニカルクエストの作り方について学ぶ。 (9 松原 和夫) 薬剤師の臨床活動と患者アウトカムの改善に関する文献を検索し、今後の臨床薬剤師の方向性について討論する。 (111 中川 貴之、35 松本みさき) 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学に関する概説的な講義を行う。またこれらに関する最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、病院薬学研究に資する知識や技術を高める。 (113 江頭 伸昭、36 山田 孝明) 学生の研究テーマの発表を中心に報告会形式で行い、自身の研究内容の深い理解とともに理論立てて議論できる能力を修得する。また、研究テーマを含めた議論の中で、医療薬学や臨床薬理学等に関する理解を深める。 (115 今井 哲司、37 山下 哲) 慢性疼痛や睡眠障害の神経科学的な発症機序について講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより最新知見だけでなく、アンメットメディカルニーズや新規治療戦略に関する理解を深める。	
	A区分	社会医学特別研究 (概要) 法医学、環境保健予防医学、公衆衛生学、医療統計学、医療データサイエンス学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。 (77 近藤 稔和、13 石田 裕子、43 野坂みずほ、131 石上安希子) 法医学実務で遭遇する中毒・突然死モデルを作成し、その分子メカニズムの解析に係る研究を行う。 (78 藤吉 朗、14 東山 綾、142 竹村 重輝) ①論文作成に必要な背景知識(統計、倫理を含む)を理解し、指導のもと可能な限り関連した実務も行う。②研究テーマにつき学会発表を目指し、博士論文を執筆する。適時e-learningを活用する。 (15 牟禮 佳苗) 予防医学、特に先制医療としての個別化予防医学に重点をおき、公衆衛生学講座で行っているコホート研究に参加し、検体のゲノム情報やバイオマーカー等を測定して統計解析までを行い、また論文作成の指導を行う。 (1 下川 敏雄) 新たな統計手法を実際のデータサイエンスに活かすための統計パッケージの開発について指導する。また、シミュレーション等を通じて性能を評価するための技法について指導する。 (1 下川 敏雄) 研究テーマに沿った形式で作成されたデータベースシステムを用いて、統計的データ解析を実践するための方法について指導する。また、解析結果についてのリサーチクエストに対する考察を行うための研究能力を醸成させる。	
		形態機能医学特別研究 (概要) 統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。 (71 中田 正範、10 廣野 守俊) 疾患モデル動物を用いた生理学的研究によりデータを集積し、文献の収集と議論を行い、研究結果の解析と考察を進めて論文作成を指導する。 (74 西谷 友重、39 納富 拓也、40 陳 以珊) イオンシグナル制御異常による疾患の発症機構の解明、疾患モデルの構築、さらに治療薬の探索を行うための研究指導を行う。またデータの収集・解析、英文での執筆など論文作成のための指導を行う。 (75 江崎 正悟、42 及川 恒輔、41 中西 雅子) 遺伝子発現解析などを通じ、がんの治療標的の同定について指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	A区分	細胞分子機能医学特別研究 (概要) 代謝生物化学、分子遺伝学、分子病態解析学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。 (72 井原 義人、11 西辻 和親) タンパク質の“糖鎖/糖付加修飾”に焦点を絞り、糖質科学の観点から細胞機能を評価するため、生化学的な分離・精製、解析、分析について研究指導を行い、研究成果をもとに論文作成の指導を行う。 (73 井上 徳光、12 片山 圭一、129 馬場 崇) 補体関連疾患やがんの微小環境形成に関わる分子メカニズムを理解し、新規分子メカニズムの解明、新規診断方法の開発、新規治療戦略の開発について研究指導を行う。 (81 橋本 真一、64 岩淵 禎弘) 分子病態解析学において博士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。	
	B区分	総合医療医学特別研究 (概要) 放射線医学、救急・集中治療医学、麻酔科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。 (95 園村 哲郎、119 南口 博紀、57 生駒 顕) 放射線治療を行った前立腺癌や子宮頸癌の症例を後方視的に解析し、学会発表や論文作成の指導を行う。 (24 上田健太郎、120 田村 志宣、58 米満 尚史、136 宮本 恭兵) より良い救急医療体制を構築するために必要な救急医療の質的評価項目を探索し、実臨床に反映するための仕組み作りに関する研究指導を行う。メディカルコントロールの普及と教育に関連する論文作成を指導する。 (96 川股 知之、25 水本 一弘、59 時永 泰行) 周術期医療に関する研究を立案し、実行する。データ解析し、発表する。	
		器官病態内科学特別研究 (概要) 糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。 (82 松岡 孝昭、44 森田 修平) 糖尿病の発症に至る分子メカニズムに関する新知見の探求のための実験・研究を指導し、その結果の解釈につき討論する。 (83 山本 信之、16 中西 正典、45 早田 敦志) 呼吸器疾患に対する臨床試験などの研究立案、遂行について指導を行う。 (84 田中 篤、17 北端 宏規、61 黒井 章央、133 塩野 泰紹、46 山野 貴司、65 太田 慎吾、66 尾崎 雄一、67 樽谷 玲) 循環器疾患に関するイメージングを用いた診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法を用いた研究を指導し、論文作成を行う。 (85 荒木 信一、18 大矢 昌樹) 腎不全に伴う体内環境調節の破綻を理解し、問題解決のための臨床課題を自ら見出し、課題解決のための研究立案、遂行、解析を実践できるよう指導を行う。 (87 藤井 隆夫、19 岩田 慈) 当科で作成したコホートあるいは新規の研究コホートを用いて、国際学会にも発表しうる研究を行い、学会発表や論文作成を行う。免疫学にも関わる研究になるため、論文作成については基礎免疫研究室や薬学部とのディスカッションも組み入れる。	

授 業 科 目 の 概 要

(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 科目	B 区分 器官病態外科学特別研究	<p>(概要) 脳神経外科学、整形外科、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(20 西林 宏起、47 北山 真理、48 八子 理恵、49 中井 康雄) 脳神経外科学における脳腫瘍や脳卒中分野の研究計画の立案及び計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験が遂行できるように研究指導を行う。また、研究成果を発表するために論文作成指導を行う。</p> <p>(21 岩崎 博、27 筒井 俊二、28 高見 正成、52 長田 圭司、51 西山 大介、50 福井 大輔) 運動器疾患に関する神経生理学的・生体力学的解析を行い、運動器疾患の病態解明、治療法の開発に関する研究を行う。</p> <p>(2 中川 幸洋) 脊椎脊髄疾患に関する治療の変遷及び低侵襲治療の開発と評価、現在開発中の低侵襲治療に関する評価と改良についての研究指導および論文作成の指導を行う。</p> <p>(92 雑賀司珠也、100 岡田 由香、22 住岡 孝吉、26 小門 正英、29 田中 才一、30 白井 久美、53 岩西 宏樹、60 石川 伸之、54 高田 幸尚、55 安田 慎吾) 博士論文作成の指導を行う。研究課題の設定・研究計画の立案とともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。眼組織の生体反応に関して、日々の臨床活動や地域の保健医療での課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献することの重要性を説く。</p> <p>(93 保富 宗城、23 玉川 俊次、56 河野 正充) 病原微生物の保菌・感染・伝播における宿主細菌相互作用についての研究指導及び論文作成指導を行う。嗅覚障害の再生における感覚免疫機序についての研究指導及び論文作成指導を行う。また、扁桃病巣感染症における細菌叢と単一細胞解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。頭頸部癌・甲状腺癌における癌幹細胞の同定と解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。</p>	
C 区分	物理・化学薬学特別研究	<p>(概要) 天然に存在する新規の生理機能を有するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物の探索と、これらの物質に対する高度な機能解析、構造生物学的解析や有機化学的変化による機能強化、さらには疾病の予防・治療の開発に向けた応用研究を行う。</p> <p>(① 平田 収正、31 朱 姝) 化学物質による健康被害や環境汚染の社会的背景や現状について概説し、その予防・防御方法について研究を行う。</p> <p>(105 中津 亨、32 入江 克雅) 生体高分子メカニズムの構造基盤解明及び構造生物学的解析法の高度化に関する研究を行う。</p> <p>(106 相馬 洋平、62 佐々木大輔) 有機化学の創造性を駆使し、生体分子（主にペプチド・タンパク質）を自在に改変することで新たな生命機能の同定を可能とするとともに、これを端緒とした革新的な医薬分子や創薬手法の創出に関する研究を行う。</p> <p>(107 田村 理、33 田中 千晶) ターゲットとする生理活性を示す天然有機化合物を単離及び構造決定をするとともに、作用に関する生物化学的研究を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学総合研究科生命医療科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別科目	C区分 生命薬学特別研究	<p>(概要) 遺伝子発現調節、中枢神経系機能異常に基づく慢性疾患の病態生理、体内動態などに関するテーマについて博士論文作成指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的に実験の実施、研究データの収集及び解析を遂行する。</p> <p>(5 長野 一也、138 山下 琢矢) 体内動態を基盤とした未病・疾患の理解と制御に関する研究を行う。</p> <p>(108 長田 茂宏、34 菱田 友昭) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する課題を設定し、専門的知識・技術を活用しながら研究活動を行う。</p> <p>(6 那波 宏之、126 木口 倫一、139 難波 寿明) 疼痛や精神疾患など感覚性機能障害を伴う脳神経疾患の最先端研究を紹介し、当該研究の重要性、課題、発展性を理解してもらう。</p> <p>(4 太田 茂、127 佐能 正剛) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性を見極めるための研究を行う。</p>	
	D区分 医療薬学特別研究	<p>(概要) 医療薬学の各分野において博士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法や実験手技を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。</p> <p>(7 赤池 昭紀) 医療薬学の各領域に関わる最新の情報を収集し、研究計画を立案し、最新の手法を駆使して研究を行う。</p> <p>(109 新谷 紀人、63 岩田 圭子) 薬理学・生命科学領域の科学技術の発展に資する新しい研究課題を立案・設定し、多様な実験アプローチによる究明を図るとともに、論文の執筆等を通じて成果公表につなげる。</p> <p>(8 岩尾 康範、140 福田 達也) 薬剤学に関わる最新の情報を収集し、研究計画を立案し、最新の手法を駆使して研究を行う。</p>	
	臨床・社会薬学特別研究	<p>(概要) 臨床研究を行う上で最も重要なクリニカルクエスチョンを設定し、「①どのような患者に、②どのような評価・治療をしたら、③何と比較して、④どのような結果になるか？」という4つの要素に定式化し、薬学領域における臨床研究を行う。</p> <p>(9 松原 和夫) 医薬品適正使用及び新たな薬剤師業務の構築・評価に関する研究を行う。</p> <p>(111 中川 貴之、35 松本みさき) 病院診療記録や医療ビッグデータ等から得られた様々な臨床課題をもとに実験モデル構築、治療標的の探索、予防/治療薬開発等の基礎研究を行い、その成果を臨床に還元するリバース・トランスレーションリサーチを行う。</p> <p>(113 江頭 伸昭、36 山田 孝明) 医療薬学、臨床薬理学等に関する設定された研究テーマのもとで特別研究を行うことにより、高度な技術・知識を修得する。</p> <p>(115 今井 哲司、37 山下 哲) 末梢神経障害や睡眠障害を中心とした神経疾患の発症機序解明を目的とした研究指導を行う。また、見出した治療標的に基づく新たな原因療法開発の実践・推進に必要なスキル修得を目的とした指導を行い、アンメットメディカルニーズに挑戦する高度医療人材の養成を目指す。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

公立大学法人和歌山県立医科大学大学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
和歌山県立医科大学				和歌山県立医科大学				
医学部				医学部				
医学科	100	-	600	医学科	100	-	600	
保健看護学部				保健看護学部				
保健看護学科	80	-	320	保健看護学科	80	-	320	
薬学部				薬学部				
薬学科	100	-	600	薬学科	100	-	600	
計	280	-	1520	計	280	-	1520	
和歌山県立医科大学大学院				和歌山県立医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
医科学専攻(M)	14	-	28					
地域医療総合医学専攻(4年制D)	14	-	56					
構造機能医学専攻(4年制D)	10	-	40					
器官病態医学専攻(4年制D)	18	-	72					
保健看護学研究科				保健看護学研究科				
保健看護学専攻(M)	12	-	24	保健看護学専攻(M)	12	-	24	
保健看護学専攻(3年制D)	3	-	9	保健看護学専攻(3年制D)	3	-	9	
				医学薬学総合研究科				
				生命医療科学専攻(M)	14	-	28	研究科の設置(認可申請)
				生命医療学専攻(4年制D)	35	-	140	
				生命医療科学専攻(3年制D)	7	-	21	
計	71	-	229	計	71	-	222	